

早稻田大学

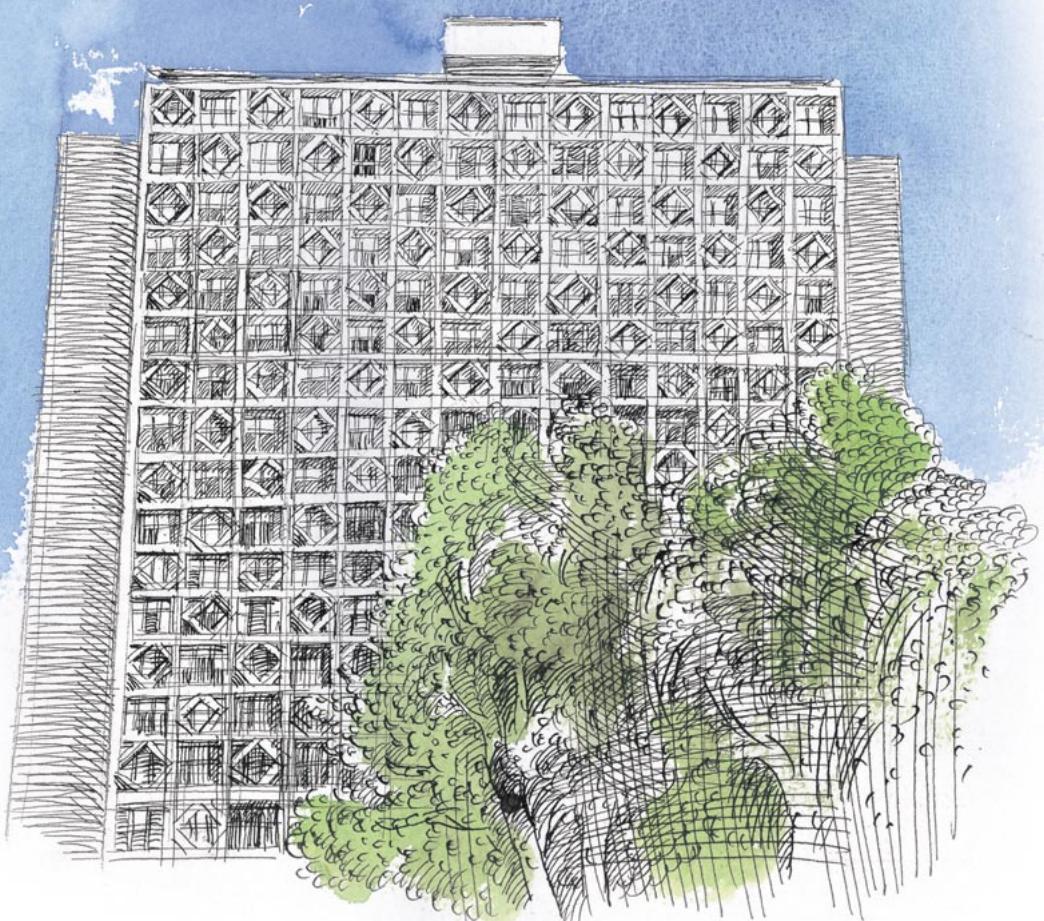
SCHOOL OF FUNDAMENTAL SCIENCE AND ENGINEERING, WASEDA UNIVERSITY

基幹理工学部要項



SCIENCE and ENGINEERING
早稻田大学理工学部創設100周年

2008



基幹理工学部「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」

地球環境問題をはじめとする負の遺産に直面した現在、我々は大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から持続可能な社会の実現に向かって大きく舵をとらなければならない時代を迎えたといつても過言ではない。このような状況の中で、科学技術に関する広い知識と人文・社会科学系の知を含む幅広い教養を備え、将来への洞察力をもち新しい時代を切り拓く人材が求められている。このため、理工学の基礎をきちんと修得し、これをもとに各専門分野あるいは新しい学問領域に取り組む能力を涵養して、新しい時代に挑戦する人材の育成をめざす。

2008年度 基幹理工学部要項

早稻田大学
基幹理工学部

この要項は、学業を進めていくうえで必要不可欠な基本的な事項を収録したものであり、卒業時まで使用するので紛失しないように十分に注意すること。

履修や学生生活に必要な情報はほぼ網羅されているので、日常的に確認し、わからないことがある場合にはこの要項をよく読むこと。

なお、本学ではホームページを開設し、インターネットを通じた情報発信を行っている。

アクセス方法は次ページの通りなので、常時確認すること。

Waseda-netポータル／Waseda-netメール

早稲田大学の学生・教職員・校友が共通して利用する基盤システムで、この「ポータル（玄関）」からログインすることにより、利用者の資格、属性に応じたサービスや情報を得ることができる（授業の科目登録、試験、レポートなど履修に関することや、講演会やセミナー、シンポジウム、公開行事の案内など）。

Waseda-netメールはWebブラウザがあれば、どこでも利用できるWebメールサービス。このアドレスは卒業してからも使用できる。

<https://www.wnp.waseda.jp>



ログインには、入学時に登録手続きを行う
Waseda-netのIDとパスワードが必要。

授業支援ポータル「Course N@vi」

「Course N@vi」は講義資料のダウンロード機能や小テスト機能などを備えた授業サポートツール。Waseda-netポータルにログインし、左メニュー「授業」より、「Course N@vi」を選択して利用する。

理工系学生ページ

「理工系学生ページ」は、理工学術院が授業支援などのために独自に作成しているページ。Waseda-netポータルにログインし、左メニューから「理工系学生ページ」を選択して参照する。このページでは、科目登録結果、休講情報などの個人向けの情報を閲覧することができる。

最低でも週に1回はチェックすること。



理工系学生ページ

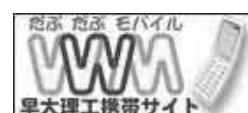
理工学術院ホームページ

理工学術院から発信される各種情報を掲載している。科目登録情報や奨学金情報など重要な情報が随時更新される。

<http://www.sci.waseda.ac.jp/>

携帯電話対応Webサイト

携帯電話対応Webサイト「WWモバイル」を開設している。理工学術院からの連絡や休講情報、講演会情報、端末室の利用状況などを携帯電話を利用して時間や場所を問わず参照することが可能。休講情報を参照するためにはアクセス・コードが必要。アクセス・コードは「理工系学生ページ」で確認すること。



携帯電話対応Webサイト「WWモバイル」のQRコード

※要項の内容は変更になることがあるので、これらのページを常時確認すること。

CONTENTS

I 基幹理工学部の特徴	1
II 基幹理工学部の沿革と概要	3
III 基幹理工学部要項	9
1 単位制	9
2 学位・卒業	9
3 進級制度	9
4 3年次進学時の転科	10
5 学費の納入と抹籍	10
6 学科目の系列	12
7 A群科目（複合領域科目、外国語科目）	14
8 B群科目（数学、自然科学、実験・実習・制作、情報関連科目）	31
9 C群科目（専門教育科目）	35
10 学科別C群科目配当表および学修案内	36
数学科	36
応用数理学科	39
情報理工学科	42
機械科学・航空学科	46
電子光システム学科	49
表現工学科	52
11 D群科目（保健体育・自主挑戦科目）	56
12 他学科・他学部・他学術院等設置科目の聴講	57
13 教員免許状の取得方法	61
14 履修科目の登録	75
15 授業時間帯	75
16 試験	75
17 レポート・論文作成にあたっての注意事項	76
18 成績の表示	76
19 復学者、再入学者、学士入学者の履修方法	77
20 科目等履修生・外国学生・帰国生	77

- I 特徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付録

I	特　徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付　録

IV 学生生活 79

1	学生の手帖（Compass）	79
2	理工学術院および基幹理工学部ホームページ	79
3	学籍番号	79
4	クラス担任制度	79
5	学生相談	80
6	大学院への進学	82
7	就職	82
8	学生証	83
9	各種証明書類の交付	84
10	各種願・届の提出	85
11	奨学金制度	86
12	掲示	87
13	教室・共通ゼミ室の使用	89
14	学生の課外活動	89
15	安全管理	90
16	海外留学等	91
17	理工リエゾンオフィス	92
18	禁煙キャンパス	93
19	自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止	93
20	理工学図書館・学生読書室	93
21	コンピュータ・ルーム	95
22	実験施設紹介	96
23	総合健康教育センター大久保分室	99
24	交通機関のストライキと授業	100
25	天候悪化（台風・大雪等）による休講等の取扱いについて	100

V 付　録 103

1	早稲田大学学則（抜粋）	103
2	早稲田大学校歌	107
3	早分かりURL・電話番号	108
4	キャンパスマップ	110

I 特 徵

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

I

基幹理工学部の特徴

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

基幹理工学のめざすところ

科学技術の領域は飛躍的に大きな広がりを呈し、それに対応して、そのそれぞれの領域は分化・深化してきた。大学における教育研究体制もこれに呼応した形で発展してきた。しかしながら、それぞれの専門分野の一層の発展と同時に、新しい価値観の創造、新しい科学技術分野あるいは学問分野の開拓が強く求められる時代を迎えた。これにともない、改めて地球規模で考え方行動し、新しい時代を切り拓く人材を育成する教育研究の展開が求められることとなった。

基幹理工学部は、人文・社会学系の素養の上に科学技術の基幹となる数学をはじめとする理工系の素養を身に付け、その上で現在の科学技術さらには新たに展開される次世代の社会を支える科学技術の基幹を担う数理科学、情報科学、機械科学、材料科学、電子光科学、表現科学等の基本を学習し、新しい分野に創造的に取り組む能力を備えた人材の育成を基本理念とする。

新しい時代の科学技術

文明の潮流に科学技術が大きなかかわりをもって久しい。そして、科学技術は種々の意味で人類の可能性を大きく広げると同時に、いわゆる豊かな社会の実現に大きく貢献してきた。しかしながら、その反動として地球環境問題をはじめとする負の遺産に直面することにもなった。この結果、科学技術はこの課題を背負いつつ、大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から持続可能な社会の実現に向かって大きく舵をとらなければならない時代を迎えたと言っても過言ではない。

このような状況の中で科学技術に関する広い知識と、人文・社会科学系の知を含む幅広い教養を備え、将来への洞察力をもち新しい時代を切り拓く人材の育成が今求められている。

また同時に、学問の枠組み・意味さらには学問とその活用の関係を新しい時代に対応して再構築することが大きな時代の要請となってきた。

そこで、本学部は社会を支えるキー・テクノロジーである情報、機械、エレクトロニクス、物質・材料、エネルギー、情報に関する基礎的科学技術とその根幹にある数学および両者の掛け橋となる応用数理を軸として新たな教育・研究を展開しようとするものである。そして、幅広い教養の上に理工学の基礎をきちんと修得し、これをもとに各専門分野あるいは新しい学問領域に取り組む能力を涵養し、新しい時代を切り拓き世界で活躍しうる人材の育成をめざす。

1年で幅広い知識を身に付ける

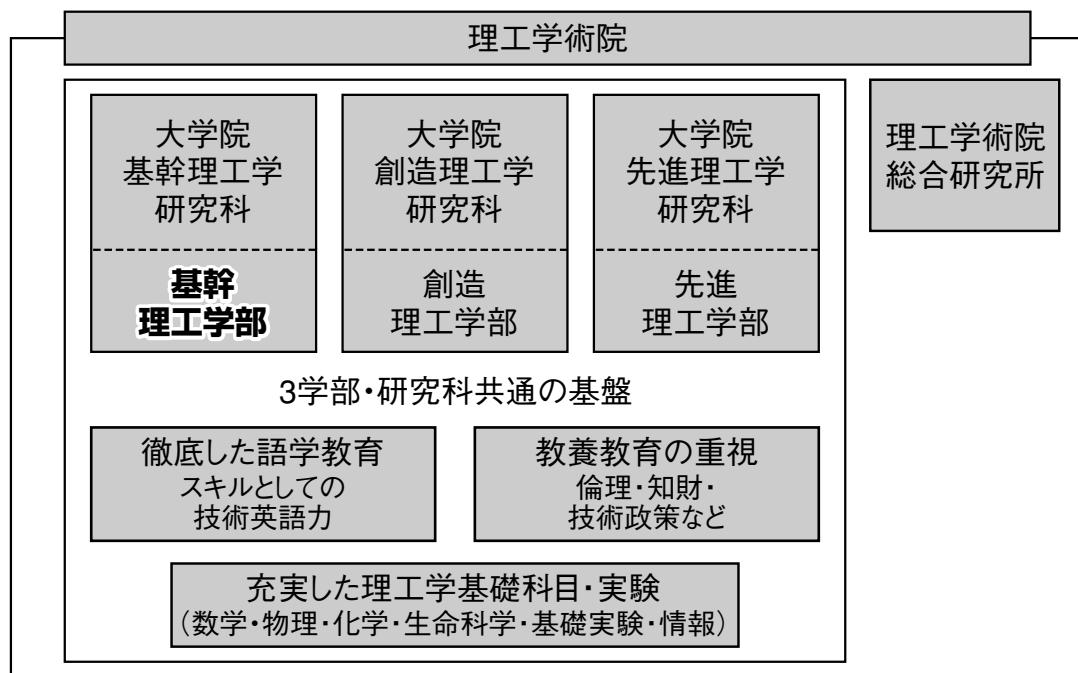
1年次は学部共通のカリキュラムによって、理工系の幅広い基礎をしっかりと修得することに力点がおかれる。同時に、自分は将来どのような分野に進むべきかについて時間をかけて考えることになる。

1年次のカリキュラムは数理科学の基礎（微積分、線形代数など）、基礎工学（モデリング、理工学基礎実験）、情報科学・表現工学（コンピューティングと表現）、複合領域科目、語学などで構成される。2年次に進級する段階で、志望の専門分野に応じ学科を決めることになる。学部3、4年次では、それまでの受身的な学習から一転、能動的な学習になる。基本と応用を学びながら課題に取り組み、問題解決能力を身に付けていく。

次世代を担う研究者・科学技術者の育成

基幹理工学部では、学部と大学院（修士課程）の一貫教育体制をとる。そして、基本的には志望する専攻へ進学することが可能である。（いくつかの条件は付される。）なお、志望する分野によっては理工学術院内の創造理工学研究科、先進理工学研究科あるいは大学院国際情報通信研究科等への進学も可能である。（受け入れ側の了解は必要である。）そして、大学院修士課程における教育研究を通して次世代を担う研究者・科学技術者としてスタートを切ることができる。

〈理工学術院 組織構成〉



I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

II

基幹理工学部の沿革と概要

創立者大隈重信が理工系の人材を養成する必要を痛感して、私学にとって不可能と思われていた理工科の新設を決定したのは明治41年（1908）2月であり、早稲田大学理工学部は日本の私立大学の理工系学部教育機関としては最も古い歴史をほこっている。明治45年（1912）第1回卒業生37人を世に送って以来、今日までに多数の人びとが学窓を巣立ち、社会の多方面の分野で活躍してきた。

以下は本学部の略史である。

沿 革

- 1882年10月(明治15年) 東京専門学校創設、大隈英麿校長就任
- 1887年 9月(明治20年) 大隈英麿退任、前島密校長就任
- 1890年 7月(明治23年) 前島密退任、鳩山和夫校長就任
- 1902年10月(明治35年) 早稲田大学開校 大学部、専門部、高等予科、研究科を設置
- 1907年 4月(明治40年) 大隈重信総長、高田早苗学長就任
- 1908年 2月(明治41年) 工理科を新設し、機械、採鉱、電気、土木、建築、応用化学の6学科を漸次設置することを決定
- 4月 先ず機械、電気の2学科の予科開設
- 9月 阪田貞一理工科々長就任
- 1909年 2月(明治42年) 前記の6学科設置の計画に冶金学科を加えて7学科とする
- 4月 採鉱、建築両学科の予科開設
- 9月 機械、電気両学科の本科授業開設
- 1910年 9月(明治43年) 採鉱、建築両学科の本科授業開設
- 1911年 5月(明治44年) 早稲田工手学校開設
恩賜記念館竣工
- 1915年 8月(大正4年) 高田早苗退任、天野為之学長就任
- 1916年 4月(大正5年) 応用化学科予科開設
- 9月 阪田貞一理工科々長退任、浅野応輔就任
- 1917年 2月(大正6年) 採鉱学科を採鉱冶金学科と改称
- 8月 天野為之学長退任
- 9月 応用化学本科の授業開設
- 1918年10月(大正7年) 平沼淑郎学長就任
- 1920年 4月(大正9年) 新大学令による大学となり、理工科を理工学部と改称 科長浅野応輔が学部長となる
- 1921年10月(大正10年) 平沼学長退任、塩沢昌貞学長就任、浅野学部長退任、山本忠興理工学部長就任
- 1922年 1月(大正11年) 大隈重信薨去
- 1923年 5月(大正12年) 学長制廃止、高田早苗総長就任
- 1927年10月(昭和2年) 大隈記念大講堂落成
- 1928年 4月(昭和3年) 早稲田高等工学校設置
- 10月 演劇博物館開館
- 1931年 6月(昭和6年) 高田総長退任、田中穂積総長就任

I 特 徴	1935年 4月(昭和10年) 各学科に工業経営分科開設
II 沿革と概要	1938年 4月(昭和13年) 応用金属学科開設、鑑物研究所開設
III 学部要項	1939年 4月(昭和14年) 専門部工科開設
IV 学生生活	1940年 4月(昭和15年) 理工学部研究所設置(1943年(昭和18年)改組、理工学研究所となる)
V 付 錄	1942年 4月(昭和17年) 電気工学科の第2分科が電気通信学科として独立
	10月 応用化学科に石油分科新設(1943年(昭和18年)4月石油工学科として独立、1946年(昭和21年)4月燃料化学科と改称)
	1943年 4月(昭和18年) 工業経営学科及び土木工学科設置
	10月 山本学部長退任、内藤多仲理工学部長就任
	1944年 9月(昭和19年) 田中総長逝去、中野登美雄総長就任
	1946年 1月(昭和21年) 中野総長退任、林癸未夫総長事務取扱に就任
	4月 早稲田工業学校開校(工手学校は1948年(昭和23年)11月廃校)
	6月 島田孝一総長就任
	10月 内藤学部長退任、山本研一理工学部長就任
	1948年 4月(昭和23年) 早稲田工業学校を新制工業高等学校に改組
	1949年 4月(昭和24年) 新制早稲田大学開設(11学部) 第一理工学部には機械、電気、鉱山、建築、応用化学、金属、電気通信、工業経営、土木、応用物理、数学の11学科、 第二理工学部には、機械、電気、建築、土木の4学科を設置 山本研一第一理工学部長、堤秀夫第二理工学部長就任
	10月 堤秀夫第一理工学部長、帆足竹治第二理工学部長就任
	1951年 4月(昭和26年) 新制早稲田大学大学院6研究科設置(修士課程) 工学研究科には機械工学、電気工学、建設工学、鉱山及金属工学、応用化学の5専攻を設置
	10月 専門部及び高等工学校廃止 伊原貞敏第一理工学部長就任、帆足竹治第二理工学部長再任
	1953年 4月(昭和28年) 大学院6研究科に博士課程を設置
	1954年 4月(昭和29年) 工学研究科修士課程に応用物理学専攻を設置 9月 島田総長退任、大浜信泉総長就任 青木楠男第一理工学部長、木村幸一第二理工学部長就任
	1956年 2月(昭和31年) 生産研究所設置(1975年(昭和50年)4月システム科学研究所と改称) 9月 高木純一第一理工学部長、広田友義第二理工学部長就任
	1957年10月(昭和32年) 早稲田大学創立75周年
	1958年 4月(昭和33年) 理工学部創立50周年 9月 大浜信泉総長再任、高木純一第一理工学部長、広田友義第二理工学部長再任
	1960年 9月(昭和35年) 難波正人第一理工学部長、鶴田明第二理工学部長就任
	1961年 4月(昭和36年) 鉱山学科を資源工学科と名称変更、大学院研究科を数学専攻設置に伴い理工学研究科と名称変更

- 1962年 9月(昭和37年) 大浜信泉総長再任、難波正人第一理工学部長、鶴田明第二理工学部長再任
 10月 早稲田大学創立80周年
- 1963年 9月(昭和38年) 大久保キャンパス新校舎第一期工事完成
- 1964年 4月(昭和39年) 産業技術専修学校開設
 9月 難波正人第一理工学部長（兼第二理工学部長）再任
- 1965年 3月(昭和40年) 大久保キャンパス新校舎第二期工事完成
 4月 物理学科開設
- 1966年 5月(昭和41年) 大浜信泉総長退任、阿部賢一総長代行就任
 9月 阿部賢一総長就任、難波正人第一理工学部長（兼第二理工学部長）再任
- 1967年 3月(昭和42年) 大久保キャンパス新校舎第三期工事完成
 4月 理工学部全学科の移転を完了
 10月 村井資長理工学部長就任
- 1968年 4月(昭和43年) 第二理工学部廃止、第一理工学部を理工学部に名称変更、工業高等学校廃止
 6月 阿部賢一総長退任、時子山常三郎総長就任
 9月 村井資長理工学部長再任
- 1969年 7月(昭和44年) 村井資長学部長退任、吉阪隆正理工学部長就任
- 1970年 9月(昭和45年) 吉阪隆正理工学部長再任
 10月 時子山常三郎総長退任、村井資長総長就任
- 1972年 4月(昭和47年) 電気通信学科を電子通信学科と名称変更
 9月 平嶋政治理工学部長就任
- 1973年 4月(昭和48年) 化学科開設
- 1974年 9月(昭和49年) 平嶋政治理工学部長再任
 10月 村井資長総長再任
- 1976年 9月(昭和51年) 村上博智理工学部長就任
- 1978年 4月(昭和53年) 産業技術専修学校を専門学校に改組
 9月 村上博智理工学部長再任
 11月 村井資長総長退任、清水司総長就任
- 1979年 3月(昭和54年) 65号館竣工（化学系研究室等及び小倉記念館の移転完了）
- 1980年 9月(昭和55年) 加藤忠蔵理工学部長就任
- 1982年 4月(昭和57年) 理工学部一般高校推薦入学制度開始
 9月 加藤忠蔵理工学部長再任
 10月 早稲田大学創立100周年
 11月 清水司総長退任、西原春夫総長就任
- 1984年 9月(昭和59年) 加藤一郎理工学部長就任
- 1986年 9月(昭和61年) 加藤一郎理工学部長再任
 11月 西原春夫総長再任
- 1987年 4月(昭和62年) 金属工学科を材料工学科と名称変更
- 1988年 4月(昭和63年) 理工学部創立80周年

I 特 徴	9月	平山博理工学部長就任
II 沿革と概要	10月	鑄物研究所を各務記念材料技術研究所と改称
III 学部要項	1990年 9月(平成 2年)	加藤榮一理工学部長就任
IV 学生生活	11月	西原春夫総長退任、小山宙丸総長就任
V 付 錄	1991年 4月(平成 3年)	情報学科開設
	1992年 4月(平成 4年)	数学オリンピック成績優秀者に対する特別選抜入試制度実施
	9月	宇佐美昭次理工学部長就任
	1993年 3月(平成 5年)	理工系新棟(55号館)完成
	4月	理工学研究所を理工学総合研究センターに改組
	1994年 2月(平成 6年)	理工学部学生ラウンジ完成
	9月	宇佐美昭次理工学部長再任
	11月	小山宙丸総長退任、奥島孝康総長就任
	1996年 4月(平成 8年)	電気工学科を電気電子情報工学科と名称変更。 工業経営学科を経営システム工学科と名称変更
	9月	宇佐美昭次理工学部長再任
	1997年 4月(平成 9年)	電子通信学科を電子・情報通信学科と名称変更
	12月	ハイテクリサーチセンター竣工
	1998年 4月(平成 10年)	理工学部創立90周年 資源工学科を環境資源工学科と名称変更 材料工学科を物質開発工学科と名称変更 数学科を数理科学科と名称変更
	9月	宇佐美昭次理工学部長再任
	11月	奥島孝康総長再任
	2000年 9月(平成12年)	尾島俊雄理工学部長就任
	2002年 4月(平成14年)	創成入試(AO方式)制度実施
	9月	足立恒雄理工学部長就任
	11月	奥島孝康総長退任、白井克彦総長就任
	2003年 4月(平成15年)	土木工学科を社会環境工学科と名称変更 電気電子情報工学科、電子・情報通信学科、情報学科を 電気・情報生命工学科、コンピュータ・ネットワーク工学科に再編
	9月	「特色ある大学教育支援プログラム(COL)」 (マレーシア)ツイニング(プログラム)による国際化への積極的取組 採択 (13大学共同)
	2004年 6月(平成16年)	経営システム工学科が日本技術者教育認定機構(JABEE: Japan Accreditation Board for Engineering Education)の認定を受ける
	9月	足立恒雄理工学部長再任 理工学術院設置
	2006年 9月(平成18年)	橋本周司理工学術院長就任 河合素直基幹理工学部長就任

理工学総合研究所と各務記念材料研究所を統合し、理工学統合研究センターを設置	
11月	白井克彦総長再任
2007年 4月(平成19年)	理工学部を基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部に再編 基幹理工学部には数学科、応用数理学科、情報理工学科、機械科学・航空学科、電子光システム学科、表現工学科の6学科を設置
6月	グローバルCOEプログラム「『実践的化学知』教育研究拠点」(拠点リーダー 黒田一幸) および「アンビエントSoC教育研究の国際拠点」(拠点リーダー 後藤敏) 採択
9月	大学院教育改革支援プログラム「超専攻型融合テーマスタディクラスター教育」(拠点リーダー 梅津光生) 採択
10月	早稲田大学創立125周年
2008年 4月(平成20年)	63号館完成(予定) 50号館完成(予定) 理工学部創立100周年

概 要

数学科は、数学を幅広く捉え、代数・幾何・解析・統計から計算機科学に至る広範な数学の知識を修得できる学科である。整数論、代数幾何学、代数解析学、微分幾何学、トポロジー、偏微分方程式論、実解析学、変分問題、数学基礎論、数値解析、数理物理学のスタッフがそろい、日本でも類を見ない教育研究体制が可能となっている。さらに、応用数理学科と密接な連携を取ることにより、応用数学に関してもカリキュラムの一層の充実が行われる。

応用数理学科は、数学科と有機的連携を持ち、数学を中心とする理学的素養を身につけ、その上で創造的な応用研究ができる人材を育成することを理念とする学科である。また、基礎を徹底的に極めることにより、具体的な問題から新しい数学理論の創造に至るケースも多く、真に深い応用は数学的にも深く美しい結果にその原理が帰着する。このように、自然科学・社会科学現象や工学現象の研究を通して、新しい数学理論を創造できる人材を育成することも当学科の目標である。

情報理工学科は、情報技術の急速な進展に対する強い社会的な要請に鑑み、ICT分野の中核をなす、情報科学・情報工学・情報通信工学について、基礎から先端技術まで、ハードウェアからソフトウェアまで、技術領域相互の関係を考慮しながらバランスよく有機的に理解させる教育体系を実現する。このため、核を構成する各学問分野に対応した、情報科学コース、電子情報システムコース、メディア・通信コースの3つのコースを用意し、当該学問領域の構成・相互関係を理解しやすく学習を進めることが可能なカリキュラムを用意する。また、実験と実習を重視し、関連分野の理論体系とそのシステム化の関連について深い理解を促す。多くの情報系学科がソフトウェア系の教育に傾倒しがちであるが、ソフトウェアとハードウェアの双方に精通することが今後より強く求められるとの認識に立って、ハードウェア教育も重視する。また、官および産業界との密接な関係を生かしたインターシップによる実務の経験を得る機会がふんだん

に用意されているのも特色の一つである。

これらの教育を通じて、絶えず急速に進展する情報・通信関連技術の研究・開発に対応して、柔軟な発想により技術の創造的な展開と新たなシステムを開発する能力を養うことを目指す。

機械科学・航空学科は、一つの大きな特異分野であると考えられてきた航空分野を、広い意味で機械工学分野の一部と捉えなおし、その分野に対して新たに展開する意図で設立されている。

教育面では科学系の数学・物理などの基礎を背景とした機械系力学すなわち材料力学、流体力学、熱力学およびメカニクス（力学）を中心とした講義、演習、実験、実習をベースとする。これらの学問は、過去の実績や未来を展望するとき、機械系エンジニアがあらゆる産業界で高い信頼を得て永続的活動をするために必須であり、世界に共通するエンジニアとしての道具である。さらに、これらの学問やさまざまな技術を統合して、あらゆる問題を解決する高い能力を備えたエンジニアの養成を目指す。この系統的な学術大系に立脚し、学部と大学院修士課程の一貫教育を原則とする。これらの学問体系は既存技術の高度化・発展に役立つだけでなく、深い造詣と他の追随を許さない新分野展開にも応用できると信じている。

一方、研究面では、航空を加えた新しい分野で着実な研究を展開していく。学部・大学院のコース制度を充実させ、今後は機械工学および航空工学分野のより一層の発展のみならず、さらに高速安全化輸送、高度動力エネルギー、高機能性材料・加工、高精度モデリングなどの分野にも展開させて行く。

電子光システム学科は、次世代の高度情報化社会で、重要な学問分野である材料科学、電子工学、フォトニクスについて体系的な教育を提供することを目的として設立された。

具体的には、電磁気学、回路理論、情報工学などの電子工学基礎分野、量子力学、固体物性、ナノテクノロジーなどの物質科学分野、電子デバイス、光デバイスや光通信システム、MEMSなどの電子工学・フォトニクス分野、およびシステムLSI設計、センサネットワークなどの機能集積システム分野、さらに細胞生物学や医用電子工学分野など、ナノからマクロシステムまでの幅広い学問分野を、体系的に学習するカリキュラムを実現している。

その教育方法は少人数教育のメリットを最大限に生かし、年次進行により電子光システム分野を基礎から高度な学問を分かりやすく、かつ無理なく学習することを可能としている。大学院教育は、それぞれの領域に対応した専攻、研究科の修士課程に進学する一貫教育体制を原則としている。

このような教育システムにより、電子光システム分野において、幅広い視野を持ち、創造力のあるスペシャリストの養成が可能になり、次世代の豊かな高度情報化社会をデザインし、活躍できる人材の育成を目標としている。

表現工学科は、科学技術とアートの融合的進化を見据え、「視覚表現」「聴覚表現」、そして今後現れるであろう「第三の表現」を模索して行く。具体的には「技術を理解する芸術家」と「芸術を理解する技術者」、またそれらを統括する「アート・マネージメント」のための人材を養成するための教育、研究を行う。

個々の教育では生活に密着した具体的なプロジェクトに、技術系、芸術系、アート・マネージメント系の学生が共に参加し、共通のテーマ、あるいは共通の作品制作を通して科学技術と芸術の接点や問題点を検証する。こうした中から「科学技術を深く理解し、その意味を問いかけ、応用する技術・作品を創造する能力」「芸術の側からの、発想に応える技術の開発が出来る能力」を養うことを目的としている。こうした科学技術とアート双方の融合的進化は、国際的な拡がりを持つ映像、音楽、コンテンツ産業に匹敵する、新しい「産業」を創成することが期待される。

III

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

基幹理工学部要項

1 単位制	1. 単位制
2 学位・卒業	2. 学位・卒業
3 進級制度	3. 進級制度
4 3年次進学時の転科	4. 3年次転科
5 学費の納入と抹籍	5. 学 費
6 学科目の系列	6. 学科目系列
7 A群科目（複合領域科目、外国語科目）	7. A群科目
8 B群科目（数学、自然科学、実験・実習・制作、情報関連科目）	8. B群科目
9 C群科目（専門教育科目）	9. C群科目
10 学科別C群科目配当表および学修案内	10. 学科別案内 (C群科目)
数学科	数学
応用数理学科	応数
情報理工学科	情報
機械科学・航空学科	機航
電子光システム学科	電子
表現工学科	表現
11 D群科目（保健体育・自主挑戦科目）	11. D群科目
12 他学科・他学部・他学術院等設置科目の聴講	12. 他学部講義
13 教員免許状の取得方法	13. 教職免許
14 履修科目の登録	14. 科目登録
15 授業時間帯	15. 授業時間帯
16 試験	16. 試 験
17 レポート・論文作成にあたっての注意事項	17. レポート・ 論文作成
18 成績の表示	18. 成績の表示
19 復学者、再入学者、学士入学者の履修方法	19. 復学者、 再入学者等
20 科目等履修生（一般履修生・委託履修生）・外国学生・帰国生	20. 科目等履修生 外国学生等

1 単位制

大学では、単位制が採用されている。単位制とは、一定の基準にしたがって学科目を履修し、所定の試験に合格することによって単位を修得し、総単位数が所定の数に達することによって学士の学位が与えられる制度である。

各学科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮し、計算される。

1年間に登録できる単位数の上限を54単位とする。ただし教職課程科目など卒業必要単位に算入されない科目（自由科目）は、これに含めない。

2 学位・卒業

本学部では、4年以上在学し、所定の卒業必要単位数以上を修得した者を卒業とし、学士の学位を与える。ただし、在学年数は8年（学士入学者は4年）を超えることはできない。

なお、本学部の卒業年月日は、当該年度3月15日付である。

修業年限内に、一部の学科目が単位未修得のため卒業できなかった者が、次の基準に該当した場合は、指導教員の推薦の上、次年度の前期終了後（9月15日付）に卒業することができる。

- ① すでに履修した学科目につき、未受験または不合格のため卒業できなかった者が、次年度の前期中に当該学科目を履修した上で試験に合格した場合。
- ② 履修しなかった学科目につき、次年度の前期に履修の上、試験に合格した場合。ただし、原則として前期で講義の終了する学科目に限る。
- ③ 卒業論文、卒業計画、卒業研究の未提出または不合格の理由により卒業できなかった者が、次年度の前期に論文等を提出し、合格した場合。
- ④ 9月卒業で修得できる単位は、上記①、②、③を通算して20単位をもって限度とする。

3 進級制度

(1) 1年次在学の年限

3年間の在学期間終了時において、

—全必修科目の単位数が21単位未満の場合 あるいは、

—学科進学の意思を有しない場合

は、早稲田大学学則47条第2号により、退学処分に付す。ただし、休学・留学期間は、在学期間に含まれない。

(2) 学科振り分けの条件

学科に進学するのは2年次が原則である。但し、1年次に設置されている全必修科目のうち、21単位以上を取得し、かつ学科進学の意思を有する者を対象とする。

(3) 年次

要項において、年次については以下のとおり取り扱う。ただし、休学年数と留学センターが主催するTSA/ISAプログラムおよびダブルディグリープログラム以外での留学期間中の年数は除く。

学科未進学者：1年次、学科進学1年目：2年次、学科進学2年目：3年次、学科進学3年目以上：4年次

I 特 徵
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目別
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部認講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者・ 再入学者等
20. 科目等履修生 留学生等

4 3年次進学時の転科

本学部における教育は、各学科ごとの4年間一貫した教育体系に基づいて行われている。したがって、進学した学科において学修することを前提としている。しかし、所属学科における勉学に著しい不適性を感じ、かつ転科志望の意志が強いなど特別の事情がある場合には、学科主任の承認のもとに転科試験に出願することができる。

しかし、年度によっては転科学生を受け入れない学科がある。

なお、転科後の勉学に耐えられるように、修得単位数等に厳しい受験資格が求められるので、事前にクラス担任、学科主任と相談することが必要である。

- ① 受け入れ人数の上限：若干名
- ② 転科試験を実施する。
- ③ 転科試験の結果に基づき、2年次履修単位の読み替えを学科の判断で行う。
- ④ 1年次の必修科目の単位を全て取得していることを条件とする。

転科試験の詳細については、転科試験要項（10月頃より理工学統合事務所にて配付開始予定）で確認すること。

5 学費の納入と抹籍

(1) 納入期日

学費は、それぞれの年度において、右記期日までに納入しなければならない。

	納入期限
前期学費	4月15日
後期学費	10月1日

(2) 2008年度入学者学費

	1年度	2年度		3年度		4年度	
		入学時	後期	前期	後期	前期	後期
入 学 金	290,000	—	—	—	—	—	—
授 業 料	541,500	541,500	545,500	545,500	549,000	549,000	552,500
施 設 費	117,500	117,500	117,500	117,500	117,500	117,500	117,500
実験実習料	30,000	30,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000
			30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
			40,000	40,000	40,000	40,000	40,000
			48,000	48,000	48,000	48,000	48,000
			48,000	48,000	48,000	48,000	48,000
			48,000	48,000	48,000	48,000	48,000
学生健康保険組合費	12,000	—	—	—	—	—	—
校 友 会 費	—	—	—	—	—	—	40,000
合 計	991,000	689,000	690,000	690,000	693,500	693,500	697,000
			693,000	693,000	696,500	696,500	700,000
			703,000	703,000	706,500	706,500	710,000
			711,000	711,000	714,500	714,500	718,000
			711,000	711,000	714,500	714,500	758,000
			711,000	711,000	714,500	714,500	758,000
年額合計	1,680,000		1,380,000		1,387,000		1,434,000
			1,386,000		1,393,000		1,440,000
			1,406,000		1,413,000		1,460,000
			1,422,000		1,429,000		1,476,000
			1,422,000		1,429,000		1,476,000
			1,422,000		1,429,000		1,476,000

※教職免許状を取得しようとする場合は、教職課程科目聴講料10,000円が別に必要となる。

単位（円）

※特定のオープン科目を選択すると、聴講料が別に必要となる。

※第4年度の後期に校友会費40,000円（卒業後10年分）が必要となる。

(3) 所定年限以上在学する学生の学費取り扱い

【学科進学後】

卒業必要単位合計からの不足単位数	授業料	施設費	演習料・実験実習料
～4 単位	4 年次生所定額の 50%	4 年次生所定額	4 年次生所定額
5～20 単位	4 年次生所定額の 70%		
21 単位以上	4 年次生所定額		

【学科進学前】

学科進学必要単位合計からの不足単位数	授業料	施設費	演習料・実験実習料
～4 単位	1 年次生所定額の 50%	1 年次生所定額	1 年次生所定額
5～20 単位	1 年次生所定額の 70%		
21 単位以上	1 年次生所定額		

※「所定年限」は、学科進学前については 1 年、学科進学後については 3 年とする。

※在籍中に休学・留学をした場合の学費については、理工学統合事務所まで問い合わせること。

※「卒業必要単位合計からの不足単位数」は前期終了時に算出したものを基準とする。

所定年限以上在籍する学生の実験実習料徴収対象学部

学 科	実験実習料徴収対象学部	
数 学 科	実験の名称のつく学部科目、卒業研究、講究科目	
応 用 数 理 学 科	実験の名称のつく学部科目	
情 報 理 工 学 科	実験・実習の名称のつく学部科目、卒業論文、プロジェクト研究	
機械科学・航空学科	同 上	卒業論文
電子光システム学科	同 上	卒業論文
表 現 工 学 科	同 上	卒業論文・制作

(4) 納入方法

学費等の納入方法は、事前に申請をした郵便局を含む全国の金融機関指定口座からの口座振替となる。この口座は入学手続時に申請したものである。

なお、事前に「口座振替のお知らせ」が学費負担者宛てに送付されるので、必ず確認をすること。また、金融機関や口座等に変更が生じた場合は、すぐに理工学統合事務所に申し出ること。

学費は、それぞれ指定の期日までに納入しなければならないが、特別な事情でそれが不可能な場合は、理工学統合事務所に相談すること。

(5) 抹 簿

学費の納入を怠った場合は抹籍（本学学生の身分を失う）となり、最後に学費が納入された学期末に遡って退学となる。この場合、在学年数および成績の一部が無効となる。なお、特別の事情により自動的に抹籍となる日（以下参照）以前に退学を希望する場合は、理工学統合事務所に相談すること。

	納入期限	自動的に抹籍となる期日	退学とみなす期日
前期学費	4月15日	9月20日	3月31日
後期学費	10月1日	翌年3月31日	9月20日

I 特 徵

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目別

7. A群科目

8. B群科目

9. C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11. D群科目

12. 他学部認講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者・
再入学者等

20. 科目等履修生
留学生等

6 学科目の系列

本学部の学科目は、A群・B群・C群およびD群の4系列に大別され、その内容は以下のとおりである。なお、各群の内容に関しては後述する。

A 群	A1(複合領域科目), A2(外国語科目)
B 群	B1(数学), B2(自然科学), B3(実験・実習・制作), B4(情報関連科目)
C 群	専門教育科目
D 群	保健体育科目, 自主挑戦科目

A～D群に設置されている学科目には、以下の種別がある。

(1) 「卒業必要単位」に算入される科目

以下の科目があり、いずれも成績通知書に成績が記入される。

必修科目	必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
選択必修科目	限定された範囲から必ず所定の科目を履修し、単位を修得しなければならない科目
選択科目	選択科目群から自由に選択し、所定単位を修得する科目

(2) 「卒業必要単位」に算入されない科目

自由科目	合格点を取れば単位が与えられ、成績通知書に記入されるが、卒業必要単位には算入されない科目
------	--

本学部の1学年は、前期・後期の2期に分かれ、それぞれ15週ずつ計30週からなっており、学科目はその授業期間により、前・後期を通じて行われる学科目（通年科目）、前期のみ行われる学科目（前期科目）、後期のみ行われる学科目（後期科目）に分かれる。

(3) 卒業に必要な単位数

学科別の所定単位の内訳は右頁の表のとおりである。ただし、A～C群の所定単位数の合計は卒業必要単位数（136単位）に満たないため、以下に示した科目系列・単位で充足すること。

- ・ A～C群科目系列で指定されている所定単位数を超えて、修得したA～C群科目の単位。
- ・ D群科目（保健体育・自主挑戦科目）(4単位まで)
- ・ 他学科・他学部・他学術院聴講で修得した単位。(当該学科が上限単位を特に設定している場合は、その上限の単位数まで。57頁参照。)
- ・ オープン科目で修得した単位。(ただし、当該科目が卒業必要単位に算入可能であるものに限る。58頁参照。)

※自由科目は、卒業に必要な単位の中には算入できない。

I 特 徵
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部聴講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 後学者、 再入学者等
20. 科目等履修生 外国语学生等

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度

4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目別
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内
(C群科目)

数学
応数
情報
機航
電子
表現

11. D群科目
12. 他学部認講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者・再入学者等
20. 科目等履修生
外国人学生等

系 列 学 科	A～C群の所定単位数											合計	学位		
	A 群			B 群				C 群			D 群				
	A1	A2	B1	B2	B3	B4	専門教育科目			選択任意					
	複合領域科目	英語	英語又は初修	数学	自然科学 物理学 化学	実験 実習・ 制作	情報関連科目	必修	選択必修	選択	保健体育 ・自主挑戦科目				
数 学 科	22 [1]			13	4	2	6	4	36	18	28 [4]	—	3	136	学士(理学)
応用数理学科	22 [2]			13	4	2	6	4	45	0	37 [5]	—	3	136	学士(工学)
情報理工学科	22 [3]			13	4	2	8	4	34	16	20	—	13	136	学士(工学)
機械科学・航空学科	22 [3]			13	4	2	8	4	56	0	18	—	9	136	学士(工学)
電子光システム学科	22 [3]			13	4	2	8	4	50	0	22	—	11	136	学士(工学または 理学)
表現工学科	16	8	2	13	4	2	6	4	60	0	16	—	5	136	学士(工学)

[1] 22単位のうち英語で8単位以上、英語又は初修外国語で2単位以上を充足しなければならない。

[2] 22単位のうち英語で10単位以上を充足しなければならない。

[3] 22単位のうち英語で8単位以上を充足しなければならない。

[4] 数学科と共にない応用数理学科の専門科目も16単位を上限として、数学科専門科目の卒業単位に充当できる。

[5] 応用数理学科と共にない数学科の専門科目も16単位を上限として、応用数理学科専門科目の卒業単位に充当できる。

(4) 大学院授業科目の先取り履修制度

学部・大学院一貫教育の観点から、学部4年生を対象に進学予定の研究科から指定された講義科目を先取り履修する制度を実施している。先取り履修し、修得した単位は、次年度に大学院に進学後、当該各学科の専攻・分野が定めた上限単位数の範囲内において、大学院の「修了に必要な単位（30単位）」として認定される。

専攻名	先取り履修の認定上限単位数	
	数学応用数理	10単位
基幹理工学研究科	情報理工学	10単位
	機械科学	4 単位

詳細な内容、手続き方法等については、年度始めに配布される『科目登録の手引き』を参照すること。

ただし、大学院修士の教職専修免許の必要単位（24単位）には算入されないので注意すること。

(5) 欠席届

- ① 本学部およびオープン教育センターで登録したすべての科目の授業および試験について、これらを欠席した場合は、欠席届を理工学統合事務所で取得の上、担当教員に直接提出すること。ただし実験科目については各実験室に提出すること（実験室によっては、別に指定用紙がある）。また、英語科目については理工系英語教育センターのホームページを参照してその指示に従うこと。
- ② 他学術院開講科目については、当該箇所の欠席届を使用し、その箇所の手続方法に従うこと。
- ③ 欠席の事由が確認できるもの（診断書の写し等）を添付すること。

7 A群科目（複合領域科目、外国語科目）

A群科目は、A1群科目（複合領域科目）およびA2群科目（外国語科目）に分かれる。各学科が指定する履修条件・制約のもと、系列内の所定単位数を修得すること。

(1) 学科別所定単位数

数学科：22単位のうち英語で8単位以上、英語又は初修外国語で2単位以上を充足しなければならない。

	A1群 (複合領域科目)	A2群（外国語科目）		
単位数	—	英語（必修科目）	英語（選択科目）	初修外国語
所定単位数			8 単位	2 単位
22単位				

応用数理学科：22単位のうち英語で10単位以上を充足しなければならない。

	A1群 (複合領域科目)	A2群（外国語科目）		
単位数	—	英語（必修科目）	英語（選択必修科目）	初修外国語
所定単位数			8 单位	2 单位
22単位				—

情報理工学科、機械科学・航空学科、電子光システム学科：22単位のうち英語で8単位以上を充足しなければならない。

	A1群 (複合領域科目)	A2群（外国語科目）		
単位数	—	英語（必修科目）	英語（選択科目）	初修外国語
所定単位数			8 単位	—
22単位				—

数学

	A1群 (複合領域科目)	A2群（外国語科目）		
単位数	—	英語（必修科目）	英語（選択科目）	初修外国語
所定単位数			8 単位	—
22単位				—

※一部の他学科・他学部・他学術院等設置科目はA1群またはA2群に参入することができる。詳細については57頁を参照すること。

(2) A1群科目（複合領域科目）

世界の政治・経済・社会・文化等の構造の大幅な変動や科学技術の飛躍的な進歩とともに価値観の多様化、流動化が進み、学問や研究のあり方も大きく転換しつつある。また、学生の関心や要望も従来とは異なり、卒業後の進路も多岐にわたっている。こうした状況をふまえて、理工系3学部では、多角的知識と総合的かつ自主的判断力を身につけると同時に、人文・社会科学系だけでなく、理工学系をも横断する複合的な視点から、多領域にまたがる新しい問題や複雑な現象に挑む能力を養うことをめざして、複合領域科目を設置している。

複合領域科目は、総合科目・特論科目・領域コース科目に区分され、以下16頁の表のように配置されているが、その中から自己の選択に基づいて、4年間で所定の単位を取得しなければならない。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目系列

7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
11. D群科目

12. 他学部講義
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者、 再入学者等
20. 科目等履修生 留学生等

総合科目

現代社会における特定の重要な課題を、様々な学問領域から多角的に究明することによって、異なった学問領域相互の関連性を理解させ、現象の総合的把握の能力を養うとともに、創造的思考の養成に役立てるようとするものである。これは半期2単位の科目で第1年度から履修が可能であり、低学年の間に履修することが望ましい。

特論科目

理工系の学生たちが複合的な視点から問題に取り組むことができるよう編成された科目群が用意されている。この中には、主として人文・社会科学系の基礎的な素養を身につけるための科目、科学技術をめぐる諸問題を複合的な視点から捉える科目、表現の問題を重視する芸術系の科目や実習、外国文化を主として扱う科目などが設置されている。特論科目は半期科目であるが、一部の実習科目については、週2時間、半期4単位となる。第2年度から履修が可能で総合科目よりもレベルを高く設定しているので、関連する総合科目の学習をふまえて履修することが期待される。

知財・産業社会政策領域コース科目／国際文化領域コース科目

原則として両領域コースに進学する学生が選択する科目である。基礎演習は3年の後期、領域演習・卒業論文（領域コース）は4年で選択する。基礎演習は半期2単位、領域演習は通年4単位、卒業論文は2単位となっている。領域コースを選択する場合には、通常の単位のほかに、複合領域科目の中から領域コース科目8単位を含む一定以上を修得しなければならない。なお、領域コースについては、別途、各領域のウェブサイトや説明会等で配布するパンフレットを参照すること。

A1群履修上の注意

- ・学科目のあとにI, IIを付してある科目は、その順序に従って履修しなければならない（Iの単位修得が確認できた後に、IIの履修が可能となる）。
- ・学科目のあとに、A, Bのついている科目は重複して履修してはならない（ただし、経済制度論A, B, コンピューター・アートA, Bについては、この限りではない）。
- ・学科目のあとに(1)(2)…を付してある科目は重複して履修してはならない。
- ・文化・言語・地域の各国語圏文化論（ドイツ語圏、フランス語圏、中国語圏、スペイン語圏、ロシア語圏）を履修するには、各國語の中級IIまたは学院クラスIIの単位を取得していかなければならない。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費

6. 学科目別
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)

数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部認講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者・再入学者等
20. 科目履修生 留学生等

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部選講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者、再入学者等
20. 科目等履修生 外国语学生等

複合領域科目および領域コース

	綜合科目	特論科目				
知的財産	技術革新と産業社会A 技術革新と産業社会B 新素材ビジネスと知的財産 I II	知財のグローバリゼーションと言語の多様性 ロボット産業とインベーション 企業の社会的責任(CSR)と利益相反 国際コンテンツビジネスと著作権 産学連携、ベンチャーエネルギー 起業の基礎 I 起業の基礎 II	企業の社会的責任(CSR)と利益相反 国際コンテンツビジネスと著作権 産学連携、ベンチャーエネルギー 起業の基礎 I 起業の基礎 II	産学連携、ベンチャーエネルギー 起業の基礎 II 知的財産と起業 知的財産と経済 バイオ創薬分野における知財・イノベーション	バイオ・イノベーションとベンチャーエネルギー ユビキタス社会におけるIT知財 アジアの視点から見たコンテンツ産業の基礎理論	
産業政策	開発協力論 企業と労働 I 企業と労働 II		企業活動と国際金融 企業金融論 雇用環境と労働 産業・技術移転論 産業構造論 I	産業構造論 II 産業政策 情報化と社会経済 情報通信経済 デジタル家電の興亡 トランク・ポーター企業経営論	ニーズ型社会と新産業創出 日本産業の将来設計 マルチメディア政策論 流通産業論 I 流通産業論 II	
科学技術	医療と技術 科学と非科学 科学技術と危機管理	科学技術史 I シミュレーション技術 21世紀における科学技術と社会	科学技術史 II 科学技術と現代社会 技術倫理	改善技術論 科学技術とコミュニケーション 技術開発論	実験的思想史 I 実験的思想史 II 科学社会学	暮らしの中の先端技術 リスクマネジメント論 科学技術政策論
心理・精神・認知	依存症と社会 環境心理学 産業社会のメンタルヘルス ストレスと自殺	変革期の社会と心理	家族と子ども 社会病理学 I 社会病理学 II 心理学 I	心理学 II 心理療法 精神分析論 I 精神分析論 II	テクノストレス 日本企業とワークライフバランス 認知心理学 I 認知心理学 II	
政治・経済・法律	企業構造と経営 現代経済の行動と変容		経営戦略論 経営管理論 経済学 A I 経済学 A II 経済学 B I 経済学 B II 経済政策論 I 経済政策論 II	経済制度論 A I 経済制度論 A II 経済制度論 B I 経済制度論 B II ゲーム理論 現代企業論 憲法 I 憲法 II	国際経済論 I 国際経済論 II 消費者の経済学 統計学 I 統計学 II	
環境・倫理・生命	環境と生物 現代環境論 国際保健政策と科学倫理	ものづくりと環境 情報倫理	環境アセスメント論 環境政策と計画 生物と環境適応	環境倫理 健康の生態学 自然生態調査論	生命倫理	
歴史・社会・生活	高度情報社会における人間関係 高齢化社会の設計 社会参加とボランティア	社会システム概論 社会人類学 I 社会調査法 I 社会調査法 II 社会学概論	情報社会論 I 情報社会論 II 都市地域計画論 日本をめぐる国際関係 人間都市地域計画論	社会システム設計論 社会人類学 II	複雑系と社会システム 歴史社会学 I 歴史社会学 II	
芸術・思想・メディア	音と音楽の表現領域 科学と芸術 心・脳・ボディ 象徴の諸相 数理科学の思想史 生活空間の文化 日常と非日常のレトリック プラクティカルリーディング マスター・オブ・シネマ 映画のすべて メディアリテラシー論		インターメディア作曲 I インターメディア作曲 II 映像史 I 映像史 II 音楽論 境界領域アート論 クロスメディアビジネス 芸術表現 I 芸術表現 II	現代マスコミ論 I 現代マスコミ論 II 語源研究 コンテンツマーケティング 映像リサーチ エピューター・アート A 音楽論 3D コンテンツの医療・福祉応用 写真表現 心身問題研究 芸術表現 II	デジタル映像コンテンツビジネス論 デジタル映像コンテンツ概論 フィクション設計論 文化遺産のデジタルアーカイブ メディア産業論 I メディア産業論 II 物語研究 様相論理学 ラテン語文献基礎研究 I ラテン語文献基礎研究 II	
文化・言語・地域	越境する文化 劇場と文化 「ことば」の世界 時代の青年像 日本の詩、世界の詩	人文地理学 I 舞台芸術論 プレゼンテーションスキル 翻訳と文化	入門・外国語案内 各国語文化入門 (ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語)	過去の伝承 近代思想と現代 現代宗教論 I 現代宗教論 II 言語文化論 古代ギリシア文化と現代	「こころ」と宇宙 人文地理学 II 都市と文化 東アジア文化研究 文化と科術・技術者	各國語圏文化論 (ドイツ語圏、フランス語圏、中国語圏、スペイン語圏、ロシア語圏) 地域研究 (ドイツ、フランス、中国、ロシア、アフリカ、イスラム圏、東ヨーロッパ、中南米、英語文化圏)
領域による コース 科目 (3,4年)	基礎演習	演習	卒業論文(領域コース)※基礎演習は、3年次後期に履修のこと。			
	各領域の主な分野	知財・産業社会政策領域(知的財産、産業政策、科学技術政策/社会システム)	国際文化領域(文化、言語、地域)			

(I) 総合科目

学 科 目 名	単位数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
ものづくりと環境	2	0	2						
科学技術と危機管理	2	2	0						
21世紀における科学技術と社会	2	0	2						
国際保健政策と科学倫理	2	0	2						
開発協力論	2	2	0						
現代経済の構造と変容	2	2	0						
企業行動と経営	2	0	2						
医療と技術	2	0	2						
高齢化社会の設計	2	2	0						
社会参加とボランティア	2	2	0						
変革期の社会と心理	2	2	0						
高度情報社会における人間関係	2	0	2						
ストレスと自殺	2	2	0						
依存症と社会	2	0	2						
プレゼンテーションスキル	2	0	2						
産業社会のメンタルヘルス	2	2	0						
知的財産と技術経営 I	2	2	0						
知的財産と技術経営 II	2	0	2						
科学技術史 I	2	2	0						
科学技術史 II	2	0	2						
技術革新と産業社会 A	2	2	0						
ロボット産業とイノベーション	2	0	2						
環境と生物	2	2	0						
現代環境論	2	2	0						
企業と労働 I	2	2	0						
企業と労働 II	2	0	2						
社会人類学 I	2	2	0						
社会調査法 I	2	2	0						
社会調査法 II	2	0	2						
都市地域計画論	2	2	0						
人間都市地域計画論	2	0	2						

I 特 徵

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目別

7.A群科目

8.B群科目

9.C群科目

10.学科別案内
(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11.D群科目

12.他学部選講

13.教職免許

14.科目登録

15.授業時間帯

16.試 験

17.レポート・論文作成

18.成績の表示

19.復学者・再入学者等

20.科目履修修得
留学生等

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部選講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者、 再入学者等
20. 科目等履修生 外国语学生等

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
社会システム概論	2	2	0						
情報社会論 I	2	2	0						
情報社会論 II	2	0	2						
環境心理学	2	2	0						
知財のグローバリゼーションと言語の多様性	2	0	2						
技術革新と産業社会B	2	0	2						
新素材ビジネスと知的財産	2	0	2						
社会学概論	2	2	0						
日本をめぐる国際関係	2	2	0						
人文地理学 I	2	2	0						
「ことば」の世界	2	2	0						
越境する文化	2	0	2						
翻訳と文化	2	0	2						
劇場と文化	2	2	0						
舞台芸術論	2	2	0						
時代の青年像	2	0	2						
入門・外国語案内	2	2	0						
ドイツ語文化入門(1)	2	2	0						
ドイツ語文化入門(2)	2	2	0						
ドイツ語文化入門(3)	2	2	0						
ドイツ語文化入門(4)	2	2	0						
ドイツ語文化入門(5)	2	0	2						
ドイツ語文化入門(6)	2	0	2						
ドイツ語文化入門(7)	2	0	2						
ドイツ語文化入門(8)	2	0	2						
フランス語文化入門(1)	2	2	0						
フランス語文化入門(2)	2	2	0						
フランス語文化入門(3)	2	2	0						
フランス語文化入門(4)	2	2	0						
フランス語文化入門(5)	2	0	2						
フランス語文化入門(6)	2	0	2						
フランス語文化入門(7)	2	0	2						

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 進級制度
- 4. 3年次転科
- 5. 学 費
- 6. 学科目系別
- 7. A群科目
- 8. B群科目
- 9. C群科目
- 10. 学科別案内
(C群科目)
- 数学**
- 応数**
- 情報**
- 機航**
- 電子**
- 表現**
- 11. D群科目
- 12. 他学部選講
- 13. 教職免許
- 14. 科目登録
- 15. 授業時間帯
- 16. 試 験
- 17. レポート・論文作成
- 18. 成績の表示
- 19. 復学者・
再入学者等
- 20. 科目等履修生
外国学生等

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
フランス語文化入門(8)	2	0	2						
中国語文化入門(1)	2	2	0						
中国語文化入門(2)	2	2	0						
中国語文化入門(3)	2	2	0						
中国語文化入門(4)	2	2	0						
中国語文化入門(5)	2	0	2						
中国語文化入門(6)	2	0	2						
中国語文化入門(7)	2	0	2						
中国語文化入門(8)	2	0	2						
スペイン語文化入門(1)	2	2	0						
スペイン語文化入門(2)	2	0	2						
ロシア語文化入門(1)	2	2	0						
ロシア語文化入門(2)	2	0	2						
科学と非科学	2	0	2						
科学と芸術	2	0	2						
音と音楽の表現領域	2	2	0						
日常と非日常のレトリック	2	2	0						
数理科学の思想史	2	0	2						
メディアリテラシー論	2	2	0						
心・脳・ボディ	2	2	0						
生活空間の文化	2	2	0						
シミュレーション技術と文化	2	0	2						
象徴の諸相	2	0	2						
プラクティカルリーディング	2	2	0						
マスターズ・オブ・シネマ 映画のすべて	2	2	0						
科学技術と現代社会	2	0	2						
情報倫理	2	0	2						
技術倫理	2	0	2						
日本の詩、世界の詩	2	0	2						

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

(II) 特論科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
東アジア文化研究	2			0	2				
歴史社会学 I	2			2	0				
歴史社会学 II	2			0	2				
人文地理学 II	2			0	2				
情報化と社会経済	2			2	0				
精神分析論 I	2			2	0				
精神分析論 II	2			0	2				
心理学 I	2			2	0				
心理学 II	2			0	2				
生物と環境適応	2			0	2				
ゲーム理論	2			2	0				
デジタル家電の興亡	2			2	0				
現代企業論	2			0	2				
生命倫理	2			2	0				
環境倫理	2			0	2				
リスクマネジメント論	2			0	2				
科学技術政策論	2			2	0				
日本産業の将来設計	2			0	2				
消費者の経済学	2			0	2				
雇用環境と労働	2			2	0				
環境アセスメント論	2			2	0				
自然生態調査論	2			0	2				
心理療法	2			2	0				
テクノストレス	2			2	0				
マルチメディア政策論	2			0	2				
技術開発論	2			2	0				
日本企業とワークライフバランス	2			0	2				
健康の生態学	2			2	0				
企業の社会的責任（CSR）と利益相反	2			0	2				
情報通信経済	2			2	0				
暮らしの中の先端技術	2			2	0				

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目別
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部認講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者、 再入学者等
20. 科目等履修生 外国人学生等

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
複雑系と社会システム	2			2	0				
バイオ・イノベーションとベンチャー	2			2	0				
産業政策	2			2	0				
環境政策と計画	2			0	2				
社会病理学 I	2			2	0				
社会病理学 II	2			0	2				
統計学 I	2			2	0				
統計学 II	2			0	2				
憲法 I	2			2	0				
憲法 II	2			0	2				
経済学 A I	2			2	0				
経済学 A II	2			0	2				
経済学 B I	2			2	0				
経済学 B II	2			0	2				
経営戦略論	2			2	0				
経営管理論	2			0	2				
経済制度論 A I	2			2	0				
経済制度論 A II	2			0	2				
経済制度論 B I	2			2	0				
経済制度論 B II	2			0	2				
経済政策論 I	2			2	0				
経済政策論 II	2			0	2				
国際経済論 I	2			2	0				
国際経済論 II	2			0	2				
産業構造論 I	2			2	0				
産業構造論 II	2			0	2				
流通産業論 I	2			2	0				
流通産業論 II	2			0	2				
社会人類学 II	2			0	2				
認知心理学 I	2			2	0				
認知心理学 II	2			0	2				
社会システム設計論	2			0	2				

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部講義
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者、 再入学者等
20. 科目等履修生 外国人等

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
国際コンテンツビジネスと著作権	2			2	0				
改善技術論	2			2	0				
知的財産と経済	2			2	0				
ユビキタス社会におけるIT知財	2			0	2				
知的財産と起業	2			0	2				
企業活動と国際金融	2			0	2				
産学連携、ベンチャ一起業の基礎 I	2			2	0				
産学連携、ベンチャ一起業の基礎 II	2			0	2				
「こころ」と宇宙	2			2	0				
過去の伝承	2			2	0				
文化と科学・技術者	2			2	0				
現代宗教論 I	2			2	0				
現代宗教論 II	2			0	2				
都市と文化	2			0	2				
言語文化論	2			2	0				
近代思想と現代	2			0	2				
地域研究：中国	2			2	0				
地域研究：ドイツ	2			2	0				
地域研究：フランス	2			0	2				
地域研究：ロシア	2			0	2				
地域研究：アフリカ	2			0	2				
地域研究：イスラム圏	2			2	0				
地域研究：東ヨーロッパ	2			2	0				
地域研究：中南米	2			2	0				
地域研究：英語文化圏	2			0	2				
様相論理学	2			2	0				
境界領域アート論	2			2	0				
心身問題研究	2			0	2				
物語研究	2			2	0				
フィクション設計論	2			2	0				
語源研究	2			2	0				
実験の思想史 I	2			2	0				

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目別
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部認講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者・再入学者等
20. 科目等履修生 外国留学生

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
実験の思想史Ⅱ	2			0	2				
芸術表現Ⅰ	2			2	0				
芸術表現Ⅱ	2			0	2				
映像史Ⅰ	2			2	0				
映像史Ⅱ	2			0	2				
音楽論	2			0	2				
ラテン語文献基礎研究Ⅰ	2			2	0				
ラテン語文献基礎研究Ⅱ	2			0	2				
企業金融論	2			2	0				
トランス・ボーダー企業経営論	2			0	2				
ニーズ型社会と新産業創出	2			集中	0				
科学技術とコミュニケーション	2			0	2				
産業・技術移転論	2			0	2				
家族と子ども	2			0	2				
現代マスコミ論Ⅰ	2			2	0				
現代マスコミ論Ⅱ	2			0	2				
コンテンツマーケティングリサーチ	2			0	2				
文化遺産のデジタルアーカイブ	2			0	2				
コンピューター・アートA	4			4	0				
コンピューター・アートB	4			0	4				
メディア産業論Ⅰ	2			2	0				
メディア産業論Ⅱ	2			0	2				
3Dコンテンツの医療・福祉応用	2			2	0				
クロスマディアビジネス	2			0	2				
写真表現	4			0	4				
デジタル映像コンテンツビジネス論	2			0	2				
デジタル映像コンテンツ概論	2			2	0				
インターメディア作曲Ⅰ	4			4	0				
インターメディア作曲Ⅱ	4			0	4				
ドイツ語圏文化論(1)	2			2	0				
ドイツ語圏文化論(2)	2			2	0				
ドイツ語圏文化論(3)	2			2	0				

I 特 徴	II 沿革と概要	III 学部要項	IV 学生生活	V 付 錄	学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
							第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
							前	後	前	後	前	後	前	後
1. 単位制	2. 学位・卒業	3. 進級制度	4. 3年次転科	5. 学 費	6. 学科目系列	7. A群科目	ドイツ語圏文化論（4）	2		2	0			
8. B群科目	9. C群科目	10. 学科別案内 (C群科目)	数学	応数	情報	スペイン語圏文化論	フランス語圏文化論（1）	2		2	0			
機航	電子	表現				フランス語圏文化論（2）	フランス語圏文化論（3）	2		2	0			
						フランス語圏文化論（4）	中国語圏文化論（1）	2		2	0			
						中国語圏文化論（2）	中国語圏文化論（3）	2		2	0			
						中国語圏文化論（4）	中国語圏文化論（1）	2		2	0			
						スペイン語圏文化論	ロシア語圏文化論	2		2	0			
						アジアの視点から見たコンテンツ産業の基礎理論	CIO（最高責任者）概論	2		2	0			
						知的資産経営におけるコミュニケーション	バイオ創薬分野における知財・イノベーション	2		2	0			
						科学社会学	古代ギリシア文化と現代	2		2	0			
						プロデュース特論	プロデュース特論	2		0	2			
11. D群科目	12. 他学部選講	13. 教職免許	14. 科目登録	15. 授業時間帯	16. 試験	17. レポート・論文作成	18. 成績の表示							
19. 後学者、 再入学者等	20. 科目等履修生 外国语学生等													

(III) 領域コース科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
知財・産業社会政策領域基礎演習	2					0	2		
国際文化領域基礎演習	2					0	2		
知財・産業社会政策領域演習	4							2	2
卒業論文（知財・産業社会政策）	2							○	○
国際文化領域演習	4							2	2
卒業論文（国際文化）	2							○	○

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目別

7. A群科目

8. B群科目

9. C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11. D群科目

12. 他学部認講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者・
再入学者等

20. 科目履修生
外国人学生等

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

(3) A2群科目（外国語科目）

科学技術の進歩、たとえば交通手段や情報機器の発達は、地球上の人や物の交流を飛躍的に増大させた。この傾向は21世紀にはいってさらに増大の度を加えていくことであろう。一方で、地球上にさまざまな社会があり多種多様な文化が存在することはまぎれもない事実であり、それだけにいっそう異なる社会、異なる文化圏同士の相互理解が緊急不可欠なものとなっている。このような状況のもと、異なる文化や社会と接触し理解するのに有効な手段のひとつが、外国語の習得である。外国語を学ぶとは、単に言語の運用能力を身につけることに留まるものではない。言語感覚を鍛錬し、言語表現の可能性を模索することで、自己の表現能力を高めることでもある。そして、他を知ることによって自己を知る道でもある。学生諸君には、将来の活躍の場を広げる意味でも、外国語と積極的に取り組んでほしい。

英語

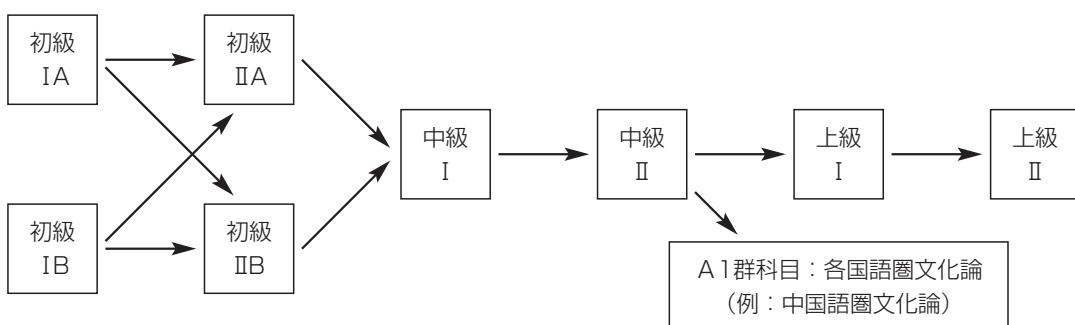
卒業までに、学科ごとに定められた所定単位数以上を修得する。すべての英語科目は全授業回数の3分の2以上の出席を要する。

- ① 1年次には、Academic Lecture Comprehension 1・2 (各1単位) と Communication Strategies 1・2 (各1単位) を履修しなければならない。
- ② 2年次には、Academic Reading 1・2 (各1単位) と Concept Building and Discussion 1・2 (各1単位) を履修しなければならない。
- ③ 3年次以降には、Technical Writing 1・2 (各1単位)、Technical Presentation (1単位)、Special Topics in Functional English (1単位) が履修できる。

初修外国語

英語以外の外国語科目には、ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語がある。

下図は半期ごとの履修例を示すものである。



A2群科目履修上の注意

- ・学科目のあとに I, II を付してある学科目は、その順序に従って履修しなければならない (I の単位修得が確認できた後に、II の履修が可能となる)。

初修外国語履修上の注意

- ・学科目のあとに A を付してある学科目は言語の構造を理解し、文の形を習得するためのベーシック・トレーニングを行う。B を付してある学科目では表現を学ぶプラクティカル・トレーニングを行う。

- ・ A, B を同時履修することが望ましいが、どちらか一方のみを履修することも可能。
左頁の図に示されているように、IAの次にIBを履修することも可能。
- ・ 複数の言語の科目を同時履修することも可能。
- ・ 文化・言語・地域の各国語圏文化論（ドイツ語圏、フランス語圏、中国語圏、スペイン語圏、ロシア語圏）を履修するには、各國語の中級Ⅱまたは学院クラスⅡの単位を取得していかなければならない。

注：スペイン語に上級科目は設置していない。

【既習者のための科目】

ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語の既習者には、
IA(学院クラス), IB(学院クラス), II A(学院クラス), II B(学院クラス) が用意されている。
※受講生に早稲田大学高等学院の出身者が多いことから、(学院クラス) の名称を用いている。

- ・ A ではベーシック・トレーニングを、B ではプラクティカル・トレーニングを行う。
- ・ I (学院クラス) → II (学院クラス) → 上級 I → 上級 II と段階を追って履修する。
- ・ II (学院クラス) の単位取得者は、その言語の「文化論」を受講可能（前頁の表参照）。

【初修外国語を学ぶことのできるA1群科目】

- ・ 「入門・外国語案内」 … ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・朝鮮語の 6 言語全ての概要を学ぶオムニバス形式の講義科目。
- ・ 「各國語文化入門」 … 5 言語の各文化と言語の初步を学ぶことができる。

【外国学生のための科目】

1 年次に日本語B(4単位), 2 年次に日本語A(4単位)を別途用意している。履修を推奨する。

(I) 英語（必修科目）

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
Academic Lecture Comprehension 1	1	2	0						
Academic Lecture Comprehension 2	1	0	2						
Communication Strategies 1	1	2	0						
Communication Strategies 2	1	0	2						
Academic Reading 1	1			2	0				
Academic Reading 2	1			0	2				
Concept Building and Discussion 1	1			2	0				
Concept Building and Discussion 2	1			0	2				
英語（必修科目）合計	8	4	4	4	4				

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科

5. 学 費
6. 学科目系列
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内
(C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部選講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者、
再入学者等
20. 科目等履修生
外国语学生等

(II) 英語（選択科目）※応用数理学科は選択必修科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間にわける授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
Technical Writing 1	1					2	0		
Technical Writing 2	1					0	2		
Technical Presentation	1					2	0		
						0	2		
Special Topics in Functional English	1					2	0		
						0	2		

(III) 初修外国語 ドイツ語

学 科 目 名	単 位 数	一週間にわける授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
独語 初級ⅠA	1	2	0						
独語 初級ⅠB	1	2	0						
独語 初級ⅡA	1	0	2						
独語 初級ⅡB	1	0	2						
独語 I A (学院クラス)	1	2	0						
独語 I B (学院クラス)	1	2	0						
独語 II A (学院クラス)	1	0	2						
独語 II B (学院クラス)	1	0	2						
独語 中級 I	1			2	0				
独語 中級 II	1			0	2				
独語 上級 I	1					2	0		
独語 上級 II	1					0	2		

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目別

7.A群科目

8.B群科目

9.C群科目

10.学科別案内
(C群科目)**数学****応数****情報****機航****電子****表現**

11.D群科目

12.他学部認講

13.教職免許

14.科目登録

15.授業時間帯

16.試験

17.レポート・論文作成

18.成績の表示

19.復学者・
再入学者等20.科目等履修生
留学生等

(IV) 初修外国語 フランス語

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
仏語 初級ⅠA	1	2	0						
仏語 初級ⅠB	1	2	0						
仏語 初級ⅡA	1	0	2						
仏語 初級ⅡB	1	0	2						
仏語 I A (学院クラス)	1	2	0						
仏語 I B (学院クラス)	1	2	0						
仏語 II A (学院クラス)	1	0	2						
仏語 II B (学院クラス)	1	0	2						
仏語 中級Ⅰ	1			2	0				
仏語 中級Ⅱ	1			0	2				
仏語 上級Ⅰ	1					2	0		
仏語 上級Ⅱ	1					0	2		

(V) 初修外国語 中国語

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
中国語 初級ⅠA	1	2	0						
中国語 初級ⅠB	1	2	0						
中国語 初級ⅡA	1	0	2						
中国語 初級ⅡB	1	0	2						
中国語 I A (学院クラス)	1	2	0						
中国語 I B (学院クラス)	1	2	0						
中国語 II A (学院クラス)	1	0	2						
中国語 II B (学院クラス)	1	0	2						
中国語 中級Ⅰ	1			2	0				
中国語 中級Ⅱ	1			0	2				
中国語 上級Ⅰ	1					2	0		
中国語 上級Ⅱ	1					0	2		

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

(VI) 初修外国語 スペイン語

学 科 目 名	単 位 数	一週間にわける授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
スペイン語 初級ⅠA	1	2	0						
スペイン語 初級ⅠB	1	2	0						
スペイン語 初級ⅡA	1	0	2						
スペイン語 初級ⅡB	1	0	2						
スペイン語 中級Ⅰ	1			2	0				
スペイン語 中級Ⅱ	1			0	2				

(VII) 初修外国語 ロシア語

学 科 目 名	単 位 数	一週間にわける授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
露語 初級ⅠA	1	2	0						
露語 初級ⅠB	1	2	0						
露語 初級ⅡA	1	0	2						
露語 初級ⅡB	1	0	2						
露語 I A (学院クラス)	1	2	0						
露語 I B (学院クラス)	1	2	0						
露語 II A (学院クラス)	1	0	2						
露語 II B (学院クラス)	1	0	2						
露語 中級Ⅰ	1			2	0				
露語 中級Ⅱ	1			0	2				
露語 上級Ⅰ	1					2	0		
露語 上級Ⅱ	1					0	2		

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部選講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者、 再入学者等
20. 科目等履修生 外国语学生等

8 B群科目（数学、自然科学、実験・実習・制約、情報関連科目）

専門の基礎を与えることを目標にしている学科目で、数学、物理学、化学、理工学基礎実験、情報関連科目がこれにあたる。各学科が必修科目として指定する学科目を履修し、系列内の所定単位数を修得すること。

(1) 学科別必修科目・選択科目、所定単位数

数学科、応用数理学科

必修科目									
系列	B1群（数学）			B2群（自然科学）		B3群 (実験・実習・制作)		B4群 (情報関連科目)	
学科目名	基礎の 数学	数学 A2	数学 B2	物理学		化学	理工学基礎実験		コンピュータ リテラシー
				基礎 物理学A	基礎 物理学B	化学C	1A	1B	
単位数	1年 前期 (2単位)	1年 通年 (5単位)	1年 通年 (6単位)	1年 前期 (2単位)	1年 後期 (2単位)	1年 後期 (2単位)	1年 前期 (3単位)	1年 後期 (3単位)	C言語 入門
所定単位数	13単位			4単位		2単位	6単位		4単位

選択科目		
系列	B4群 (情報関連科目)	
学科目名	Java 入門	Java 入門
単位数	3年 前期 (2単位)	3年 後期 (2単位)

情報理工学科

必修科目											
系列	B1群（数学）			B2群（自然科学）		B3群 (実験・実習・制作)			B4群 (情報関連科目)		
学科目名	基礎の 数学	数学 A2	数学 B2	物理学		化学	理工学基礎実験		コンピュータ リテラシー	C言語 入門	
				基礎 物理学A	基礎 物理学B	化学C	1A	1B			
単位数	1年 前期 (2単位)	1年 通年 (5単位)	1年 通年 (6単位)	1年 前期 (2単位)	1年 後期 (2単位)	1年 後期 (2単位)	1年 前期 (3単位)	1年 後期 (3単位)	2年 前期 (2単位)	1年 前期 (2単位)	1年 後期 (2単位)
所定単位数	13単位			4単位		2単位	8単位		4単位		

選択科目				
系列	B4群 (情報関連科目)			
学科目名	FORTRAN 入門	C言語 入門	FORTRAN 入門	C言語 入門
単位数	2年 前期 (2単位)	2年 後期 (2単位)	2年 後期 (2単位)	3年 前期 (2単位)

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 進級制度
- 4. 3年次転科
- 5. 学 費
- 6. 学科目別
- 7. A群科目
- 8. B群科目
- 9. C群科目
- 10. 学科別案内
(C群科目)
- 数学**
- 応数**
- 情報**
- 機航**
- 電子**
- 表現**
- 11. D群科目
- 12. 他学部認講
- 13. 教職免許
- 14. 科目登録
- 15. 授業時間帯
- 16. 試 験
- 17. レポート・論文作成
- 18. 成績の表示
- 19. 復学者・再入学者等
- 20. 科目等履修生
留学生等

機械科学・航空学科、電子光システム学科

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

必修科目											
系列	B1群 (数学)			B2群 (自然科学)		B3群 (実験・実習・制作)			B4群 (情報関連科目)		
学科目名	基礎の 数学	数学 A2	数学 B2	物理学		化学	理工学基礎実験			コンピュータ リテラシー	C言語入門
				基礎 物理学A	基礎 物理学B	化学C	1A	1B	2A		
単位数	1年 前期 (2単位)	1年 通年 (5単位)	1年 通年 (6単位)	1年 前期 (2単位)	1年 後期 (2単位)	1年 後期 (2単位)	1年 前期 (3単位)	1年 後期 (3単位)	2年 前期 (2単位)	1年 前期 (2単位)	1年 後期 (2単位)
所定単位数	13単位			4単位		2単位	8単位			4単位	

選択科目											
系列	B4群 (情報関連科目)										
学科目名	FORTAN C言語入門	Java C言語入門	C言語 C言語入門	FORTRAN C言語入門	Java C言語入門	アプリケーション デベロップメント					
	2年 前期 (2単位)	2年 前期 (2単位)	2年 後期 (2単位)	2年 後期 (2単位)	2年 後期 (2単位)	3年 前期 (2単位)	1A	1B			
単位数	2年 前期 (2単位)	2年 前期 (2単位)	2年 後期 (2単位)	2年 後期 (2単位)	2年 後期 (2単位)	3年 前期 (2単位)					

表現工学科

必修科目										
系列	B1群 (数学)			B2群 (自然科学)		B3群 (実験・実習・制作)			B4群 (情報関連科目)	
学科目名	基礎の 数学	数学 A2	数学 B2	物理学		化学	理工学基礎実験			コンピュータ リテラシー
				基礎 物理学A	基礎 物理学B	化学C	1A	1B		
単位数	1年 前期 (2単位)	1年 通年 (5単位)	1年 通年 (6単位)	1年 前期 (2単位)	1年 後期 (2単位)	1年 後期 (2単位)	1年 前期 (3単位)	1年 後期 (3単位)	1年 前期 (2単位)	1年 後期 (2単位)
所定単位数	13単位			4単位		2単位	6単位			4単位

選択科目											
系列	B4群 (情報関連科目)										
学科目名	FORTAN C言語入門	Java C言語入門	C言語 C言語入門	FORTRAN C言語入門	Java C言語入門	アプリケーション デベロップメント					
	2年 前期 (2単位)	2年 前期 (2単位)	2年 後期 (2単位)	2年 後期 (2単位)	2年 後期 (2単位)	3年 前期 (2単位)	1A	1B			
単位数	2年 前期 (2単位)	2年 前期 (2単位)	2年 後期 (2単位)	2年 後期 (2単位)	2年 後期 (2単位)	3年 前期 (2単位)					

B群科目履修上の注意

- C群科目（専門教育科目）中で、指定された数学、自然科学の学科目の単位を修得しなければ履修できない学科目があるので、科目登録にあたってはこの履修順序に注意すること。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目別

7.A群科目

8.B群科目

9.C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)**数学****応数****情報****機航****電子****表現**

11. D群科目

12. 他学部講義

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者・
再入学者等20. 科目等履修生
外国学生等

(I) 数学配当表

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
基礎の数学	2	2	0						
数学A2	5	2	4						
数学B2	6	4	4						
数学E	2					2	0		

(II) 物理学配当表

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
基礎物理学A	2	2	0						
基礎物理学B	2	0	2						
現代物理学 ^注	4	2	2						

注) 当該科目は理科の免許取得を志す者に履修を推奨する。

(III) 化学配当表

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
化学C	2	0	2						
化学B1	2			2	0				
化学B3	2			0	2				

(IV) 生命科学配当表

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
生命科学概論A	2			2	0				
細胞生物学A	2			0	2				

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A群科目

8. B群科目

9. C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11. D群科目

12. 他学部講義

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試験

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者、
再入学者等20. 科目等履修生
外国人等

(V) 実験・実習・制作配当表

学 科 目 名	単 位 数	一週間にわける授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
理工学基礎実験1A	3	8	0						
理工学基礎実験1B	3	0	8						
理工学基礎実験2A	2			4	0				
生物学実験	1					集中	0		

(VI) 情報関連科目配当表

学 科 目 名	単 位 数	一週間にわける授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
コンピュータリテラシー	2	2	0						
Cプログラミング入門	2	0	2						
FORTRANプログラミング入門	2			2	0				
Javaプログラミング入門	2			2	0	(2) ^注	(0) ^注		
Cプログラミング	2			0	2				
FORTRANプログラミング	2			0	2				
Javaプログラミング	2			0	2	(0) ^注	(2) ^注		
Cアプリケーションデベロップメント	2					2	0		

注) 数学科、応用数理学科のJavaプログラミング入門、Javaプログラミングの履修は第3年度。

9 C群科目（専門教育科目）

専門教育科目は、専門必修科目、専門選択必修科目、専門選択科目および自由科目に分かれる。

(1) 専門必修科目

この学科目は、各学科の性格を特色づけるものである。学生諸君は、所属学科配当の学科目を、配当年度に従って履修しなければならない。

※基幹理工学部では、次の2科目を1年次共通のC群科目（専門教育科目）として設置しており、本学部に所属する教員が講義を担当している。

コンピューティングと表現（1年次前期 2単位）

コンピューティングとそれによる表現は、我々の日常生活における様々な局面で重要性を増しつつあり、その基本構造や応用はいまや技術者・研究者・芸術的作品の制作者が知らなくてはならない常識と言える。本講義でコンピューティングの基本的な動作原理と表現の概念について学んだ後、様々な応用の紹介を通して理解を深め、コンピューティングとそれによる表現を利用する基本的な技術を習得する。

モデリング（1年次後期 2単位）

モデリングとは、現象を単純化して数式で表わし（数学モデル）、その数式を解くことによりその現象の予測・評価および現象におよぼすパラメータの影響を明らかにしようとするものである。このようなモデリングの考え方、手法は今日自然現象に留まらず、社会、経済現象など幅広い分野で用いられているが、ここで取り上げる現象は、基幹理工学部の共通基礎である力学、電気・電子回路、化学反応など自然現象の分野に限定する。本講義では、演習を通じて問題の定式化と法則の関係を把握し、共通する考え方、センスを身に付けることを重視する。

(2) 専門選択必修科目

この学科目は、指定された範囲から必ず所定の科目を履修し、定められた単位を修得しなければならない。

(3) 専門選択科目

この学科目は、学生各人の希望によって選択・履修できるものであって、各年度に配当されている学科目の中から選択修得しなければならない。

※専門選択必修科目および専門選択科目の中で、大学院進学の際に単位修得が義務づけられている学科目、単位修得が望ましいとされている学科目等がある。詳細については、年度始めのガイダンスで確認すると共に、疑問がある場合はクラス担任に相談すること。

(4) 自由科目

この学科目は、合格点を取れば単位を与えられ、成績通知書にも記入されるが、卒業必要単位には算入されない。

C群科目履修上の注意

- ・学科目名の次に番号(I, II, III)等を付してある学科目、および特に履修順序の指定されている学科目は、先行して履修すべき学科目の単位を修得していないければ、次の学科目を履修することはできない。
- ・学科目名の次にA, B, Cについている学科目履修の順序に規定はない。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目別
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内(C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部認講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者・再入学者等
20. 科目等履修生・外国留学生

10 学科別C群科目配当表および学修案内

数 学 科

数学科は、数学を幅広く捉え、代数・幾何・解析・統計から計算機科学に至る広範な数学の知識を修得できる学科である。整数論、代数幾何学、代数解析学、微分幾何学、トポロジー、偏微分方程式論、実解析学、変分問題、数学基礎論、数値解析、数理物理学のスタッフがそろい、日本でも類を見ない充実を見ており、それが可能となっている。さらに、応用数理学科と密接な連携を取ることにより、応用数学に関するカリキュラムの一層の充実が行われる。

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A群科目

8. B群科目

9. C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11. D群科目

12. 他学部選講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 後学者、
再入学者等

20. 科目等履修生
外国学生等

所定単位数

所定単位数	専門必修科目	専門選択必修科目	専門選択科目
36単位	18単位	28単位(注)	

(注) 数学科と共通しない応用数学科の専門教育科目も16単位を上限として数学科専門選択科目の所定単位に算入できる。

数学講究着手の条件

- 卒業に必要な136単位のうち100単位以上を取得していること。
- A群科目を18単位以上取得していること。
- B群科目を29単位全てを取得していること。
- C群専門必修科目を28単位以上取得していること。

数学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単位数	一週間に行なわれる授業時間数					
		第1年度		第2年度		第3年度	
		前	後	前	後	前	後
コンピューティングと表現	2	2	0				
モデリング	2	0	2				
代数学序論	4			2	2		
代数学A	4			2	2		
集合と位相	4			2	2		
ベクトル空間と幾何	4			2	2		
多変数解析	4			2	2		
解析学入門	4			2	2		
現代数学演習	2			0	2		
関数論A	2					2	0
数学講究A	2						2
数学講究B	2					0	2
専門必修科目合計	36	2	2	12	14	2	0

(II) 専門選択必修科目 (18単位以上修得すること。)

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
数学基礎論	4					2	2		
代数学B	4					2	2		
測度論	4					2	2		
関数解析A	4					2	2		
微分方程式論A	4					2	2		
幾何学B1	2					2	0		
代数学C1	2					2	0		
関数論B	2					0	2		
幾何学B2	2					0	2		
代数学C2	2					0	2		
幾何学C	2					0	2		
数理生態学	2					0	2		
物理数学	2					0	2		
専門選択必修科目合計	36					14	22		

(III) 専門選択科目

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部講義
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者、 再入学者等
20. 科目等履修生 外国人等

学 科 目 名	単 位 数	一週間にわける授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
確率統計概論	4					2	2		
計算機概論	2					2	0		
保険数学	2					0	2		
数学特別演習	2					0	2		
微分方程式論B	4							2	2
確率論	4							2	2
代数学D1	2							2	0
代数学E1	2							2	0
幾何学D1	2							2	0
幾何学E1	2							2	0
関数論C	2							2	0
関数解析B	2							2	0
数値解析学	2							2	0
応用数学A	2							2	0
数学史	2							2	0
数学特別講究A	2							2	0
代数学D2	2							0	2
代数学E2	2							0	2
幾何学D2	2							0	2
幾何学E2	2							0	2
関数論D	2							0	2
関数解析C	2							0	2
応用数学B	2							0	2
計画数学	2							0	2
数学と文化史	2							0	2
応用位相空間論	2							2	0
数学特別講究B	2							0	2
卒業研究	2							◎	◎
専門選択科目合計	62					4	6	26	24

※この他に、数学科と共通しない応用数理学科の専門科目も16単位を上限として数学科専門科目の卒業単位に算入できる。

応用数理学科

応用数理学科では数学の基礎を学習した上で、理工学や社会科学に現れる現象の本質を数的に抽出する力を身につけることができるよう科目を設置している。設置科目は、講義、実験、演習科目に分かれている。まず、数学の基礎を丁寧に学習するために、数学系の科目は2年次、3年次のうちに履修できるように配置している。

一方、熱統計力学・電磁気学・量子力学などの物理的なセンスを養う科目、プログラミング・回路理論・情報理論などの情報数理に接するための科目、確率統計概論・数理統計学・保険数理などの社会現象を分析・モデル化するための科目は3年次以降に配置されている。これらの科目、および数学系の科目のうち、学科全体の共通基盤となる最重要科目は必修科目となっている。また、3年次と4年次の設置科目を共通化し、個々の学生の興味・特性に合わせて高度な内容の科目も柔軟に履修できる仕組みを設けている。

さらに、実験科目「応用数理実験」を設置し、現実の対象に対するセンスを磨き、それを数理モデルとしてどのように表現するかを学ぶ機会も与えられている。

所定単位数

所定単位数	専門必修科目	専門選択科目
	45単位	37単位(注)

(注) 応用数理学科と共通しない数学科の専門教育科目も16単位を上限として応用数理学科専門選択科目の所定単位に算入できる。

- I 特 徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付 錄

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 進級制度
- 4. 3年次転科

- 5. 学 費
- 6. 学科目別
- 7. A群科目
- 8. B群科目
- 9. C群科目

- 10. 学科別案内
(C群科目)

- 数学
- 応数
- 情報
- 機航
- 電子
- 表現

- 11. D群科目

- 12. 他学部認講

- 13. 教職免許

- 14. 科目登録

- 15. 授業時間帯

- 16. 試 験

- 17. レポート・論文作成

- 18. 成績の表示

- 19. 復学者・再入学者等

- 20. 科目等履修生
　　外国留学生等

応用数理学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数					
		第1年度		第2年度		第3・4年度	
		前	後	前	後	前	後
コンピューティングと表現	2	2	0				
モデリング	2	0	2				
ベクトル空間と幾何	4			2	2		
多変数解析	4			2	2		
集合と位相	4			2	2		
プログラミング基礎	4			2	2		
数理モデル基礎A	2			2	0		
測度論	4					2	2
確率統計概論	4					2	2
回路理論	4					2	2
数値解析	4					2	2
応用数理実験	1					4	0
微分方程式と数理モデル	2					2	0
情報理論	2					2	0
応用位相空間論	2					2	0
専門必修科目合計	45	2	2	10	8	18	8

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部選講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者、 再入学者等
20. 科目等履修生 外国人学生等

(II) 専門選択科目

学 科 目 名	単位数	一週間に行なわれる授業時間数					
		第1年度		第2年度		第3・4年度	
		前	後	前	後	前	後
数理モデル基礎B	2			0	2		
代数学序論	4					2	2
整数論とその歴史	4					2	2
数学基礎論	4					2	2
線形計画法	4					2	2
関数解析A	4					2	2
微分方程式論A	4					2	2
関数論A	2					2	0
数理統計学A	2					2	0
確率と確率過程A	2					2	0
変分法と解析力学A	2					2	0
電磁気学	2					2	0
量子力学の数理A	2					0	2
情報数学	2					2	0
計算機概論	2					2	0
ことばの数理	2					2	0
システムの性能評価理論	2					2	0
原書講読A	2					2	0
経済の数理	2					2	0
関数論B	2					0	2
保険数理	2					0	2
数理統計学B	2					0	2
確率と確率過程B	2					0	2
変分法と解析力学B	2					0	2
熱・統計力学	2					0	2
流体力学	2					0	2
量子力学の数理B	2					2	0
数式処理プログラミング	2					0	2
離散数学	2					0	2
符号理論	2					0	2
信号理論	2					0	2
原書講読B	2					0	2
専門選択科目合計	76			0	2	36	38

*この他に、応用数理学科と共通しない数学科の専門科目も16単位を上限として応用数理学科専門科目の卒業単位に算入できる。

- I 特 徵
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付 錄

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 進級制度
- 4. 3年次転科
- 5. 学 費
- 6. 学科目別
- 7. A群科目
- 8. B群科目
- 9. C群科目
- 10. 学科別案内 (C群科目)
- 数学**
- 応数**
- 情報**
- 機航**
- 電子**
- 表現**
- 11. D群科目
- 12. 他学部認講
- 13. 教職免許
- 14. 科目登録
- 15. 授業時間帯
- 16. 試 験
- 17. レポート・論文作成
- 18. 成績の表示
- 19. 復学者・再入学者等
- 20. 科目等履修生・留学生等

情報理工学科

情報理工学科では、情報技術と通信技術を融合したICT（Information and Communications Technology）系学問領域に関して、基礎的な専門知識を修得した上での高度な専門知識を有する学生を社会に輩出することを目指している。

コンピュータとネットワークの開発と利用を中心としたICTは、社会活動や科学技術を推進するためのキーテクノロジーであり、携帯電話、情報機器、インターネット、ゲーム、ホームオートメーション、ロボット、超高性能コンピュータ、およびそれらを使用する全産業分野の競争力強化のため、当該技術を修得した多数の優れた人材が求められている。本学科では、ハードウェア（システムLSI設計、超高性能コンピュータアーキテクチャ）、ソフトウェアおよび基礎（プログラミング言語、コンパイラ、ソフトウェア工学、アルゴリズム、人工知能）、ネットワーク（インターネット、ディジタル放送、衛星通信、マルチメディア、モバイル、セキュリティ、GRID、ユビキタスネットワーク）、コンピュータ・ネットワーク活動（ヒューマノイド、情報検索、音楽、バイオインフォマティクス）などの最先端技術を統合的に教育・研究し、世界の科学技術の発展に貢献できる人材の育成を目指している。

ICT系として分類される学問は、ハードとソフトの両面をベースとした、情報科学、通信工学、情報工学の一体化によって成り立つ。ICT系学問の修得を目指す学生は、通信と情報の相互関係の深さと、それら基礎の重要性を認識する必要がある。社会的にも、通信と情報の基礎的な専門知識を修得した上での高度なICT系専門知識を有することが要請されている。

ICT系専門知識の修得に加えて、学生に要求される資質は多岐にわたる。例えば、想像力、解析能力、コミュニケーション能力、チャレンジ精神、知識の自己培養、開発・研究のセンス、ベンチャー指向、集団思考からの脱皮、問題設定力、課題探求力、統率力、国際性などの資質が学生に要求されている。それら資質を助長するように、多くの講義は組み立てられているので、学生諸君は、ICT系の専門科目を単に学ぶことで満足することなく、なお一層の精進により、自己の向上を目指して、大きな目的意識をもって積極的かつ自発的に取り組んでほしい。さまざまな分野に積極的に挑戦して、成功と失敗を繰り返すことによって、経験を積み、判断能力を高め、自己啓発を図ることを望みたい。

教育体系に関しては、最先端のハード・ソフト・ネットワークとその活用技術がバランス良く習得できるシステムを用意しており、カリキュラムは個々人の能力を最大限に伸ばし世界で活躍できる技術者の育成を目指して、世界標準とも言えるIEEE/ACM Computing Curricula 2005も考慮した設計になっている。例えば、各科目を1学期で集中的に学べるセメスター制（週2回講義）、少人数クラス並列授業、大学院科目の先取り履修、学部3年から最先端研究が行えるプロジェクト研究などの新しい教育方式も導入している。さらに学部3年次には、情報科学コース、電子情報システムコース、メディア・通信コースの3コースの科目を設置し、当該学問領域の構成・相互関係を理解しやすく学習を進めることができたカリキュラムを用意している。学生はこれらのコースから2コースを取得する。情報科学コースとしては、ソフトウェア工学、プログラミング言語、計算知能論などの科目を設置する。電子情報通信システムコースとしては、オペレーティングシステム、コンピュータアーキテクチャ、言語処理系などの科目を設置する。メディア・通信コースとしては、信号処理、ネットワーク制御と管理、情報理論などの科目を設置する。大学院においても学部での教育内容と有機的関連を持たせてカリキュラム編成を行っており、学部一大学院一貫教育をコンセプトに、計画性のある人材育成とそれに基づく研究の活性化を図っているので、意欲のある学生は、大学院進学を念頭において学生生活を設計してほしい。

ICT系学問領域は、情報・電気・電子・通信・放送・金融・商社・交通・自動車・航空宇宙・バイオ・官公庁・教育などの種々の分野で求められており、またベンチャーなどの新しいビジネスチャンスにも恵まれ、幅広い分野での活躍が期待される。情報理工学科では、情報科学、情報工学、通信工学を基礎から最先端、ハードウェアからソフトウェアまで、相互の関係を考慮しながら、バランスよく有機的に理解させる教育体系を構築しているので、ICT系学問領域の急速な進展に対する強い社会的な要請に鑑み、卒業生への求人はますます増大されることが予想される。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

所定単位数

	専門必修科目	専門選択必修科目	専門選択科目
所定単位数	34単位	16単位	20単位

卒業論文着手の条件

情報理工学科においては、4年次進級時点で以下の条件を満たす学生に対して、卒論着手を許可するものとする。

1. A群については22単位以上（うち英語で8単位以上）を修得していること。
2. B群については31単位すべてを修得していること。
3. C群については2年次までの専門必修科目をすべて修得していること。

なお、詳細については、年度当初のガイダンス時に周知する。

情報理工学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間にに行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
コンピューティングと表現	2	2	0						
モデリング	2	0	2						
プログラミング	3			4	0				
情報数学	2			2	0				
回路理論	2			2	0				
論理回路	2			2	0				
アルゴリズムとデータ構造	3			0	4				
情報理工学実験A	2			0	4				
コンピュータシステム論	2			0	2				
情報ネットワーク	2			0	2				
電子回路	2			0	2				
情報理工学実験B	2					4	0		
卒業論文A	4							○	○
卒業論文B	4							○	○
専門必修科目合計	34	2	2	10	14	4	0		

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目別
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内
(C群科目)
- 数学
- 応数
- 情報
- 機航
- 電子
- 表現
11. D群科目
12. 他学部認講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者・再入学者等
20. 科目等履修生
留学生等

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 単位制
 2. 学位・卒業
 3. 進級制度
 4. 3年次転科
 5. 学 費
 6. 学科目系列
 7. A群科目
 8. B群科目
 9. C群科目
 10. 学科別案内
 (C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
 11. D群科目
 12. 他学部聽講
 13. 教職免許
 14. 科目登録
 15. 授業時間帯
 16. 試験
 17. レポート・論文作成
 18. 成績の表示
 19. 復学者、
 再入学者等
 20. 科目等履修生
 外国学生等

(II) 専門選択必修科目（2つのコースから16単位以上修得すること）

学 科 目 名	単 位 数	一週間にわける授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
[メディア・通信コース]									
信号処理	3					4	0		
ネットワーク制御と管理	3					0	4		
情報理論	2					0	2		
[電子情報システムコース]									
言語処理系	2					2	0		
オペレーティングシステム	3					0	4		
コンピュータアーキテクチャ	3					0	4		
[情報科学コース]									
ソフトウェア工学	3					4	0		
プログラミング言語	3					0	4		
計算知能論	2					0	2		
専門選択必修科目合計	24					10	20		

(II) 専門選択科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
ITと政策	2			2	0				
確率・統計概論	2			2	0				
情報系の生命学	2			0	2				
情報社会論	2					0	2		
情報系の電磁気学	2					2	0		
ロボティクス	2					2	0		
最適化アルゴリズム	2					2	0		
SoC設計技術B	2					2	0		
SoC設計技術C	2					2	0		
トラヒック理論	2					2	0		
高性能計算	2					2	0		
プロジェクト研究A	2					2	0		
情報理工学実験C	2					0	4		
SoC設計技術A	2					0	2		
情報系の量子物理学	2					0	2		
伝送理論	2					0	2		
マルチメディアとモバイル通信	2					0	2		
プロジェクト研究B	2					0	2		
ヒューマンインターフェース	2							2	0
データベース設計	2							2	0
分散組込み・リアルタイム処理	2							2	0
量子コンピュータの基礎	2							0	2
データマイニング	2							2	0
コンテンツ流通システム	2							0	2
情報通信・放送技術	2							0	2
パターン認識	2							0	2
情報セキュリティ	2							2	0
コンピュータグラフィクス	2							0	2
自然言語処理	2							0	2
専門選択科目合計	58			4	2	16	16	10	12

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目別

7.A群科目

8.B群科目

9.C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11. D群科目

12. 他学部選講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者・
再入学者等

20. 科目等履修生
留学生等

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A群科目

8. B群科目

9. C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11. D群科目

12. 他学部選講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者、
再入学者等

20. 科目等履修生
外国学生等

機械科学・航空学科

機械科学・航空学科は、一つの大きな特異分野であると考えられてきた航空分野を、広い意味で機械工学分野の一部と捉えなおし、その分野に対して新たに展開する意図で設立されている。

教育面では科学系の数学・物理などの基礎を背景とした機械系力学すなわち材料力学、流体力学、熱力学およびメカニクス（力学）を中心とした講義、演習、実験、実習をベースとする。これらの学問は、過去の実績や未来を展望するとき、機械系エンジニアがあらゆる産業界で高い信頼を得て永続的活動をするために必須であり、世界に共通するエンジニアとしての道具である。さらに、これらの学問やさまざまな技術を統合して、あらゆる問題を解決する高い能力を備えたエンジニアの養成を目指す。この系統的な学術大系に立脚し、学部と大学院修士課程の一貫教育を原則とする。これらの学問体系は既存技術の高度化・発展に役立つだけでなく、深い造詣と他の追随を許さない新分野展開にも応用できると信じている。

一方、研究面では、航空を加えた新しい分野で着実な研究を展開していく。学部・大学院のコース制度を充実させ、今後は機械工学および航空工学分野のより一層の発展のみならず、さらに高速安全化輸送、高度動力エネルギー、高機能性材料・加工、高精度モデリングなどの分野にも展開させて行く。

所定単位数

所定単位数	専門必修科目	専門選択科目
所定単位数	56単位	18単位

ゼミナール・卒業論文着手の条件

機械科学・航空学科では、3年に「ゼミナール」、4年次に「卒業論文」を必修科目として履修する。これらの科目は機械科学・航空学科における教育の中核をなし、自主的な学習態度が強く要求されると共に、大学院における各専攻分野での教育・研究の出発点となるものである。これらを履修するためには、原則的に、次の条件を満足しなければならない。詳細な条件については、各年度毎にクラス担任より報告がある。

1. 「ゼミナール」を履修するためには、第1年度および第2年度のA群、B群の必修科目、およびC群の専門必修科目の単位を履修していること。
2. 「卒業論文」に着手するためには、第3年度までのA群、B群の必修科目、およびC群の専門必修科目の単位を履修していること。

機械科学・航空学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単位数	一週間にわける授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
コンピューティングと表現	2	2	0						
モデリング	2	0	2						
材料の力学1	3			4	0				
加工実習F	2			4	0				
機械科学と航空宇宙技術	2			2	0				
工学系の数理1	2			2	0				
機械材料学	2			2	0				
工学系のダイナミクス1	3			4	0				
機械科学・航空製図法F	2			0	4				
流体の力学1	3			0	4				
熱力学1	3			0	4				
機械科学・航空設計法F	2			0	4				
工学系の数理2	2			0	2				
材料の力学2	2			0	2				
加工学	2			0	2				
工学系のダイナミクス2	2			0	2				
制御工学F	2			0	2				
機械科学・航空実験1	2					4	0		
流体の力学2	2					2	0		
熱力学2	2					2	0		
機械科学・航空実験2	2					0	4		
ゼミナール	4					2	2		
卒業論文	6							◎	◎
専門必修科目合計	56	2	2	18	26	10	6		

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 進級制度
- 4. 3年次転科
- 5. 学 費
- 6. 学科目別
- 7. A群科目
- 8. B群科目
- 9. C群科目
- 10. 学科別案内
(C群科目)
- 数学**
- 応数**
- 情報**
- 機航**
- 電子**
- 表現**
- 11. D群科目
- 12. 他学部認講
- 13. 教職免許
- 14. 科目登録
- 15. 授業時間帯
- 16. 試 験
- 17. レポート・論文作成
- 18. 成績の表示
- 19. 復学者・再入学者等
- 20. 科目履修修了
外留学生等

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

(II) 専門選択科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間にわける授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
航空材料学	2			0	2				
機械科学・航空製図法A	2					2	0		
機械科学・航空設計法A	2					2	0		
弾性力学	2					2	0		
精密工学	2					2	0		
物造り工学	2					2	0		
解析力学	2					2	0		
数値計算法	2					2	0		
制御工学A	2					2	0		
電子・電機実験	2					4	0		
加工実習A	2					0	4		
制御系の設計と応用	2					0	2		
ターボ機械	2					0	2		
伝熱工学	2					0	2		
高速流体力学	2					0	2		
ガスタービン・ジェットエンジン概論	2					0	2		
燃焼工学	2					0	2		
破壊力学	2					0	2		
航空構造力学	2					0	2		
産業総論	2					0	2		
エネルギー変換工学	2					0	2		
有限要素法	2							0	2
溶接・接合	2							2	0
専門選択科目合計	46			0	2	20	24	2	2

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部講義
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間割
16. 試験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 後学者、 再入学者等
20. 科目等履修生 外国语学生等

電子光システム学科

電子光システム学科は、次世代の高度情報化社会で、重要な学問分野である材料科学、電子工学、フォトニクスについて体系的な教育を提供することを目的として設立された。

具体的には、電磁気学、回路理論、情報工学などの電子工学基礎分野、量子力学、固体物性、ナノテクノロジーなどの物質科学分野、電子デバイス、光デバイスや光通信システム、MEMSなどの電子工学・フォトニクス分野、およびシステムLSI設計、センサネットワークなどの機能集積システム分野、さらに細胞生物学や医用電子工学分野など、ナノからマクロシステムまでの幅広い学問分野を、体系的に学習するカリキュラムを実現している。

その教育方法は少人数教育のメリットを最大限に生かし、年次進行により電子光システム分野を基礎から高度な学問を分かりやすく、かつ無理なく学習することを可能としている。大学院教育は、それぞれの領域に対応した専攻、研究科の修士課程に進学する一貫教育体制を原則としている。

このような教育システムにより、電子光システム分野において、幅広い視野を持ち、創造力のあるスペシャリストの養成が可能になり、次世代の豊かな高度情報化社会をデザインし、活躍できる人材の育成を目標としている。

所定単位数

	専門必修科目	専門選択科目
所定単位数	50単位	22単位

卒業論文着手の条件

学科目履修要領に掲げるものの他、原則として本学科が第2年度までに設置している専門必修科目の内指定科目についてそれらの単位を修得していることが要求される。なお、詳細については、年度当初のガイドナンス時に周知する。

- I 特 徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付 錄

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 進級制度
- 4. 3年次転科
- 5. 学 費
- 6. 学科目別
- 7. A群科目
- 8. B群科目
- 9. C群科目
- 10. 学科別案内
(C群科目)
- 数学
- 応数
- 情報
- 機航
- 電子
- 表現
- 11. D群科目
- 12. 他学部講義
- 13. 教職免許
- 14. 科目登録
- 15. 授業時間帯
- 16. 試 験
- 17. レポート・論文作成
- 18. 成績の表示
- 19. 復学者・再入学者等
- 20. 科目等履修生
留学生等

電子光システム学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

I 特 徴	
II 沿革と概要	
III 学部要項	
IV 学生生活	
V 付 錄	
1. 単位制	
2. 学位・卒業	
3. 進級制度	
4. 3年次転科	
5. 学 費	
6. 学科目系列	
7. A群科目	
8. B群科目	
9. C群科目	
10. 学科別案内 (C群科目)	
数学	
応数	
情報	
機航	
電子	
表現	
11. D群科目	
12. 他学部選講	
13. 教職免許	
14. 科目登録	
15. 授業時間帯	
16. 試 験	
17. レポート・論文作成	
18. 成績の表示	
19. 復学者、 再入学者等	
20. 科目等履修生 外国人等	

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
コンピューティングと表現	2	2	0						
モデリング	2	0	2						
電子光システム演習A	2			4	0				
電子光システム概論	2			2	0				
解析力学	2			2	0				
電磁気学	2			2	0				
回路理論A	2			2	0				
情報理論	2			2	0				
電子光システム演習B	2			0	4				
電子光システム実験A	2			0	4				
量子力学A	2			0	2				
光電磁波工学	2			0	2				
回路理論B	2			0	2				
情報数学	2			0	2				
デジタル回路	2			0	2				
電子光システム演習C	2					4	0		
電子光システム実験B	2					4	0		
固体物性A	2					2	0		
電子デバイス	2					2	0		
電子回路	2					2	0		
光エレクトロニクス	2					2	0		
電子光システム実験C	2					0	4		
分子エレクトロニクス	2					0	2		
卒業論文A	2							4	0
卒業論文B	2							0	4
専門必修科目合計	50	2	2	14	18	16	6	4	4

(II) 専門選択科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間に行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
化学B1 (物理化学)	2			2	0				
生命科学概論A	2			2	0				
化学B3 (無機化学)	2			0	2				
細胞生物学 (概論) A	2			0	2				
量子力学B	2							2	0
熱力学	2							2	0
LSIアーキテクチャ	2							2	0
量子化学	2							2	0
伝送理論	2							2	0
数理モデル基礎A	2							2	0
数学E (関数論)	2							2	0
固体物性B	2							0	2
統計力学	2							0	2
物理化学	2							0	2
計測工学	2							0	2
量子デバイス	2							0	2
計算科学	2							0	2
マイクロプロセッサ	2							0	2
光通信システム	2							0	2
物質移動論	2							0	2
MEMS	2							2	0
医用電子工学	2							2	0
高密度集積回路	2							2	0
高周波回路	2							2	0
DA集積化技術	2							2	0
センサ工学	2							2	0
センサネット	2							2	0
電子産業論	2							2	0
SoC設計技術B	2							2	0
SoC設計技術C	2							2	0
SoC設計技術A	2							0	2
専門選択科目合計	62			4	4	14	18	20	2

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

表現工学科

表現工学科は、生活に密着した具体的なプロジェクトに参加することを中心とした研究教育を行う。

表現工学科が意図する科学技術とアートの双方の新たな融合的進化は、国際的な広がりを持つ映像・コンテンツ産業に匹敵する「産業」を創成することが期待される。即ち、このような融合的進化により、多様なポテンシャルを持った人が多様なアートの制作に携われるようになることにより、日本におけるアートレベルの向上が促され、結果的にあたらしいライフスタイル産業やインターフェイス産業が生成されることが期待される。

所定単位数

所定単位数	専門必修科目	専門選択科目
60単位	16単位	

卒業論文着手の条件

1. B群科目を19単位以上履修しておくこと。
2. C群専門必修科目を32単位以上履修しておくこと。

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A群科目

8. B群科目

9. C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11. D群科目

12. 他学部聽講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者、
再入学者等

20. 科目等履修生

外国学生等

表現工学科 専門教育科目配当表

(I) 専門必修科目

学 科 目 名	単位数	一週間にわける授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
コンピューティングと表現	2	2	0						
モデリング	2	0	2						
キャリアデザイン1	4			4	4				
オルタナティブ・メディア制作	4			4	0				
コンピュータグラフィックス基礎	4			4	0				
文章表現基礎	2			2	0				
芸術工学基礎	2			2	0				
音・音楽表現	4			0	4				
立体映像表現	4			0	4				
コンピュータ・アート基礎	2			0	2				
人工知能の基礎	2			0	2				
画像処理基礎1	2			0	2				
プロジェクト学習1	6					6	6		
キャリアデザイン2	4					4	4		
プロジェクト学習2	6							6	6
キャリアデザイン3	4							4	4
卒業論文・製作	6							○	○
専門必修科目合計	60	2	2	16	18	10	10	10	10

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目別

7.A群科目

8.B群科目

9.C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11. D群科目

12. 他学部認講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者・
再入学者等

20. 科目履修生
留学生等

(II) 専門選択科目

学 科 目 名	単 位 数	一週間にわける授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
【アート&デザイン系科目】									
コンピュータ・グラフィック制作 I	4					4	0		
インター・メディア作曲 I	4					4	0		
写真表現 I	4					4	0		
メディアアート表現論	2					2	0		
情報デザイン論	2					2	0		
芸術表現論 I	2					2	0		
音楽プログラミング I	2					2	0		
音楽プログラミング II	2					0	2		
特殊映像合成	2					集中	0		
写真表現 II	4					0	4		
コンピュータ・グラフィック制作 II	4					0	4		
インター・メディア作曲 II	4					0	4		
メディアデザイン論	2					0	2		
芸術表現論 II	2					0	2		
視覚芸術原論	2					0	2		
音空間デザイン	2					0	2		
インターラクション研究	2					2	0		
【メディアマネージメント系科目】									
視覚芸術キュレーション論	2					2	0		
視覚芸術マネージメント I	2					2	0		
コンテンツクリエイティビティビジネス	2					2	0		
メディア産業論	2					2	0		
アートマネージメント	2					集中	0		
視覚メディアマネージメント II	2					0	2		
出版企画・編集論	2					0	2		
コンテンツマーケティングリサーチ	2					0	2		
【表現技術系科目】									
画像処理基礎2	2					2	0		
メディア・エルゴノミックス	2					0	2		
インターラクティブ・センシング I	2					2	0		

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 進級制度
- 4. 3年次転科
- 5. 学 費
- 6. 学科目別
- 7. A群科目
- 8. B群科目
- 9. C群科目
- 10. 学科別案内
(C群科目)

- 数学
- 応数
- 情報
- 機航
- 電子
- 表現
- 11. D群科目
- 12. 他学部認講
- 13. 教職免許
- 14. 科目登録
- 15. 授業時間帯
- 16. 試 験
- 17. レポート・論文作成
- 18. 成績の表示
- 19. 復学者・再入学者等
- 20. 科目等履修生
　　外国学生等

学 科 目 名	単 位 数	一週間にに行なわれる授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
統計・パターン認識	2					2	0		
放送技術Ⅰ	2					2	0		
信号処理	2					2	0		
音響学	2					2	0		
音響表現基礎	2					2	0		
バーチャルリアリティ制作	4					4	0		
コミュニケーション学概論	2					0	2		
マルチメディアシステム基礎	2					2	0		
インタラクティブ・センシングⅡ	2					0	2		
放送技術Ⅱ	2					0	2		
情報理論	2					0	2		
録音技術論	2					0	2		
音声処理	2					2	0		
音コミュニケーション	2					0	2		
専門選択科目合計	98					52	42		

11 D群科目（保健体育・自主挑戦科目）

(1) 保健体育科目

本学部の学科目の単位のほかに保健体育科目を自主挑戦科目と併せて4単位までを卒業に必要な単位数として履修することができる。

1年間に履修できる保健体育科目は、2科目に限る。その組み合わせは、スポーツ理論とスポーツ実習をどのように組み合わせてもよい。

詳細については、オープン教育センターの発行する『ガイドブック』を参照すること。

(2) 自主挑戦科目

「理工文化論」

20世紀は人類史上最も「理工文明」の栄えた時代であった。21世紀に人類に課された命題は、その成果をいかに人類に回帰するかにある。すなわち、21世紀は「理工文明」から「理工文化」への脱却の時代であると言っても過言ではない。本講義では、早稲田大学教授陣に加えて各界のオピニオン・リーダーでもある、学外の著名な科学者・文化人がそれぞれの立場から「理工文化」への熱き思いを語る。

講義への出席状況および提出されたレポートによって評価が行われ、所定の基準以上の評価を得た者にD群科目として2単位が与えられる。

「ボランティア」

この科目は学内外で学生が自らの意志で自発的に関わった福祉、災害救援、人権、平和、環境などの人間社会の切実な諸問題に対する活動を、次年度に「活動報告」と「活動を通じて何を得たかを述べたレポート」の2つの提出物をもとに評価して単位を与える科目である。

例えば、2007年度の活動に対しては、2008年度の4月に科目登録をおこない、評価後認定されればD群科目として2単位が与えられる。

「インターンシップ」

夏季および春季休業期間中に、関連の企業や研究所において、学科専門科目で学習したことが実際の生産現場等でどのように活用されているのかを見聞し体得する。

評価については、受け入れ先からの報告と学生の研修レポートおよびプレゼンテーション等を総合的に判断しておこなう。海外における研修も対象とする。

(注意)事前に理工学統合事務所にインターンシップ参加申請書を必ず提出すること。このことにより「学生教育研究災害傷害保険(早稲田大学の正規学生は全員対象)」の対象となる。(死亡保険金、後遺症損害保険金)
また「学生教育研究損害賠償責任保険(大学が認めたインターンシップでの活動中に他人に怪我をさせたり、他人の財物を損壊した場合の損害賠償責任を補償する制度)」への加入を原則とする。

自主挑戦科目配当表

学 科 目 名	単 位 数	一週間にわける授業時間数							
		第1年度		第2年度		第3年度		第4年度	
		前	後	前	後	前	後	前	後
理工文化論	2	2	0						
ボランティア	2			◎	◎				
インターンシップ	2					◎	◎		

12 他学科・他学部・他学術院等設置科目の聽講

(1) 他学科・他学部・他学術院設置科目

他学科・他学部・他学術院の学科目を聽講し、単位を修得した場合には、以下の表に基づき、卒業に必要な単位数に算入することができる。

具体的な算入の際の規定は、以下のとおりである。

- ① 他学科・他学部・他学術院聽講科目で、卒業に必要な単位数に算入される単位は、A群～C群科目で設定されている所定単位数には算入せず、系列を問わず、一律、卒業に必要な単位数の中で任意に選択できる「卒業必要単位数—(A～C群の所定単位数)」の中に算入する。
- ② 各学科の「卒業必要単位数—(A～C群の所定単位数)」または学科が定める上限を超えて単位を修得した場合は、一律、自由科目（卒業に必要な単位に算入できない）として取り扱う。
- ③ 設置学部が聽講を認める科目については、科目的系列を問わず、すべて他学科・他学部および他学術院の聽講科目として取り扱う。ただし、所属学科に設置されている科目と同一名称および実質的に同一内容の科目的聽講は認めない。

* 数学科及び応用数理学科は、別途、聽講科目に制限を設けているので、科目登録前にクラス担任と相談し、指導を受けること。

- ④ 原則として、実験・実習・演習・製図科目および卒業論文または卒業研究は他学科・他学部・他学術院聽講を認めない。ただし、科目配当学科が許可した場合にはこの限りでない。

基幹理工学部内他学科・理工学術院内他学部・他学術院聽講の扱い(卒業必要単位数に算入できる上限単位数)

学科名	他学科聽講	理工学術院内他学部聽講	他学術院聽講	計
数学科	3 単位 ※応用数理学科を除く	3 単位	3 単位	3 単位
応用数理学科	3 単位 ※数学科を除く	3 単位	3 単位	3 単位
情報理工学科	制限なし			
機械科学・航空学科	制限なし			
電子光システム学科	制限なし			
表現工学科	12単位	12単位	12単位	12単位

※数学科と応用数理学科間の単位互換についてはⅢ-10の数学科および応用数理学科の「C群科目配当表および学修案内」を参照すること。

I 特 徵
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目別
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内(C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部聽講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者・再入学者等
20. 科目等履修生・外国留学生

I 特 徵
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部聽講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者、 再入学者等
20. 科目等履修生 外国人学生等

【理工学術院（基幹・創造・先進）以外の科目を履修した場合の単位取扱区分】

科 目 設 置 箇 所	科 目	区 分
他学術院	「学部等提供オープン科目」, その他他学部設置科目	他学術院聽講
	「教職に関する科目」(教育学部)	教職課程 *卒業必要単位数には算入されない
オープン教育センター	「講義科目」	A1群に 8 単位まで算入可能 / 9 単位 目からは他学術院聽講
	「テーマカレッジ演習科目」	
	「言語科目(英語以外)」	A2群に 4 単位まで算入可能 / 5 単位 目からは他学術院聽講
	「Tutorial English」(※)	他学術院聽講
	「保健体育科目」	本要項「11 D群科目」参照
	その他	A2群「自由科目扱い」 *卒業必要単位数には算入されない
f-Campus 加盟大学（学習院大学, 日本女子大学, 学習院女子大学, 立教大学）	f-Campus 加盟大学提供科目	他学術院聽講
武蔵野美術大学, 東京家政大学, 東京女子医科大学, 京都地域45大学・短期大学	「各科目」, 「オープン科目」	他学術院聽講
メディアネットワークセンター (MNC)	「各科目」, 「オープン科目」	B4群「自由科目扱い」 *卒業必要単位数には算入されない
日本語教育センター	「オープン科目」, その他	他学術院聽講

* 2008年後期から大久保キャンパスにおいても開講予定。

(2) オープン科目

早稲田大学には、学部・学年を問わず全学生が履修できる科目が数多くある。これらの科目を総称して、「オープン科目」という。オープン科目には、オープン教育センターから提供する科目のほかに、学部や研究科、多くのセンターから、多彩な科目が提供されている。

所属学部独自のカリキュラムに加え、「オープン科目」を選択履修し、修得した単位を、所属学部の規定にしたがって、卒業単位に算入することができる。学部の授業と、学部の垣根を越えた総合大学ならではのスケールで学ぶことのできるオープン科目を上手に組み合わせて、自分の社会をひろげ、学ぶことの楽しさを実感して欲しい。

オープン科目の種類と内容の確認方法

項目 科目設置箇所	科目を探す	講義内容を 知る	単位の取扱を 確認する	科目登録方法 を確認する	授業・試験方法 を確認する
1 学部・研究科 (約800科目クラス)					
2 オープン教育センター (約1,260科目クラス)※1					
3 メディアネットワークセンター (約170科目クラス)※2					
4 日本語教育研究センター (約10科目クラス)※3					
5 留学センター (約10科目クラス)※4					
6 協定他大学 (2年生以上対象) (約1,200科目クラス)	オープン教育セ ンターホームページ および他大 学交流システム (*1)で確認可 能。	シラバスステ ム(Web)で確認 が可能。	所属学部が発行 する「学部要項」 および手引き、 マニュアル等で 確認が可能。	オープン教育セ ンターが発行す る「科目登録の 手引き」で確認 が可能。	科目を設置して いる学部・セン ターのホームページ または掲示 板で確認が可 能。
					科目を提供して いる大学のホー ムページ(*2)か ら確認が可能。

* 1...協定他大学提供科目を検索、登録するためのサイト。アクセス方法は、オープン教育センターが発行する「科目登録の手引き」で確認が可能。

* 2...各大学ホームページURLは、オープン教育センターが発行する「科目登録の手引き」で確認が可能。

※ 1 オープン教育センター (URL : <http://www.waseda.jp/open/>)

オープン教育センターは、所属学部で学ぶ専門・専攻とは全く異なる分野を学習できる多種多様な科目を開設し、全学部の学生が共通に履修できる科目を実現・提供している。

社会連携講座（時代をリードする著名なゲストを招聘）、テーマカレッジ（ゼミ形式で深く分野を掘り下げる学部横断型ゼミナール）、Tutorial English・チュートリアル中国語・コミュニケーション言語科目・（実践スキルを磨く少人数語学科目）、異文化交流実践講座～CCDL（テレビ会議システムにより、海外の大学とリアルタイムに交流することで、異文化理解を深めることができる ※2008年度よりテーマ別にリニューアルされ、バージョンアップ）や早稲田大学以外では学ぶことが難しい稀少言語科目、文科系学生を対象とした自然科学プログラム、多数の特色あるスポーツ実習などを設置している。

また、2007年度からは、主専攻に加え「第二の強み」を持つことができる「テーマスタディ（全学共通副専攻）」を実施している。

※ 2 メディアネットワークセンター (URL : <http://www.waseda.jp/mnc/index-j.html>)

メディアネットワークセンターは、高度情報化社会に対応した研究・教育、情報環境の整備等を行うことを目的とした学部とは独立した組織であり、教育については、情報に関するオープン科目を全学に提供している。

電子メールを使ったコミュニケーション、情報検索、Webページ作成などの情報リテラシーの習得・向上が可能な基礎的な科目（「情報基礎演習」）から、ネットワークの設計・構築・検証を行う専門的・実務的な科目（「ネットワーク技術」）まで、さまざまな科目を設置している。また、オンデマンド授業も設

I 特 徵

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目別

7.A群科目

8.B群科目

9.C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11. D群科目

12. 他学部選講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者・
再入学者等

20. 科目等履修生
留学生等

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

置しており、この科目については受講可能期間中であれば、いつでも、どこからでも、繰り返して受講することが可能である。また、2008年度より「テーマスタディ（全学共通副専攻）」に、MNCの科目を中心構成される「ソフトウェア学」「データ解析」の2コースを設置する。

※ 3 日本語教育研究センター (URL : <http://www.waseda.jp/cjl/>)

早稲田大学に在籍している外国人留学生数は2700名を超え、1200名以上が日本語科目を履修している。日本語教育研究センターは、大学院日本語教育研究科と連動しながら、全学の外国人留学生を対象に「日本語科目」を開講し、また主に日本人学生を対象とした日本語・日本語教育に関する「オープン科目（テーマスタディ指定科目）」や「公開講座」、「オンデマンド講座」を開講している。さらに、日本人学生を対象に「日本語授業ボランティア」を募集しており、約450名の早大生が留学生の日本語学習パートナーとして活躍している。

日本語教育、国際交流に関心のある早大生は、はじめに日本語教育学を幅広くわかりやすく学習できる「日本語教育学入門」を履修して欲しい。

※ 4 留学センター (URL : <http://www.waseda.jp/cie/index-j.html>)

留学センターは、早稲田大学における教育の国際化を推進するために設立された組織である。国際教育プログラムの実施拠点であるとともに、海外からの留学生の受け入れや早大生の海外留学を実施している。

国際教育プログラムとして、留学センターでは、北京大学ダブルディグリープログラム、TSAプログラムで留学している学生を対象とした北京設置科目と、TSA/ISAプログラムで留学した学生が帰国後に日本で受講できるハーバード大学との共同設置科目を開講している。

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A群科目

8. B群科目

9. C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11. D群科目

12. 他学部選講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試験

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者、
再入学者等

20. 科目等履修生
外国语学生等

13 教員免許状の取得方法

中学校・高等学校の教育職員（以下「教員」という）となるためには、教員免許状を取得しなければならない。そのためには、卒業に必要な単位のほかに、「教科に関する科目」、「教職に関する科目」（教育学部設置）および「教科又は教職に関する科目」を履修する必要がある。

教員免許状の取得を希望する学生は、**教育学部教職課程発行の『教職課程履修の手引』を熟読の上、1年生から計画を立て必要な科目を履修すること。**「教科に関する科目」は、原則として別掲の各学科ごとの「教科に関する科目一覧表」にしたがって履修する。「教職に関する科目」の授業は教育学部（西早稻田キャンパス）で行うので、教育学部による科目登録日程等の掲示には十分注意すること。

本学部で取得できる教員免許状の種類、免許状取得に関する最低修得単位数、教職に関する科目、教科に関する科目、教科又は教職に関する科目の内容、各学科の設置科目は次の通りである。

(1) 各学科で取得できる教員免許の種類

学 科	免許状の種類	
	中学 1 種	高校 1 種
数 学 科	数 学	数 学 情 報
応 用 数 理 学 科	数 学	数 学 情 報
情 報 理 工 学 科	数 学	数 学 情 報
機 械 科 学 · 航 空 学 科	数 学 理 科	数 学 理 科
電 子 光 シ ス テ ム 学 科	数 学	数 学 情 報
表 現 工 学 科		情 報

(2) 免許状取得に関する最低修得単位数

免許状の種類	基礎資格	日本国憲法 (注 1)	体 育 (実技) (注 2)	外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン (注 3)	情 報 機 器 の 操 作 (注 4)	教 職 に 関 す る 科 目 (注 4)	教 科 に 関 す る 科 目	教 科 又 は 教 職 に 関 す る 科 目 (注 5)
中学校教諭 1種免許状	学士の学位を 有すること	2	2	2	2	32	20	7
							合計 59 単位	
高等学校教諭 1種免許状	学士の学位を 有すること	2	2	2	2	26	20	13
							合計 59 単位	

(注1) 日本国憲法に関する単位は、本学部配当「憲法Ⅰ」・「憲法Ⅱ」（各 2 単位をすべて履修のこと）が該当する。
(注2) 体育の単位は、オープン教育センター設置の「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」が該当する。

(注3) 外国語コミュニケーションは、本学部配当「Communication strategies 1」、「Communication strategies 2」、「Academic Lecture Comprehension 1」、「Academic Lecture Comprehension 2」（各 1 単位をすべて履修のこと）が該当する。

(注4) 情報機器の操作は、本学部配当「コンピュータリテラシー」（2 単位）が該当する。

(注5) 「教科に関する科目」「教職に関する科目」の最低修得単位数を越えて修得した単位も「教科又は教職に関する科目」として算入される。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3 年次転科
5. 学 費
6. 学科目別
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部認講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試 験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者・ 再入学者等
20. 科目履修性 外留学生等

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別割内 (C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部選講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者、 再入学者等
20. 科目等修習 外国人学生等

(3) 教職に関する科目

教職に関する科目の年間登録制限単位数は20単位である。

教育職員免許法施行規則に定められている科目	必要単位	教育学部設置科目	単位	履修方法
教職の意義等に関する科目	2	教職概論(小・中・高) または 教職概論(中・高)	2	必修
教育の基礎理論に関する科目	6	教育基礎総論(小・中・高) または 教育基礎総論(中・高)	4	必修
		教育心理学(小・中・高)		
教育課程及び指導法に関する科目	中学 13	教育課程の意義及び編成の方法	1	必修
		各教科の指導法	4	
		道徳の指導法	2	中学のみ必修
		特別活動の指導法	2	
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	2	
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	高校 9	生徒指導の理論及び方法	2	必修
		進路指導の理論及び方法	2	
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	2	
総合演習	4	生徒指導・進路指導論(小・中・高) または 生徒指導・進路指導論(中・高)	2	必修
		生徒理解と教育相談(小・中・高)	2	
教育実習	2	総合演習(小・中・高) または 総合演習(中・高)	2	(注3)
		教育実習演習(中学) ※3週間実習者	5	
	高校 3	教育実習演習(高校) ※2週間実習者	3	
最低修得単位数	中学32・高校26			

(注1) 「教科教育法」は、各自が取得を希望する免許状の教科ごとに履修すること。高等学校1種免許状を取得する場合に「教科教育法3」を履修した場合は、「教科又は教職に関する科目」の単位に算入される。

(注2) 高等学校1種免許状を取得する場合に「道徳教育論」を履修した場合は、「教科又は教職に関する科目」の単位として算入される。

(注3) 中学校の免許状を取得する場合、「教育実習演習(中学)」を履修すること。

・高等学校のみの免許状を取得する場合、「教育実習演習(高校)」を履修すること。

・中学校・高等学校の両免許状を取得する場合、「教育実習演習(中学)」のみ登録すること。

・教育実習を行うには各種の前提条件が設定されている。この条件を満たさない場合は教育実習を行えないもの注意すること。

(4) 教科又は教職に関する科目

教育職員免許法施行規則に定められている科目	教育学部設置科目	単位	履修方法
教科又は教職に関する科目（注2）	介護体験実習講義（注1）	2	中学のみ必修 選択
	教職研究 VI, VII	2	
	教育インターンシップ	4	
	人間理解基盤講座	2	
	学習指導基盤講座	2	

(注1) 介護等体験を行うには前提条件が設定されている。この条件を満たさない場合は介護等体験が行えないもので注意すること。中学校1種免許状を取得する場合に、介護等体験は必要となる。

詳細は教育学部教職課程発行の『教職課程履修の手引』を参照のこと。

(注2) 「教科に関する科目」「教職に関する科目」の最低修得単位数を越えて修得した単位も「教科又は教職に関する科目」として算入される。

(5) 教科に関する科目の履修方法

各教科の「教科に関する科目」について、各項目ごとに1単位以上、計20単位以上修得する必要がある。

免許 教科	中学校教諭1種免許状	高等学校教諭1種免許状
	教科に関する科目	教科に関する科目
数学	代数学 幾何学 解析学 *「確率論、統計学」 コンピュータ	代数学 幾何学 解析学 *「確率論、統計学」 コンピュータ
理科	物理学 物理学実験（コンピュータ活用を含む。） 化学 化学実験（コンピュータ活用を含む。） 生物学 生物学実験（コンピュータ活用を含む。） 地学 地学実験（コンピュータ活用を含む。）	物理学 化学 生物学 地学 *「物理学実験（コンピュータ活用を含む。） 化学実験（コンピュータ活用を含む。） 生物学実験（コンピュータ活用を含む。） 地学実験（コンピュータ活用を含む。）」
工業		工業の関係科目 職業指導
情報		情報社会及び情報倫理 コンピュータ及び情報処理（実習を含む。） 情報システム（実習を含む。） 情報通信ネットワーク（実習を含む。） マルチメディア表現及び技術（実習を含む。） 情報と職業

*「 」内のものは、科目群を表す。科目群の修得方法は、「 」内の科目一つ以上にわたって上記の表に挙げる単位を修得しなければならない。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目別

7.A群科目

8.B群科目

9.C群科目

10.学科別案内
(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11.D群科目

12.他学部認講

13.教職免許

14.科目登録

15.授業時間帯

16.試 験

17.レポート・論文作成

18.成績の表示

19.復学者・
再入学者等

20.科目等履修生
外国留学生

(6) 学科別教科に関する科目一覧表

各学科には取得できる免許状の種類に応じて教科に関する科目が設置されているが、不足する科目については他学科・他学部聴講によって補う必要がある。実験を他学科聴講する場合は、設置学科の許可が必要のため、授業開始前に理工学統合事務所に申し出ること。

数学科：数学

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数
			中学	高校		
1. 単位制 2. 学位・卒業 3. 進級制度 4. 3年次転科 5. 学 費 6. 学科目系列	代 数 学	○数学A2	5		代数学B	4
		○代数学序論	4		代数学C1	2
		○代数学A	4		代数学C2	2
					代数学D1	2
					代数学D2	2
					代数学E1	2
					代数学E2	2
					数学史	2
					数学と文化史	2
7. A群科目 8. B群科目 9. C群科目 10. 学科別案内 (C群科目)	幾 何 学	○基礎の数学	2		幾何学D1	2
		○ベクトル空間と幾何	4		幾何学D2	2
		○集合と位相	4		幾何学E1	2
		○関数論A	2		幾何学E2	2
		幾何学B1	2		関数論B	2
		幾何学B2	2	1科目 選択必修	関数論C	2
		幾何学C	2		関数論D	2
11. D群科目 12. 他学部聴講 13. 教職免許 14. 科目登録 15. 授業時間帯 16. 試験 17. レポート・論文作成 18. 成績の表示 19. 復学者、再入学者等 20. 科目等履修生 外留学生等	解 析 学	○数学B2	6		関数解析A	4
		○解析学入門	4		関数解析B	2
		○モデリング	2		関数解析C	2
		○多変数解析	4		微分方程式論B	4
					応用数学B	2
					測度論	4
「確率論、統計学」	確率統計概論	4	1科目 必修	1科目 必修	保険数学	2
					確率論	4
					応用数学A	2
					計画数学	2
コンピュータ	○Cプログラミング入門	2			数学基礎論	4

- ① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 - ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の『教職課程履修の手引』を参照のこと。
- 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。

数学科：情報

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数
			高校			
情報社会及び情報倫理	高度情報社会における人間関係 情報倫理	2 2	2科目 必修			
コンピュータ及び情報処理（実習を含む）	計算機概論	2	1科目 必修	数値解析学		2
情報システム（実習を含む）	※ソフトウェア工学（情報）	3	1科目 必修	※データベース設計（情報） ※データマイニング（情報）	2 2	
情報通信ネットワーク（実習を含む）	※情報ネットワーク（情報） ※ネットワーク制御と管理（情報）	2 3	2科目 必修	※トラヒック理論（情報） ※伝送理論（情報） ※信号処理（情報） ※情報セキュリティ（情報）	2 2 3 2	
マルチメディア表現及び技術（実習を含む）	○コンピューティングと表現	2	/			
情報と職業	※情報社会論（情報）	2	1科目 必修			

① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。

② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の『教職課程履修の手引』を参照のこと。

「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。

「※」の科目は他学科・他学部（他箇所）聴講科目であり、（ ）は設置箇所名を表す。

I 特 徵

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目別

7. A群科目

8. B群科目

9. C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11. D群科目

12. 他学部認講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者・再入学者等

20. 科目履修生
留学生等

I 特 徵	応用数理学科：数学					
II 沿革と概要	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数
III 学部要項			中学	高校		
IV 学生生活						
V 付 錄						
1. 単位制						
2. 学位・卒業						
3. 進級制度						
4. 3年次転科						
5. 学 費						
6. 学科目系列						
7. A群科目						
8. B群科目						
9. C群科目						
10. 学科別案内 (C群科目)						
数学						
応数						
情報						
機航						
電子						
表現						
11. D群科目						
12. 他学部聽講						
13. 教職免許						
14. 科目登録						
15. 授業時間帯						
16. 試 験						
17. レポート・ 論文作成						
18. 成績の表示						
19. 復学者、 再入学者等						
20. 科目等履修生 外国人学生等						

- ① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の『教職課程履修の手引』を参照のこと。
 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。
 「※」の科目は他学科・他学部（他箇所）聴講科目であり、（ ）は設置箇所名を表す。

応用数理学科：情報

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数
			高校			
情報社会及び情報倫理	高度情報社会における人間関係 情報倫理	2 2	2科目必修			
コンピュータ及び情報処理（実習を含む）	○プログラミング基礎 ○回路理論 ○数値解析 ※計算機概論（数学）	4 4 4 2	1科目必修	数式処理プログラミング 情報数学 離散数学	2 2 2	
情報システム（実習を含む）	※ソフトウエア工学（情報）	3	1科目必修	※データベース設計（情報） ※データマイニング（情報）	2 2	
情報通信ネットワーク（実習を含む）	※情報ネットワーク（情報） ※ネットワーク制御と管理（情報）	2 3	2科目必修	※トラヒック理論（情報） ※伝送理論（情報） ※信号処理（情報） ※情報セキュリティ（情報）	2 2 3 2	
マルチメディア表現及び技術（実習を含む）	○コンピューティングと表現	2		ことばの数理	2	
情報と職業	※情報社会論（情報）	2	1科目必修			

① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。

② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の『教職課程履修の手引』を参照のこと。

「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。

「※」の科目は他学科・他学部（他箇所）聴講科目であり、（ ）は設置箇所名を表す。

I 特 徵

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目別

7. A群科目

8. B群科目

9. C群科目

10. 学科別案内（C群科目）

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11. D群科目

12. 他学部聽講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者・再入学者等

20. 科目履修生・外國留学生

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A群科目

8. B群科目

9. C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11. D群科目

12. 他学部聴講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試験

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者、
再入学者等20. 科目等履修生
外国人学生等

情報理工学科：数学

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数
			中学	高校		
代 数 学	○数学A2 ○回路理論	5 2	/	/		
幾 何 学	○基礎の数学 ※数学E（電子光） ※数学C（先進：科学、先進：電生）	2 2 2	2科目 必修	2科目 必修	※ベクトル空間と幾何（数学） ※集合と位相（数学） ※幾何学B1（数学） ※幾何学B2（数学） ※幾何学C（数学）	4 4 2 2 2
解 析 学	○数学B2 ○モデリング	6 2	/	/	※数学D（創造：社工、創造：資源、先進：化学、先進：電生）	2
「確 率 論、統 計 学」	確率・統計概論	2	1科目 必修	1科目 必修	情報理論	2
コンピュータ	○Cプログラミング入門 ○情報数学 ○コンピュータシステム論 ○論理回路	2 2 2 2	/	/	最適化アルゴリズム プログラミング言語	2 3

- ① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の『教職課程履修の手引』を参照のこと。
 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。
 「※」の科目は他学科・他学部（他箇所）聴講科目であり、（ ）は設置箇所名を表す。

情報理工学科：情報

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数
			高校			
情報社会及び情報倫理	高度情報社会における人間関係 情報倫理	2 2	2科目 必修			
コンピュータ及び情報処理(実習を含む)	○プログラミング ○アルゴリズムとデータ構造 ○情報理工学実験A ○電子回路 ○オペレーティングシステム ○コンピュータアーキテクチャ	3 3 2 2 3 3	2 2 1 1 2 2	斜線	高性能計算	2
情報システム(実習を含む)	ソフトウェア工学	3	1科目 必修		データベース設計 データマイニング	2 2
情報通信ネットワーク(実習を含む)	○情報ネットワーク ○情報理工学実験B ネットワーク制御と管理	2 2 3		1 1 1	トラヒック理論 伝送理論 信号処理 情報セキュリティ	2 2 3 2
マルチメディア表現及び技術(実習を含む)	○コンピューティングと表現 コンピュータグラフィックス マルチメディアとモバイル通信	2 2 2		2 2 2	計算知能論 自然言語処理 パターン認識 情報通信・放送技術 言語処理系 情報理工学実験C	2 2 2 2 2 2
情報と職業	情報社会論	2	1科目必修			

① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。

② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の『教職課程履修の手引』を参照のこと。
「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。

I 特 徵

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目別

7. A群科目

8. B群科目

9. C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11. D群科目

12. 他学部認講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者・再入学者等

20. 科目履修生
留学生等

機械科学・航空学科：数学

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数
			中学	高校		
代 数 学	○数学A2 ○工学系の数理1 ○工学系のダイナミクス1	5 2 3	/	/		
幾 何 学	○基礎の数学 ○工学系のダイナミクス2 数学C（先進：化学、先進：電生） 数学E（電子光） ※ベクトル空間と幾何（数学）	2 2 2 4	/	/	3科目必修 3科目必修	
解 析 学	○数学B2 ○工学系の数理2 ○モデリング 数学D（創造：社工、創造：資源、 先進：化学、先進：電生）	6 2 2 2	/	/	解析力学	2
「確率論、統計学」	○熱力学2 ※確率統計概論（応数）	2 4	1科目必修	1科目必修		
コンピュータ	○Cプログラミング入門	2	/	/	FORTRANプログラミング入門 Javaプログラミング入門 FORTRANプログラミング Javaプログラミング Cアプリケーションデベロップメント 数値計算法 有限要素法	2 2 2 2 2 2 2

- ① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の『教職課程履修の手引』を参照のこと。
 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。
 「※」の科目は他学科・他学部（他箇所）聴講科目であり、（ ）は設置箇所名を表す。

I 特 徵

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A群科目

8. B群科目

9. C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11. D群科目

12. 他学部聽講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者、再入学者等

20. 科目等履修生
外国语学生等

機械科学・航空学科：理科

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数
			中学	高校		
物理 学	○基礎物理学A ○基礎物理学B ○流体の力学1 ○流体の力学2 ○材料の力学1 ○材料の力学2 ○制御工学F	2 2 3 2 3 2 2			現代物理学 制御工学A	2 2
化 学	○化学C ○熱力学1	2 3			燃焼工学 エネルギー変換工学	2 2
生 物 学	生命科学概論A 生命科学概論B	2 2	1科目 選択必修	1科目 選択必修		
地 学	※地球科学A(創造:資源、創造:社工、先進:物理、先進:応物) ※地球科学B(創造:資源、創造:社工、先進:物理、先進:応物)	2 2	2科目 必修	2科目 必修		
物理学実験 (コンピュータ活用を含む)	○機械科学・航空実験1 ○機械科学・航空実験2 ○理工学基礎実験2A	2 2 2				
化 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	○理工学基礎実験1B	3				
生物学実験 (コンピュータ活用を含む)	※生物学実験(先進:生医)	1	1科目 必修			
地 学 実 験 (コンピュータ活用を含む)	※地球科学実験A(創造:資源) ※地球科学実験B(創造:資源)	1 1	1科目 選択必修			

- ① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の『教職課程履修の手引』を参照のこと。
 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。
 「※」の科目は他学科・他学部(他箇所) 講義科目であり、()は設置箇所名を表す。

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目別

7.A群科目

8.B群科目

9.C群科目

10.学科別案内
(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11.D群科目

12.他学部認講

13.教職免許

14.科目登録

15.授業時間帯

16.試 験

17.レポート・論文作成

18.成績の表示

19.復学者・再入学者等

20.科目等履修生
留学生等

電子光システム学科：数学

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数
			中学	高校		
代 数 学	○数学A2 ○回路理論A ○回路理論B	5 2 2				
幾 何 学	○基礎の数学 ※ベクトル空間と幾何（数学） ※集合と位相（数学） ※数学E	2 4 4 2		3科目必修	3科目必修	
解 析 学	○数学B2 ○モデリング ○解析力学	6 2 2				
「確率論、統計学」	○情報理論	2			統計力学	2
コンピュータ	○Cプログラミング入門 ○情報数学 マイクロプロセッサ	2 2 2	1科目必修	1科目必修		

- ① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の『教職課程履修の手引』を参照のこと。
 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。
 「※」の科目は他学科・他学部（他箇所）聴講科目であり、（ ）は設置箇所名を表す。

電子光システム学科：情報

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法		選択科目	単位数
			高校			
情報社会及び情報倫理	高度情報社会における人間関係 情報倫理	2 2	2科目 必修			
コンピュータ及び情報処理(実習を含む)	○電子回路 ○電子光システム実験A ○電子光システム演習B 計算科学 LSIアーキテクチャ	2 2 2 2 2		2科目 必修		
情報システム(実習を含む)	○ディジタル回路 ○電子光システム演習A	2 2				
情報通信ネットワーク(実習を含む)	○電子光システム実験C 光通信システム	2 2		1科目 必修	伝送理論 センサネット	2 2
マルチメディア表現及び技術(実習を含む)	○コンピューティングと表現 ○電子光システム実験B ○電子光システム演習C ※コンピュータグラフィックス(情報) ※マルチメディアとモバイル通信(情報)	2 2 2 2 2		2科目 必修	※計算知能論(情報) ※自然言語処理(情報) ※パターン認識(情報) ※情報通信・放送技術(情報) ※言語処理系(情報)	2 2 2 2 2
情報と職業	※情報社会論(情報)	2	1科目必修			

- ① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の『教職課程履修の手引』を参照のこと。
 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。
 「※」の科目は他学科・他学部(他箇所) 講義科目であり、()は設置箇所名を表す。

I 特 徵

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目別

7.A群科目

8.B群科目

9.C群科目

10. 学科別案内(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11. D群科目

12. 他学部講義

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試 験

17. レポート・論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者・再入学者等

20. 科目等履修生
　　外国留学生

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 単位制

2. 学位・卒業

3. 進級制度

4. 3年次転科

5. 学 費

6. 学科目系列

7. A群科目

8. B群科目

9. C群科目

10. 学科別案内
(C群科目)

数学

応数

情報

機航

電子

表現

11. D群科目

12. 他学部聽講

13. 教職免許

14. 科目登録

15. 授業時間帯

16. 試験

17. レポート・
論文作成

18. 成績の表示

19. 復学者、
再入学者等20. 科目等履修生
外国人等

表現工学科：情報

免許法施行規則に規定された科目	必修科目	単位数	履修方法 高校	選択科目	単位数
情報社会及び情報倫理	高度情報社会における人間関係 情報倫理	2 2	2科目必修		
コンピュータ及び情報処理(実習を含む)	○人工知能の基礎	2		情報理論	2
情報システム(実習を含む)	信号処理	2	1科目必修	*プログラミング初歩(MNC) *プログラミング中級(MNC) *コンピュータによる統計入門(MNC)	2 2 2
情報通信ネットワーク(実習を含む)	放送技術 I	2	1科目必修	放送技術 II	2
マルチメディア表現及び技術(実習を含む)	○コンピューティングと表現 ○コンピュータグラフィックス基礎 ○コンピュータ・アート基礎 ○音・音楽表現 ○画像処理基礎1 ○立体映像表現	2 4 2 4 2 4		画像処理基礎2	2
情報と職業	*情報社会論(情報)	2	1科目必修		

- ① 上記表から履修方法を充足したうえ「教科に関する科目」を20単位以上修得のこと。
 ② 上述した「教科に関する科目」の他に「教職に関する科目」・「教科又は教職に関する科目」を所定単位数修得する必要がある。履修方法などの詳細は、教育学部教職課程発行の『教職課程履修の手引』を参照のこと。
 「○」の科目は自学科における必修科目であることを表す。
 「※」の科目は他学科・他学部(他箇所)聴講科目であり、()は設置箇所名を表す。

14 履修科目の登録

(1) 選択・届出

学生は、指定された科目登録手続き期間内に、当該年度に履修しようとする学科目を登録（申請および確認）しなければならない。

学科目の選択にあたっては、本学部要項とWebシラバス、『科目登録の手引き』等を熟読して、各自の学習目標を定め、時間の余裕等も考慮し、必要に応じクラス担任と相談し指導を受け、適切な選択を行う必要がある。登録方法については、年度始めに配布される書類を熟読し、登録間違い・登録漏れのないよう注意すること。

なお、他学部、他学科の学科目を聴講したい場合には、「Ⅲ-12 他学科・他学部・他学術院等設置聴講科目」のページを参照すること。

Webシラバス <https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm>

(2) 無登録科目の受講禁止

登録した学科目以外の受講は認めない。無登録科目を聴講・受験しても単位は与えられない。

(3) 登録後の変更禁止

登録した学科目の変更・取消は、決められた期間以外は認めない。登録にあたっては慎重を期し、本人が行うこと。また、必ず登録の結果を確認すること。

15 授業時間帯

早稲田大学の授業時間帯は下表のとおりである。

時限	1	2	3	4	5	6	7
時間	9：00 ↓ 10：30	10：40 ↓ 12：10	13：00 ↓ 14：30	14：40 ↓ 16：10	16：20 ↓ 17：50	18：00 ↓ 19：30	19：40 ↓ 21：10

16 試験

試験には、定期（前期・後期）試験、英語統一試験、レポート試験の他、授業時間中におこなわれる教場試験等がある。

(1) 定期試験

定期試験とは、前期試験および学年末（後期）試験として授業実施期間とは別の期間に、定期試験時間割を組んで実施する試験である。

試験に際しては、下記の注意事項に留意して受験すること。

- ① 定期試験時間割、および時間割発表後の試験に関する連絡は、正門前掲示板および理工学統合事務所ホームページ上にて行うので、見落としのないようにすること。
- ② 同一科目でも学籍番号、クラス、学科等によって試験の日時が違ったり、試験場を分ける場合がある。
- ③ 同一時間に受験科目が重複している者は、理工学統合事務所に申し出て指示を受けること。
- ④ 学生証は、表面の署名欄に自筆署名をしたものを持ち、受験中は机の端に提示しておくこと。

学生証を持ちっていない場合には、当日に試験本部において写真照合を行う。

なお、学生証を紛失した者は、再交付を受けておくこと。

I 特 徵
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目別
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部認講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者・再入学者等
20. 科目等履修性 外留学生等

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部講義
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試験
17. レポート・論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者、 再入学者等
20. 科目等履修生 外国人学生等

⑤ 試験場においては、監督員の指示に従うこと。

なお、着席位置確認のため「座席表」を使用する場合がある。指示があった場合には、座席表の着席位置に学籍番号・氏名を記入し、次の学生に回すこと。

⑥ 答案用紙には、氏名・学籍番号を明記すること。

⑦ 受験は試験開始後20分まで認め、退室は開始後30分を経てから許可する。

⑧ 身内の不幸や病気・事故などによる入院、医師からの外出禁止措置等がとられた場合など、やむを得ない事情により試験を欠席した場合には、試験の代替措置等が考慮される場合がある。至急、公的機関の証明書または医師の診断書等を担当教員に提出して確認すること。

⑨ 不正行為を行った場合には、本学学則および本学部内規に基づき、原則として停学、および停学に付随する措置として、履修している全科目を無効とする。

また、答案用紙はたとえ解答ができなくても持ち帰らず、必ず提出すること。答案を持ち帰る行為も不正行為と同等の扱いになるので、十分注意すること。

(2) 英語統一試験

英語統一試験とは、年4回1年生を対象に、定期的に実施される試験である。実施日時、勉強方法などについては、理工系英語教育センターのホームページ（URL：<http://www.celese.sci.waseda.ac.jp/>）を参照すること。

17 レポート・論文作成にあたっての注意事項

出典を明示せずに書物、ウェブ・サイトなどから他人の文章や資料の全部または一部をレポート・論文等に記載した場合、「盗用」・「剽窃」にあたり不正行為とみなされ、処分の対象になる。

自分の考えを述べる上で他人の文章や資料を「引用」・「参照」する際は、引用箇所を「 」等で明示し、出典（著者名、タイトル、該当ページ、出版社、出版年、ウェブ・サイトの場合はアドレスとアクセスした日付）を正確に記載することが一般的なルールである。ただし、引用の分量が多くなる場合は、「引用」・「転載」の許可を著者に求める必要があるので、必要最小限にとどめること。

18 成績の表示

成績は、各学期ごとに定められた発表日にWaseda-netポータル上で発表される。成績発表日については理工学統合事務所ホームページ・掲示板を確認すること。

成績表記はA+・A・B・C・Fをもって表示し、A+～Cを合格、Fを不合格とする。なお、成績発表の際にはこの他にH・S・*という記号を使用する。

H……成績保留を意味する。担当教員から課題提出の指示などがあるので、掲示や教員の指示を確認すること。なお、教員からの指示に従わずに年度を越えた場合には自動的にFとなる。

S……不合格と評価された専門必修科目であるが、次年度の科目登録の際に他の科目との曜日・時限重複を許可された科目を示す。

*……登録している科目で、担当教員からの成績がまだ出ていない科目を示す。

評価	A+	A	B	C	F	H	S
点数	100～90	89～80	79～70	69～60	59～		
成績証明書	A+	A	B	C		表示なし	
判定		合 格				不 合 格	

- I 特徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付録

19 復学者、再入学者、学士入学者の履修方法

(1) 復学者

休学者が復学した場合の履修方法は次のとおりである。

- ① 卒業に必要な所定単位およびその内訳は、入学した年度の規定による。
- ② 復学者の学科目履修上の学年は入学した年度より起算した学年から休学年数を除いた学年とする。
但し、半期の休学により前記学年に端数が生じた場合は、端数を切り上げた学年とする。
- ③ 入学時と復学時の規定に相違がある場合に、復学後履修する学科目の指定は所属する学科の主任がこれを行う。

(2) 再入学者

退学を許可された者が、退学した学年から起算して7年度以内に再入学を願い出て許可された場合の履修方法は次のとおりである。

- ① 再入学者の学年は原則として退学時の次の学年とする。
 - ② 再入学者の卒業に必要な所定単位およびその内訳は、再入学後の同学年に在籍する学生が入学した年度の規定による。
- (例 2008年度に入学し2年で退学、2011年度に3年に再入学した者には、2009年度に1年に入学した者の規定を適用する。)
- ③ 再入学者について、入学時と再入学時の規定に相違がある場合に、既に履修した学科目の単位の認定および再入学後履修する学科目の指定は、所属する学科主任がこれを行う。

(3) 学士入学者

学士入学者の履修方法は次のとおりである。

- ① 学士入学者の卒業に必要な所定単位およびその内訳は、学士入学後の同学年に在籍する学生が入学した年度の規定による。(例 2010年度に3年に編入する学士入学者には、2008年度に1年に入学した者の規定を適用する。)
- ② 学士入学者の既修単位が本学部の所定単位に相当すると認定された場合には、この履修を免除することができる。
- ③ 学士入学者は4年間をこえて在学することはできない。

20 科目等履修生・外国学生・帰国生

(1) 科目等履修生（一般履修生・委託履修生）

科目等履修生の入学は、年度の始めに限って選考のうえ講義の授業科目について許可される。なお、科目等履修生に対する入学の許可は、その年度限りであって、引き続いての聽講を希望する者は改めて願い出る必要がある。

- 1. 単位制
- 2. 学位・卒業
- 3. 進級制度
- 4. 3年次転科
- 5. 学費
- 6. 学科目別
- 7. A群科目
- 8. B群科目
- 9. C群科目
- 10. 学科別案内
(C群科目)
- 数学
- 応数
- 情報
- 機航
- 電子
- 表現
- 11. D群科目
- 12. 他学部聽講
- 13. 教職免許
- 14. 科目登録
- 15. 授業時間帯
- 16. 試験
- 17. レポート・論文作成
- 18. 成績の表示
- 19. 復学者・再入学者等
- 20. 科目等履修生・外国留学生

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 単位制
2. 学位・卒業
3. 進級制度
4. 3年次転科
5. 学 費
6. 学科目系列
7. A群科目
8. B群科目
9. C群科目
10. 学科別案内 (C群科目)
数学
応数
情報
機航
電子
表現
11. D群科目
12. 他学部選講
13. 教職免許
14. 科目登録
15. 授業時間帯
16. 試験
17. レポート・ 論文作成
18. 成績の表示
19. 復学者、 再入学者等
20. 科目等履修生 外国人学生等

① 学科目の履修について

科目等履修生の受講できる学科目は、授業科目のうち講義科目に限るが、実験科目についても施設の許す範囲でこれを許可する。

② 学費について

下表のとおりであるが、実験・実習科目を受講する場合は、別に実験実習料を徴収する。

	一般	本 大 学 卒 業 生	本大学大学院在学生
入 学 金	70,000円	な し	な し
聴 講 料	1単位につき43,900円	同 左	な し
入学検定料	25,000円	同 左	な し

科目等履修生の詳細については、科目等履修生要項（2月頃理工学統合事務所カウンターにて販売開始予定）で確認すること。

(2) 外国学生

外国学生の入学制度は、外国において通常の課程による12年の学校教育を修了し、その国において大学入学資格を有する者、またはこれに準ずる者を対象とする制度で、特別の選考を経て入学または編入学を許可する。

学修の必要に応じて、一般に配置された学科目的一部分に代え、またはこれに加えて特別の学科目を履修しなければならない場合がある。

(3) 帰国生

帰国生の入学制度は、日本国籍を持つ者、又は「永住外国人等出入国管理及び難民認定法の別表第二」に掲げる者で、国内外を問わず通常の課程による12年の初等、中等教育を修了し、かつ、海外において、外国の中等教育機関に最終学年を含め2年以上を継続して在学し出願時に帰国後1年以内もしくは海外在住中の者を対象とする制度で、特別の入学試験による選考を経て入学が許可される。

入学後は、一般学生と全く同一の取り扱いを受けるが、必要に応じて入学前に特別の予備教育が行われる。

IV

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

学生生活

1 学生の手帖 (Compass)	1. 学生の手帖
2 理工学術院および基幹理工学部ホームページ	2. ホームページ
3 学籍番号	3. 学籍番号
4 クラス担任制度	4. クラス担任
5 学生相談	5. 学生相談
6 大学院への進学	6. 大学院進学
7 就職	7. 就職
8 学生証	8. 学生証
9 各種証明書類の交付	9. 証明書交付
10 各種願・届の提出	10. 各種願提出
11 奨学金制度	11. 奨学金
12 掲示	12. 掲示
13 教室・共通ゼミ室の使用	13. 教室の使用
14 学生の課外活動	14. 課外活動
15 安全管理	15. 安全管理
16 海外留学等	16. 海外留学
17 理工リエゾンオフィス	17. 理工リエゾンオフィス
18 禁煙キャンパス	18. 禁煙キャンパス
19 自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止	19. 自転車禁止
20 理工学図書館・学生読書室	20. 図書館・読書室
21 コンピュータ・ルーム	21. コンピュータ・ルーム
22 実験施設紹介	22. 実験施設
23 総合健康教育センター大久保分室	23. 総合健康教育センター
24 交通機関のストライキと授業	24 交通機関の影響
25 天候悪化（台風・大雪等）による休講等の取扱いについて	25. 天候悪化の影響

1 学生の手帖 (Compass)

この学部要項とは別に、大学から『学生の手帖』が配布される。学部要項が本学部における学修を中心編集されているのに対し、『学生の手帖』は、本学における学生生活を中心に編集されている。学部要項と共に活用してもらいたい。

2 理工学術院および基幹理工学部ホームページ

本学部ではホームページを開設し、インターネットを通じた情報発信を行っている。各学科からの案内、各種申請手続きや日程等の事務所からの情報、実験室等に関する情報を掲載している。

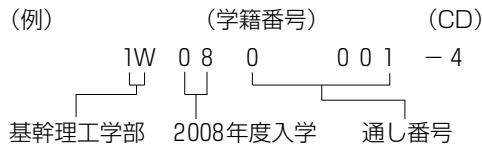
<http://www.sci.waseda.ac.jp/>

<http://www.waseda.jp/fse/>

3 学籍番号

本学部では入学のとき、学生個々について学籍番号を定めている。

学籍番号は、8桁から成っている。初め2桁は学部コード（基幹理工は1W）、次の2桁は入学年度（西暦年下2桁）、最後の4桁は基幹理工学部内における学生の番号を示す。



学籍番号とは別にコンピュータに入力する際にだけ使用するチェック・デジット（略称CD）1桁を付ける。これはコンピュータへの入力ミス防止のためのものである。

なお、再入学者等は学籍番号下4桁の番号を下表のとおり区分する。

種 别	通し番号
再 入 学	6001～
転 科	7001～
学 士 入 学	8001～
一般履修生	9001～
委託履修生	9051～

4 クラス担任制度

学生生活等について、諸君の相談相手となって、必要な指導助言を与えるために、クラス担任制度が設けられている。教員との人間的ふれあいや、勉学上・個人生活上のアドバイスを希望する者は、この制度を利用して、学生生活をより有意義なものとすることが望ましい。詳細については、科目登録の手引き・理工学術院ホームページ等で確認すること。なお、面会を希望する場合は、直接研究室に予約をとること。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 教室の使用
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 建工リエン オフィス
18. 禁煙 キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・ 読書室
21. コピィー・ ルーム
22. 実験施設
23. 総合健康 教育センター
- 24 交通機関 の影響
25. 天候悪化 の影響

5 学生相談

(1) 理工学統合事務所

科目登録・授業・試験・成績・学籍（休学・留学・退学等）・教室貸与・奨学金等、修学上に関わるすべての事項について、その相談に応じている。また、遺失物や拾得物の管理も行っているので、これらに関する質問があれば隨時相談すること。

事務取扱時間・休業日

月～土曜日 9時～17時（ただし土曜日および授業休止期間中の12時30分～13時30分の間は閉室）

休業日 曜日・国民の祝日・創立記念日（10月21日）・年末年始・夏季一斉休業期間および夏季冬季休業中の土曜日

（注）夏季休業・冬季休業等の期間中は、事務処理が平常時より時間がかかる場合があるので留意すること。

(2) 非常勤講師への連絡方法

本学部では非常勤講師の連絡先（住所・電話番号等）を公表していないので、非常勤講師への連絡は、必要な書類・手紙等を封筒に入れ、宛名・差出人住所・氏名等を明記のうえ、切手を貼り、封をしたものをお教員室（51号館2階）へ持参すること。

※専任教員の連絡先はシラバスやホームページで確認できる。

(3) ハラスメント防止委員会室

性的な言動によるセクシュアル・ハラスメント、勉学・教育・研究に関連する言動によるアカデミック・ハラスメント、優越的地位や職務上の地位に基づく言動によるパワー・ハラスメントなどの被害を受けた学生・生徒および教職員等が、安心してハラスメントの苦情を申し立て、相談を受け付けられる窓口を設置している。ハラスメントの苦情に対しては、学内での適切な調査と慎重な手続を経たうえで、厳正な処分を含む効果的な対応をし、その際、関係者（事案の当事者の他、監督・指導の責任を負う者等、当該事案に利害関係を有する者を含む）のプライバシーの尊重と秘密厳守には特に留意している。

早稲田大学はハラスメント防止に真摯に取り組んでいます。

もう一歩先のハラスメント理解のためのQ&A

〈解説〉

Q ハラスメントって何ですか？

A ハラスメントとは、性別、社会的身分、人種、国籍、信条、年齢、職業、身体的特徴等の属性あるいは広く人格に関わる事項等に関する言動によって、相手方に不利益や不快感を与え、あるいはその尊厳を損なうことをいいます。大学におけるハラスメントとしては、性的な言動によるセクシュアル・ハラスメント、勉学・教育・研究に関連する言動によるアカデミック・ハラスメント、優越的地位や職務上の地位に基づく言動によるパワー・ハラスメントなどがあります。

Q ハラスメントって何で問題なのでですか？

A 人権侵害だからです。ごく気軽な気持ちでの行為や言動が相手にとって耐えられない苦痛となっていることもあります。結果として、日常生活に支障をきたすケースも少なくありません。自分に置き換えて、問題意識を高く持つことが大切です。そのためにも正しい知識、理解が求められます。ハラスメント防止委員会では、「ハラスメント防止に関するガイドライン」を制定し、対応を定めるとともに、パンフレットやWebサイトで様々な情報を提供しています。是非活用してください。

I 特徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付録

1. 学生の手帳

2. ホームページ

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願提出

11. 奨学金

12. 掲示

13. 教室の使用

14. 課外活動

15. 安全管理

16. 海外留学

17. 広報リエンジニアリングオフィス

18. 禁煙キャンペーン

19. 自転車禁止

20. 図書館・読書室

21. コンピュータールーム

22. 実験施設

23. 能力開発センター

24. 交通機関の影響

25. 天候悪化の影響

ハラスメント防止委員会URL

<http://www.waseda.jp/stop/index.html>

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 学生の手帖

2. ホームページ

3. 学籍番号

4. クラス担任

5. 学生相談

6. 大学院進学

7. 就 職

8. 学生証

9. 証明書交付

10. 各種願出

11. 奨学金

12. 掲 示

13. 教室の使用

14. 課外活動

15. 安全管理

16. 海外留学

17. 建工リエン

オフィス

18. 禁煙

キャンパス

19. 自転車禁止

20. 図書館・

読書室

21. コピートー

ルーム

22. 実験施設

23. 総合健康

教育センター

24 交通機関

の影響

25. 天候悪化

の影響

Q 学生がハラスメントにあうのは、どんな場面ですか？

A きわめて残念なことですが、授業・ゼミ等がアカデミック・ハラスメントやセクシュアル・ハラスメントの場、サークル等がセクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメントの場になります。

Q 学生が加害者になることもありますか？

A はい、あります。たとえばサークルのコンパで性的な言動を繰り返したり、飲酒を強要したり、交際をしつこく迫った結果、相手が不快感を持った場合には、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントになります。

〈相 談〉

Q ハラスメントをうけた場合、どこに相談すればいいのでしょうか？

A ハラスメント防止委員会に相談してください。

Q ハラスメント防止委員会では何をしてもらえるのですか？

A 現状について専門の相談員が詳細をうかがいます。かなりのケースが、この段階で気持ちに整理がつき、解決にいたっています。相手との関係について調整を希望する場合は、【対応策の検討】に進みます。その後、ハラスメント防止委員会の苦情処理案件の対象と認定された場合は、当事者からあらためてお話を伺い、相手方との調整が始まります。秘密堅持と被害者への報復等の禁止が明確に定められているので、安心して相談してください。また、外部の相談窓口もWebサイトで紹介しています。

Q ハラスメントなのかわからないのですが、相談してもよいでしょうか？我慢しようか悩んでいます。

A ハラスメントかどうかについて、感情には個人差があるので人によってはハラスメントと感じないようなケースでも、本人の主観的な感情が重要な要素になります。まずは、ハラスメント防止委員会に相談してください。

Q 友人から相談されているのですが？

A 友人に相談されたら、まずは真剣に耳を傾けて下さい。そして、適切な対処のために、ハラスメント防止委員会などの専門窓口へ相談するよう勧めてください。

■相談窓口 ハラスメント防止委員会

相談は、電話・メール・Fax・手紙どの方法でも承ります。来室前なら匿名での相談も可能です。来室の際は必ず電話で予約をしてください。

【TEL】03-5286-9824 【FAX】03-5286-9825

【E-mail】stop@list.waseda.jp

【URL】<http://www.waseda.jp/stop/index.html>

【開室時間】月～金 9:00～17:00

土 9:00～14:00

【事務所所在地】〒169-8050 新宿区戸塚町1-104 24-8号館2階

6 大学院への進学

大学院は博士課程 5 年を、前期 2 年と後期 3 年に区分し、前期 2 年の課程を修士課程、後期 3 年の課程を博士後期課程として取り扱う。

修士課程を修了するには、大学院に 2 年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。修了すると修士（工学）、または修士（理学）の学位が授与される。ただし、優れた研究業績をあげた者については、当研究科運営委員会が認めた場合に限り、この課程に 1 年以上在学すればよい場合がある。

修士課程への進学には、推薦入学と入学試験の二つの方法がある。

（1）推薦入学

本学部卒業生および卒業見込者で成績の優秀な者を対象に、推薦入学の制度がある。

（2）入学試験

① 一般入学試験

卒業生および卒業見込者を対象に、外国語（英語）・専門科目の筆記試験（一部、口述試験）と面接により実施する。

② 飛び級入学試験（大学に 3 年以上在学する者に係る特別選抜制度）

「大学に 3 年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者」を対象に特別選抜試験を実施する。

入学試験の詳細については、理工学統合事務所に問い合わせること。

博士後期課程を修了するには、博士後期課程に 3 年以上在学し、所要の研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。ただし優れた研究業績を上げた者については、研究科運営委員会が認めた場合に限り、この課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。修了すると修士（工学）、または修士（理学）の学位が授与される。

博士後期課程への進学には、推薦入試と入学試験の二つの方法がある。入学試験の詳細については、理工学統合事務所に問い合わせること。

7 就職

（1）就職活動

理工系学生の企業への応募方法には、「自由応募制」と「推薦制」の 2 種類がある。「自由応募制」とは、各企業等からの求人情報をもとに、自分の希望する企業に直接応募する制度であり、現在の文系の就職活動はこの方法によって行われている。また、「推薦制」とは理工系独自の応募形態であり、就職希望者の推薦を依頼してくる企業に対して、大学（学部・学科等）が推薦を行う制度である。企業が学科や推薦枠を指定してくる場合があるので、大学（学部・学科等）は学生の希望を確認し、希望者が多い場合には調整等を行った上で、被推薦者を決定することとなる。詳細は各学科の就職担当教員に確認すること。

（2）就職担当教員の指導等

各学科では、卒業予定者を対象に進路指導を行う就職担当教員を配置し、就職活動や進学について、適宜、必要な指導・アドバイスを行なっている。

学生は就職内定状況等、現在の活動状況を担当教員に報告すること。

（3）各種行事案内

キャリアセンター主催の就職ガイダンスや就職講座、理工学術院が主催する国家公務員説明会等の各種

I 特 徵
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

行事を、各学科掲示板および正門掲示板（学生支援掲示板）およびホームページにおいて案内している。

(4) 就職資料室等の利用

- ① 理工系の「求人票」および企業案内等の諸資料は、51号館2階学生ラウンジ内の「就職資料室」および各学科連絡事務室または各学科の就職資料室に配架している。
- ② 学生ラウンジ内の就職資料室では、求人情報（文系就職中心）、Uターン・Iターン情報、各企業や官公庁の資料の他に業界・企業研究のための参考図書、情報誌、先輩の就職活動体験記等の諸資料を、自由に閲覧出来るように配架している。

(5) キャリアセンターの利用

キャリアセンターでは、自分自身のキャリア形成の考え方、学生時代の過ごし方（心構え、早稲田大学にある資源・チャンスをどう生かすか等）、といったアドバイスから実際の就職活動のサポートまで、幅広い支援を行っている。

〈主な活動〉

- ・ **キャリアガイダンス**（就職環境を知り、充実した学生生活を過ごすためのヒントを説明）
- ・ **キャリア講座**（キャリアの専門家が、社会とキャリア設計の関係等について講義）
- ・ **その他キャリア形成支援イベント**（公務員・教員キックオフガイダンス、OB・OG等現役社会人との交流イベント他）
- ・ **就職支援イベント**（就職ガイダンス、業界研究講座、マナーセミナー、就活ミニセミナー他）
- ・ **企業・求人情報の提供**（Waseda-netポータル内【キャリアコンパス】より）
- ・ **インターンシップの紹介および関連セミナー**
- ・ **個別相談**（進路に関することならどんなことでも）

※詳細は、年度毎に配付される『CAREER GUIDEBOOK』およびキャリアセンターホームページを確認すること。

【場所】 戸山キャンパス30号館 学生会館3階

【時間】 平日9:00～18:00

土曜9:00～17:00

【TEL】 03-3203-4332

【E-mail】 career@list.waseda.jp

【URL】 <http://www.waseda.jp/career/>

8 学生証

学生証は、身分を証明するだけでなく、修学上の様々な場面で必要となるので、常に携帯し、破損・紛失のないよう注意すること。

なお、学生証とは、「学生証カード」と有効年度を表示した「裏面シール」からなり、「学生証カード」の裏面に、「裏面シール」を貼り合わせて初めて効力が生じる。また有効期間は「裏面シール」に示された有効年度の4月1日から翌年3月31日までの1年間である。また、表面の所定の欄に氏名を記入すること。

(1) 交 付

新入生の学生証は、受験票と引き換えに交付する。

2年生以上は、学年末に裏面シールを交付するので、これを前年度のシールと貼り替えることで、学生証を更新したこととなる。進級後は裏面シールに所属学科が印字される。

1. 学生の手帳
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 教室の使用
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 建工リエン オフィス
18. 禁煙 キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・ 読書室
21. コピーサービスルーム
22. 実験施設
23. 総合健康 教育センター
24 交通機関 の影響
25. 天候悪化 の影響

なお、学生証カードは在学期間中使用するが、写真変更希望者は、在学中1回に限り無料で交換できる。この場合は、理工学統合事務所に申し出ること。

(2) 紛失

学生証を紛失した場合、悪用される恐れがあるので、ただちに警察に届け、理工学統合事務所で再交付の手続きをすること。

(3) 再交付

紛失等のため再交付を受ける場合は、カラー写真を添付した所定の「再交付願」を理工学統合事務所へ提出すること。なお、紛失等による再交付の手数料として2,000円が必要となる。

(4) 提示

試験等の受験、図書館や学生読書室の利用、各種証明書・学割の交付、種々の配付物を受けるとき、その他本学教職員の請求があったときは、学生証を提示しなければならない。

(5) 失効

卒業または退学などにより学生の身分がなくなると同時に、その効力を失うので、ただちに理工学統合事務所へ返却すること。卒業の場合は、引き換えに学位記が授与される。

9 各種証明書類の交付

本学部で発行する証明書は以下の表のとおりである。発行は原則として即日発行であるが、システムメンテナンスや証明書の種類等により数日かかる場合もあるので、充分な余裕をもって申し込むこと。

(1) 手数料

証明書の発行には手数料が必要になる。

在学中に関わる証明書 1通200円（卒業者がその卒業日の属する月末までに申請した証明書を含む）

卒業者、退学者等に関わる証明書 1通300円

(2) 発行方法

① 自動証明書発行機（事務所内に設置）を利用の場合

学生証・暗証番号が必要となる。暗証番号は入学手続時に届出した4桁の番号を使用すること。

② 窓口で申し込む場合

所定の「証明書交付願」に必要事項を記入し、手数料収納証を貼付の上、学生証を添えて申し込むこと。

証明書種別一覧表（★は自動証明書発行機にて発行可）

種 別	
★在学証明書	進学調査書
★成績証明書	退学証明書
★卒業（修了）見込証明書	★英文在学証明書
卒業（修了）証明書	★英文成績証明書
★成績・卒業（修了）見込証明書	★英文卒業（修了）見込証明書
成績・卒業証明書	英文卒業（修了）証明書
教員免許状取得見込証明書	その他証明書
教員免許状単位取得証明書	

(3) 学割

自動証明書発行機（事務所内に設置）で1人年間10枚まで無料で発行可能。

10 各種願・届の提出

在学中、本人または保証人に何らかの異動や事故等があった場合には、必ずその事項についての所定の願または届を提出しなければならない。各種願・届用紙は理工学統合事務所で入手できる。

(1) 休学願

① 休学の条件

病気その他の正当な理由により、引き続き2ヶ月以上授業（試験を含む）に出席することができない者は、学部所定の申請手続きに基づき、学部長の許可を得て、休学することができる。「休学願」にクラス担任または指導教員の所見を記入してもらい、各学期の提出期日までに理工学統合事務所に提出すること。

休学種別	休学願の提出期日	休学終了日	復学日	休学年数
前期	5月31日まで	9月20日	9月21日	0.5年
後期	11月30日まで	翌年3月31日	翌年4月1日	0.5年

② 休学期間

休学は前期休学あるいは後期休学の2種類とし、当該学年限りとする。ただし、特別の事情がある場合には、引き続き休学を許可することがある。この場合、休学の期間は連続して2年を超えることはできない。休学中は在学年数に算入しない。前後期継続休学または後期から次年度前期継続休学を希望する者は復学手続き時に休学継続を願い出ること。なお、在籍中に休学できる期間は、通算して4年を超えることはできない。

③ 休学期間の学費

休学願の提出日により、休学中の学費は下表のとおりとなる。

前期休学願		金額	後期休学願		金額
4月30日まで	休学中休籍料	5万円	6月30日から 10月31日まで	休学中休籍料	5万円
5月1日から 5月31日まで	授業料 実験実習料 施設費	所定期限 の全額	11月1日から 11月30日まで	授業料 実験実習料 施設費	所定期限 の全額

※入学と同時に前期を休学する場合は、学費の減額はありません。

(2) 留学願

- ① 外国の大学等高等教育機関に4ヶ月以上在籍し、教育または研究等に従事する場合、学部所定の申請手続きに基づき、学部長の許可を得て、「留学」することができる。「留学」となるかどうか不明な場合には、事前に理工学統合事務所に確認すること。
- ② 在籍中に留学できる期間は1年間相当とする。特別な事情がある場合は、さらにこれを延長できる。
- ③ 本学で主催する一部の留学プログラムを除いては、留学期間中は在学年数に算入しない。ただし、単位認定により通算4年間で卒業可能な場合のみ在学年数に算入することができる。詳細は理工学統合事務所に問い合わせること。
- ④ 留学期間中の学費については、理工学統合事務所に問い合わせること。ただし、留学センターが主催する留学の場合は、留学センターにて確認すること。

I 特 徵
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 教室の使用
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 建工リエン オフices
18. 禁煙 キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・ 読書室
21. コピィー・ ルーム
22. 実験施設
23. 総合建設 教育センター
24 交通機関 の影響
25. 天候悪化 の影響

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

(3) 復学願

- ① 復学対象者（休学・留学期間終了者）に対し、復学の手続きが必要とされる時期に、理工学統合事務所からその手続きに関する書類を保証人宛に送付するので、これに従って手続きを行うこと。
- ② 復学は学期始めに限られる。
- ③ 復学後、在籍年数（休学・留学期間含む）が5年以上だが、在学年数（休学・留学期間を除く）が4年未満となる学生は、在学年数が4年に達するまで、当該年度4年度生の学費額を徴収する。このことについては、「III-5 学費の納入と抹籍」を参照すること。

(4) 退学願

- ① 退学を希望する場合は、学生証を添えて、理工学統合事務所へ申し出ること。
- ② 学期の途中で退学をする場合でも、その期の学費を納めなければならない。
詳細については、理工学統合事務所に問い合わせること。

(5) 再入学願

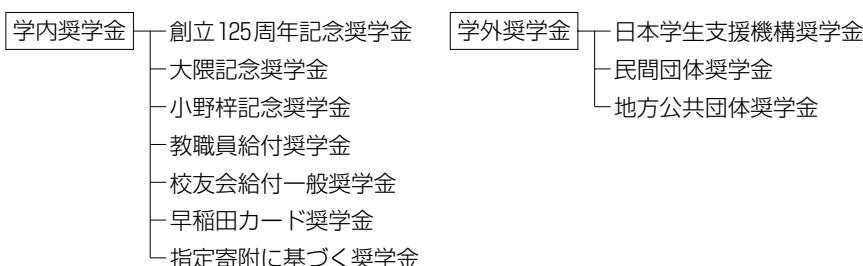
正当な理由で退学した者が、再入学を願い出た場合、退学した学年の翌学年から起算して、7年度までの間に限り学年の始めにおいて許可されることがある。詳細については、理工学統合事務所に問い合わせること。

(6) 氏名・住所・保証人等変更届

- ① 本人の住所・電話番号等が変更された場合は、直ちにWaseda-netポータルのProfile画面から登録を行うこと。また、本人の住所が変更された場合は、大学に届けてあるメールアドレス宛に承認メールが届いた後、理工学統合事務所にて新しい学生証の裏面シールを受け取ること。
- ② 保証人または学費支払者の住所・電話番号が変更された場合は、直ちに理工学統合事務所で所定の手続を行うこと。
- ③ 在学中に改姓（名）をした場合は、戸籍抄本を添付のうえ、届け出ること。
- ④ 死亡その他の理由で保証人を変更する場合は、直ちに新しい保証人を届け出ること。

11 奨学金制度

本学には、多くの奨学金制度が準備されている。また、奨学金には返還の必要のない「給付」奨学金と返還の必要がある「貸与」奨学金がある。貸与奨学金の代表的なもの一つは、日本学生支援機構奨学金（第一種・二種）である。



ほとんどの奨学金は、毎年理工学統合事務所にて配布する「奨学金情報冊子Challenge」入手し、そこに記載されている所定の手続（奨学金登録）をする必要があるため十分に注意すること。

その他の奨学金の募集等があった場合は、隨時、正門掲示板（学生支援掲示板）、および理工学統合事

務所ホームページに掲示する。各学科における独自の奨学金に関しては、学科からの情報に注意すること。

なお、家計支持者の死亡・失職または災害等により、家庭の経済状況が急変した場合は、未登録であっても奨学課に申し出ると、校友会給付緊急奨学金・日本学生支援機構奨学金の緊急採用・災害採用等が適用される場合がある。

外国人留学生対象の奨学金の一覧は、「早稲田大学留学生ハンドブック」に記載されている。奨学金希望者は、学年始めに「外国人留学生奨学金登録票」を提出し、留学生奨学金用の掲示にて周知される奨学金に、募集のある都度申し込むこと。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

12 掲示

立看板の取扱いおよび掲示板使用等に関する運用ルール

(1) キャンパス内での立看板、掲示物ならびにビラ等については、以下の事項を厳守すること。

① 必須記載事項

大学に届出のあるサークル等学生団体：団体名を明記すること。

大学に届出のないサークル等学生団体：団体名および設置責任者である本学学生の所属箇所、学年、氏名を明記すること。

② 虚偽の宣伝、他者のプライバシーの侵害や名誉毀損を行ってはならない。

③ 上記事項に違反するものについては、事前の通知なく撤去することがある。また、違反があった場合は、当該団体による立看板掲出、掲示ならびにビラの配布を以後許可しないことがある。

(2) 立看板について

原則として大久保キャンパス内のサークル等学生団体の立看板は認めない。ただし、正当な理由であると判断された場合は設置を許可する場合もある。

(3) 掲示物について

掲示板については、次項の表を参照すること。掲示板を使用する際は、次のルールに従うこと。ルールに反する場合には撤去する。

① 理工学統合事務所に申し出で承認を受けること。

② 掲示の期限は、承認の日から3週間以内とする。

③ 掲示用紙の大きさと枚数は次のとおりとする。

正門脇掲示板：縦55センチ・横45センチ（新聞紙1頁大）以内、1枚

各号館内掲示板：縦40センチ・横27センチ（新聞紙半頁大）以内、2枚以内

④ 掲示物の掲示板への貼付けは画鋲を使用すること。画鋲が使用できない掲示板は粘着性の弱い紙テープを使用すること。

⑤ 期限を過ぎたものは自ら撤去すること。

(4) ビラ等の配布について

キャンパス内でビラ等を配布する場合は、次の事項を厳守すること。

① 業者（アルバイト等）の宣伝等営利目的のチラシ等の配布は認めない。

② ビラ等の配布は、手渡しのみに限る。受け取る意思のない人への強要は行わないこと。教室内の机の上に置く行為は授業の妨げとなるため、認めない。

1. 学生の手帳
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願書
11. 奨学金
12. 掲示
13. 教室の使用
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 建工リエンジニアリングオフィス
18. 禁煙キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・読書室
21. コピーラーム
22. 実験施設
23. 総合健康教育センター
24. 交通機関の影響
25. 天候悪化の影響

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

- 1. 学生の手帳
- 2. ホームページ
- 3. 学籍番号
- 4. クラス担任
- 5. 学生相談
- 6. 大学院進学
- 7. 就 職
- 8. 学生証
- 9. 証明書交付
- 10. 各種提出
- 11. 奨学金
- 12. 掲 示
- 13. 教室の使用
- 14. 課外活動
- 15. 安全管理
- 16. 海外留学
- 17. 広報エンジン
オフィス
- 18. 禁煙
キャンパス
- 19. 自転車禁止
- 20. 図書館・
読書室
- 21. コンピュータ・
ルーム
- 22. 実験施設
- 23. 身体健康
教育センター
- 24. 交通機関
の影響
- 25. 天候悪化
の影響

掲示板一覧

場所	掲示板名称	掲示内容
正門掲示板	総合案内掲示板	各掲示板の掲示内容案内 講演会案内 催物案内 学生の会イベント
		入試掲示板 入試情報
		学部奨学金・大学院奨学金 就職情報・キャリアセンターからのお知らせ インターンシップ情報 イベント情報
		学部暦・大学院暦 他箇所関係（オープン教育、教職、MNC他） 科目登録・成績発表情報 休講情報 レポート 試験情報
	基幹掲示板	各学科・専攻ごとのお知らせ
		授業時間割 時間割の最新情報
		教室変更 授業開始後の教室変更
52号館1階	創造掲示板	各学科・専攻ごとのお知らせ
53号館1階	先進掲示板	各学科・専攻ごとのお知らせ
54号館1階	実験掲示板	理工学基礎実験、応用物理学実験等の情報
55号館2階	理工公認サークル掲示板	理工公認サークル 告知スペース
56号館学生ラウンジ	学生の会限定掲示板	学生の会 告知スペース、就職資料
57号館裏掲示板	サークル掲示板	学内外のサークルチラシ
西門掲示場	西門掲示板	各掲示板の掲示内容案内 学部暦、大学院暦 講演会案内

13 教室・共通ゼミ室の使用

授業外の課外活動で教室を使用したい場合は、理工学統合事務所教学支援課備付けの「教室・ゼミ室使用願」を提出しなければならない。教室使用願の提出にあたっては、次の事項に留意すること。

(1) 使用資格

理工学術院公認サークルおよびそれに準ずる団体、部長・会長・顧問等が理工学術院専任教職員である団体に限る。

(2) 使用願責任者

使用願には、責任者（専任教職員）の印を必要とする。

(3) 使用願の提出

使用願は、使用日の3日前（ただし事務所開室中）までに行うこと。

(4) 使用許可期間

原則として下記の期間を除いて許可する。

日曜日、祝祭日、休業中の土曜日、入学式から授業開始までの期間および前後期授業開始後2週間、前後期定期試験期間、夏季工事期間、理工展期間、入学試験構内立入禁止期間とその準備期間、その他諸行事で授業が休講となる期間

(5) 使用許可時間

原則として、月～金曜日は18時から20時まで、土曜日は14時40分から20時までとする。ただし、休業期間中は9時から17時30分までとする。

(6) 使用許可教室

52号館・53号館・54号館の全教室・56号館101・102・103教室および51号館・60号館共通ゼミ室

(7) 使用許可期間

原則として最長1ヶ月とする。それ以上にわたる場合は、再度提出すること。

(8) 使用上の注意

- ① 授業・教育・研究、および大学・学部・大学院の諸業務に支障を来す場合には、使用を許可しない。
- ② まわりの教室で行われている授業には充分注意し、その妨げにならないようにすること。
- ③ 教室内の机・椅子・その他の什器は動かさないこと。
- ④ 使用許可時間を厳守すること。
- ⑤ 大学が教室を使用しなければならない緊急の必要が生じた場合には、教室の変更をする場合がある。

14 学生の課外活動

学生生活は本来勉学を中心として展開されるべきである。しかし専門の知識を得ることのみに終始することは決して望ましいことではない。科学技術の根幹を理解するには多くの知識を必要とするが、それだけに、視野が狭くなりがちである。孤立した個人的な生活、少数の仲間とだけの閉鎖的な生活からは、広い教養と豊かな人間性を持った人物は生まれにくいものである。

本学術院には教員、卒業生、在学生で構成されている多くの学会がある。この学会には学生部会があつて、課外活動に対して種々の便宜が与えられている。本学部の特殊性を生かした学生部会と連絡を密にし、課外活動によって学生生活の充実をはかることが望まれる。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 教室の使用
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 理工エンジニアリングオフィス
18. 禁煙 キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・読書室
21. コピーサービスルーム
22. 実験施設
23. 総合教育センター
24 交通機関の影響
25. 天候悪化の影響

学生の課外活動は、大学という集団の中で最大限の自由が保障されなければならないことはいうまでもないが、それだけに、諸君は責任を持ち、規律を守らなければならない。課外活動はそれを通じて自己の人間形成をはかり、将来社会で活動する準備をすることが目的であるから、ある特定の目的をもつ外部の団体に左右され、プロ化して行動をすることは慎むべきだろう。

学生生活で諸君は種々の困難につきあたるにちがいない。その時は学友、クラス担任との話し合い、あるいは総合健康教育センターの利用等を通してそれらを乗り越え、悔いのない学生生活を送るよう努力してほしい。

本学には多くの学生の会およびサークルがあり（「学生の手帳」参照）、本学部の学生もこれに参加し、活躍している。

この他に IAEESTE（イアエステ・日本国際学生技術研修協会）がある。これは学生の外国企業での実習およびその国際交換を斡旋し、世界各国の学生間の理解と親善を深めることを目的とする会である。この会は1948年に設立され、1964年には日本も加入了。現在80カ国以上がこれに参加しており、世界の理工農学系大学約900がIAEESTE Internationalの学生交換海外研修プログラムに参加している。また、後援企業は約4,000社に及び、30万人以上の学生を交換研修した実績をもっている。

15 安全管理

早稲田大学大久保キャンパスには、学生・教職員10,000人以上が集い、教育研究活動を行っている。理工系の特徴もあるが、主に研究活動に専念する学部4年生、大学院生の数は4,000名を超え、多種多様な研究活動が展開されている。教育研究活動中の事故を未然に防ぐため、その他安全に関する諸課題を検討し改善を図るべく、教職員からなる「大久保キャンパス安全衛生委員会」を設置し、そのもとに様々な安全管理体制を整備するとともに、安全衛生一斉点検をはじめ構内の安全管理を統轄している。

このような中、学生諸君には、以下の点を遵守してもらいたい。

- ・各実験科目においては、実験ガイドを通して、安全に関する注意があるので、それらを必ず守り、常に安全を意識して実験に取り組むこと。
- ・卒論実験における安全については、研究分野ごとに特殊な内容があるので、指導教員等の指示に従い、作業の安全を確認して実験すること。
- ・各実験室等が開催する安全講習会等に積極的に参加し、学内ルール等を遵守すること。

また、大久保構内安全衛生委員会では、卒論実験、修論実験を主な対象とした「安全のてびき」を発行しているので、活用するとともに、不明な点は関係する実験室等の技術職員に問い合わせてほしい。（メールでの問合せ先：anzen@sci.waseda.ac.jp）「安全のてびき」は、各実験室、技術企画総務課で入手することができるほか、次のURLから確認することができる。

大久保キャンパス安全ガイド：http://www.tps.sci.waseda.ac.jp/02_safety/

理工学系の学生として、学内のルールはもちろん、関係する法律・条令を遵守し、自分のみならず、周囲の安全、広くは地球規模の環境安全・保全を意識し行動すること。

緊急時の対応

(1) けが・重病

大けが・重病の場合には、学内緊急電話（正門警備室：内線3000）に連絡すること。緊急の場合（動か

さないほうがよい・動かせない場合も含む)には、直接119番に通報した場合は、救急車誘導のため学内緊急電話にも必ず連絡すること。けがをした人・具合の悪い人が動かせる場合には、総合健康教育センター(大久保分室 51号館1階:内線2640・2641)で処置を受け、必要があれば学外の医療機関で治療を受ける。同センターが不在のときは学内緊急電話(内線3000 外線03-5286-3022)に連絡すること。

(2) 火 災

近くにある消火器で初期消火するとともに、場所・状況等を学内緊急電話(正門警備室:内線3000)に至急連絡し、その指示を受けること。消火器で消火できない場合には、近くの人とともに避難すること。教室棟の廊下等には非常用電話(赤いボックス)が設置されているので、それを使って内線3000に電話することができる。

(3) 地 震

地震が静まるまで、机等の下で身の安全を確保する。その後は、大久保キャンパスには多数の化学薬品等があり、危険なので、中庭などの安全な場所に避難すること。大学は、大学本部・各キャンパスに対策本部を設け、情報の収集、学生・教職員の安全確保をはかることにしてあるので、その指示に従うこと。大学総務部発行の「大地震対応マニュアル(学生用)」を参考にすると良い。

16 海外留学等

海外留学についての時期・学費・単位認定の可否および学部独自のプログラムについては理工学統合事務所教学支援課に相談し、全学生を対象にした本学の海外留学プログラムの内容や応募手続方法などについては、留学センター作成の「STUDY ABROAD留学の手引き」や案内(<http://www.waseda.jp/cie/index-j.html>)をまず参照すること。また、在学生以外も参加できる短期プログラムはエクステンションセンター(<http://www.waseda.jp/extension/index.html>)でも主催している。

全学生を対象にした本学の留学プログラムの概要は、大別すると以下のとおりであるが、留学を検討する学生は、4月と10月に開催される「留学フェア」への参加を勧める。留学の概要説明や注意点、プログラムの情報入手方法、本学留学インフォメーションルーム(早稲田キャンパス22号館3階)の使用方法など、留学を検討するのに有益な情報が得られる。特に長期留学の場合、遅くとも1年以上前からの準備が必要であるため、年間を通して留学応募手続き案内などの具体的日程や情報案内等について、隨時Waseda-netポータルのお知らせや留学センターHPで確認すること。

本学の留学プログラムの留学費用については、プログラムによって取扱いや費用が異なり、また派遣先大学の事情により毎年異なる場合がある。奨学金は、日本学生支援機構の短期留学推進制度奨学金、早稲田大学学生交流奨学金、交換留学奨学金等があり、奨学金の募集要項等は派遣先大学が決定した後に配布される。

プログラムの概要:「長期留学」と「短期留学」

(1) 長期留学

① 早稲田大学交換留学プログラム(学部生、研究科生対象)

海外の協定校から留学生を受け入れ、同時に早大生を派遣する制度。ある程度自由に科目を履修できる。一部の大学をのぞいて学費は、早稲田大学の所属学部・研究科の学費等である。但し、現地で施設費等の

1. 学生の手帳
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 教室の使用
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 建工リエン オフices
18. 禁煙 キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・ 読書室
21. コピーサービスルーム
22. 実験施設
23. 総合健康 教育センター
- 24 交通機関 の影響
25. 天候悪化 の影響

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

支払いが必要となる場合もある。現地受け入れ人数は1-3名が通常で、多種多様な国の大が協定校となっている。英語によるプログラム参加者には、TOEFL®-CBT 173点(iBT 61点)以上が学内選考の出願最低条件となり、非英語によるプログラムでは、現地の言語で授業についていける語学能力が求められる。

② TSA (Thematic Studies Abroad) プログラム（学部生対象）

「テーマに基づいた学習」を中心にカリキュラムを組み立てるプログラム。現地の大学での授業を補助する語学向上のためのサポートが多く存在するのが特徴。学費はそれぞれのプログラムで決められたプログラムフィーを支払う。早大学費は免除となる。現地受け入れ人数はプログラムによってさまざまであるが、概して多めとなっている。実施機関の所在国および地域は、北アメリカ、イギリス・アイルランド、オセアニア、中国やヨーロッパである。

③ ISA (Individualized Studies Abroad) プログラム（学部生対象、一部大学院生可）

交換プログラムと同様、現地大学の通常カリキュラムの中で、現地のコーディネーターと相談しながら、ある程度自由に科目を履修できるプログラム。語学力が低い場合、語学の勉強を義務づけるところもある。学費はそれぞれのプログラムで決められたプログラムフィーを支払う。早大学費等は免除となる。実施機関の所在国および地域は、北アメリカ、イギリス・アイルランド、オセアニアが中心。

④ ダブルディグリープログラム（学部生対象、国立台湾大学は特定の学部生のみ）

海外の名門大学に留学し、所定の要件を満たした場合は早稲田大学を卒業する際に派遣先大学の学位も取得できるプログラム。派遣先で使用される言語の高度な読解力、聴解力、会話力が要求される。本学と当プログラムについて提携する大学については留学センターで確認すること。

(2) 短期留学（数週間）

海外の渡航期間が数週間程度の語学学習および異文化体験を中心とした特別留学プログラム。本学主催箇所としては、留学センター、エクステンションセンター等が、夏季や春季にプログラムを提供している。

(3) その他の留学

自分で希望大学や語学研修機関から入学許可を得、かつ奨学金を受給せずに、いわゆる私費で留学先の学費と生活費をまかなう形の留学形態を私費留学という。私費留学の場合は全ての手続きを自分で行うかもしくは留学斡旋業者を利用して行うことになる。学籍上の扱いについては、ケースによって異なるため理工学統合事務所に確認すること。また、学部独自に主催される留学プログラムが、その都度学部・学科掲示板にて募集される場合がある。

17 理工リエゾンオフィス

理工リエゾンオフィス(55号館S棟1階)は、理工系学部・大学院を取り巻く現況や活動等に関する情報を効率的かつ効果的に社会に発信するとともに、社会との円滑な相互交流の中心的な役割を担うため、学生・校友・教職員のコミュニケーションの活性化を目指して設立された機関である。

具体的には、「インターンシップセミナー」「テクノロジー&キャリアナビ」を主催し、「インターンシップ」「理工系アルバイト求人」「学会受賞や研究トピック」等々、積極的にWeb発信している。

特に「テクノロジー&キャリアナビ」では、企業による勉強・研究の滋養やキャリア形成に資する話を聴講でき、アドバイスを受けられる貴重な機会である。積極的に参加することを推奨する。

詳しくは<http://www.all-waseda.com/>を参照すること。

18 禁煙キャンパス

受動喫煙（他人のタバコの煙を吸わされること）の防止を謳った健康増進法の施行、文部科学省通達、新宿区条例の施行および分煙化徹底についての本学理事会決定に基づき、大久保キャンパスにおける分煙ルールを以下のように定めている。各自、分煙ルールを厳守すること。また、通学中の路上喫煙に関しては、マナーとルールを守ること。早大生としての自覚を持った行動が望まれる。

1. 「喫煙指定場所」を除き、公共の場所（教室・ゼミ室、実験室、会議室、ラウンジ、ホワイエ、アトリウム、図書館・学生読書室、生協施設、中庭、廊下・階段・通路・エレベータ、トイレ等）、および屋外エリアを禁煙とする。
2. 研究室など、ゼミや学生指導を行う場は教室とみなし、禁煙とする。
3. 歩行喫煙は厳禁とする。

19 自転車、バイクおよび自動車の通学利用禁止

学生が大久保構内へ自転車、バイク、自動車を乗り入れ、駐輪・駐車することは、原則として禁止している。また、周辺道路も終日駐車禁止となっているため、自転車、バイクおよび自動車を通学に利用することを禁止する。

これまでも、本学の学生と思われる正門前道路や明治通り側歩道等の違法駐輪・駐車に対して近隣住民からたびたび苦情が寄せられ、所轄の警察署からも再三にわたり厳しい注意をうけている。また、この迷惑駐車が原因となって交通事故も発生している。厳守すること。自分だけはという意識を捨て、早大生としての自覚を持った行動が望まれる。

20 理工学図書館・学生読書室

大久保キャンパスには理工学図書館と理工学生読書室がある。両者を総称する「早稲田大学理工学図書館」は早稲田大学における理工系学術情報の中心として、教育研究を支える重要な機関と位置付けられている。

理工学図書館は教職員、大学院生や学部の高学年学生を主たる利用対象者として設置された研究図書館である。蔵書構成は理工系分野の内外の学術雑誌（約7,600タイトル）を中心に、約30万冊を所蔵している。

理工学生読書室は理工学系院学生を主な利用対象に設置された学習図書館である。理工系分野の一般図書の他、授業のカリキュラムに即した教科書や参考書が配架されている（所蔵図書数約10万冊）。

この他、大久保キャンパス以外にも中央図書館をはじめ戸山図書館、所沢図書館等があり利用することができる（他図書館の利用についてはそれぞれの利用規則に従うこと）。各図書館の情報は学術情報ネットワークシステム（WINE）で結ばれており、インターネットで検索が可能である（<http://wine.wul.waseda.ac.jp/>）。全国の大学の中でも比較的充実した図書、電子ジャーナルを有しており、是非有効に活用してもらいたい。

利用上の注意については、利用案内およびホームページ（<http://www.wul.waseda.ac.jp/RIKOU/index-j.html>）を参照すること。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄
1. 学生の手帳
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 教室の使用
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 理工リエン オフィス
18. 禁煙 キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・ 読書室
21. コピーサーブルーム
22. 実験施設
23. 総合健康 教育センター
24 交通機関 の影響
25. 天候化 の影響

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

(1) 理工学図書館 51号館地階 座席数 206席

開館時間 月～金：9時30分～21時（授業休止期間は20時まで）

土：9時30分～19時

閉館日：日曜日・祝日および本学の定めた休日、その他必要のある場合は閉館する。

① 閲覧室〔新着雑誌閲覧室〕（座席数 102 席）

内外の新着雑誌の最新一年分を配架している。外国雑誌は誌名のABC順、国内雑誌は誌名の五十音順に配架してある。

② 参考図書コーナー

辞書、事典、便覧、ハンドブック、地図等の参考図書が配架されている。

③ 新聞コーナー

朝日・毎日・読売・日経・日刊工業新聞等1ヶ月分を閲覧できる。

④ レファレンス・サービス

研究・調査を進めていく上で、図書館を活用して必要な文献・情報を入手できるよう、質問・相談に応じている。必要な文献が図書館にない場合は、相互協力によって国内外の機関より文献の複写（実費負担）などを取り寄せることができる。

⑤ オンライン・データベースや電子ジャーナルの提供（理工学図書館外国雑誌/電子ジャーナル/データベース：<http://www.wul.waseda.ac.jp/RIKOU/gaikokusi/HP-journalindex.htm>）

理工系のオンライン・データベース（JDreamⅡ, ISI Web of Science, MathSciNet等）や電子ジャーナル（ScienceDirect, Wiley InterScience, SpringerLINK, IEL等）を学内ネットワークで豊富に提供している。卒業論文の作成時等において関連する研究を調査するには大変便利なツールである。

⑥ 書 庫

書庫は上・下2層にわかれ、上層（B1）には主に合冊製本された和雑誌と和・洋の図書が分類順に配架されている。書庫の下層（B2及び増設書庫）には合冊製本された洋雑誌が配架されている。

1. 学生の手帳
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院選進
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 教室の使用
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 在りエンジニアリングオフィス
18. 禁煙 キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・ 読書室
21. コンピュータ ルーム
22. 実験施設
23. 能力開発 教育センター
24. 交通機関 の影響
25. 天候悪化 の影響

(2) 学生読書室 52, 53号館地階 416席

書庫開室時間 月～金：9時30分～21時

土：9時30分～19時

閲覧室開室時間 月～金：9時～21時

土：9時～19時

ただし、授業休止期間中および試験期間中は時間を変更するので理工学図書館ホームページおよび掲示に注意すること。

閉室日：日曜日・祝日および本学の定めた休日、その他必要ある場合は閉室する。

① 閲覧室（53号館地階）

キャンパス内で静かに学習するために活用できる場所である。そのため私語、雑談、携帯電話利用等、他人に迷惑をおよぼすような行為は厳重につつしみ、お互いにマナーを守りながら利用すること。

② 書庫・受付（52号館地階）

図書の貸出・返却手続き、利用したい図書の問い合わせ、リクエスト等に応じている。

21 コンピュータ・ルーム

大久保キャンパスには、約700台のコンピュータが授業等で利用されている。授業等による利用が優先されるが、利用していない時間帯は、レポート作成やインターネット閲覧など自由に利用することができる（オープン利用）。

63号館 3階

名称	収容人数	用途
Aルーム	80名	標準コンピュータルーム（島型）
Bルーム	80名	
Cルーム	100名	
Dルーム	48名	標準コンピュータルーム（教室型）
Eルーム	48名	
Fルーム	48名	主に語学授業の利用を想定したコンピュータルーム（教室型）
Gルーム	48名	

その他

名称	収容人数	場所
製図/CAD室	208名	57号館 1階
情報閲覧室	10名	53号館 地下1階

各コンピュータルームの利用状況は、インフォメーションパネルおよび理工メディアセンターのホームページで確認できる。（⇒ <http://www.mse.waseda.ac.jp/>）

〈相談窓口〉

学内の情報環境や各種サービス利用についての相談窓口として、ヘルプデスクが63号館3階南側に設けられている。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

- 1. 学生の手帖
- 2. ホームページ
- 3. 学籍番号
- 4. クラス担任
- 5. 学生相談
- 6. 大学院進学
- 7. 就 職
- 8. 学生証
- 9. 証明書交付
- 10. 各種願提出
- 11. 奨学金
- 12. 掲 示
- 13. 教室の使用
- 14. 課外活動
- 15. 安全管理
- 16. 海外留学
- 17. 理工エンジニアリングオフィス
- 18. 禁煙 キャンパス
- 19. 自転車禁止
- 20. 図書館・読書室
- 21. コピートースルーム
- 22. 実験施設
- 23. 総合健康教育センター
- 24 交通機関の影響
- 25. 天候悪化の影響

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職

8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金

12. 掲 示
13. 教室の使用
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学

17. 施設リソースオフィス
18. 禁煙キャンパス
19. 自転車禁止

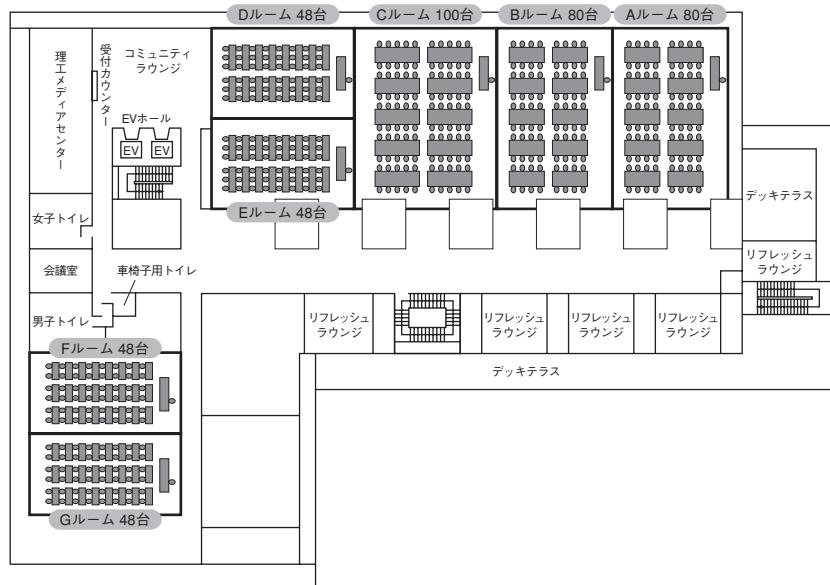
20. 図書館・読書室

21. コンピュータールーム

22. 実験施設

23. 能力開発教育センター
24. 交通機関の影響
25. 天候悪化の影響

63号館3階 情報フロアマップ



○Windows環境を利用する

全てのコンピュータールームでWindowsが利用できる。Word, Excel, PowerPointの他, 理工系ソフトウェア, ソフトウェア開発環境などが用意されている。Windowsの利用には, 入学時に登録手続きを行うWaseda-netのIDとパスワードが必要。

○UNIX環境を利用する

全てのコンピュータールームからUNIX環境への接続ができる。主にプログラミング言語やアルゴリズム, 数値解析などの授業で利用されている。UNIX環境の利用には, Waseda-netポータルの「理工系学生ページ」より利用申請が必要。

○語学学習環境を利用する

Fルーム及びGルームでは, ヘッドセットが常設されており, 語学学習を支援するシステム（コールシステム）が利用できる。主に語学の授業およびオープン利用時の自主学習で活用されている。

22 実験施設紹介

(1) 共通実験室

大久保キャンパスには、1年次, 2年次に履修する基礎実験科目や各学科が設置している専門実験科目などを実施する教育実験施設がある。これらを学科の枠を越えて共通的に利用していることから共通実験室と呼んでいる。これらの実験室では実験教育を中心に実施しているが, ここで保有する設備は研究活動にも広く利用されている。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

○理工学基礎実験室

理工学基礎実験室では、「理工学基礎実験1」および「理工学基礎実験2」を実施している。それぞれの学問分野ごとに、物理系基礎実験室・化学系基礎実験室・生命科学系基礎実験室・工学系基礎実験室の4つの実験室で構成されている。

(物理系基礎実験室)

「理工学基礎実験1」の物理系分野の基礎実験を行っている。ものづくりをベースとした創造的でユニークな実験を通して物理学の基礎を学ぶ。

(化学系基礎実験室)

「理工学基礎実験1」および「理工学基礎実験2」の化学系分野の基礎実験を行っている。実際に自分の手で試験管を振り、目で見て、匂いを嗅ぐことを繰り返しながら化学の基礎を学ぶ。

(生命科学系基礎実験室)

「理工学基礎実験1」の生命科学系分野の基礎実験を行っている。細胞の観察やDNAの抽出などの生命科学系の基礎を学ぶ。

(工学系基礎実験室)

「理工学基礎実験2」の工学系分野の基礎実験を行っている。走査型電子顕微鏡操作やコンピュータ自動計測などを通して、高度で実践的な工学系の基礎技術を修得する。

○材料実験室

各種構造材料の強度試験・物性試験や構造物の強度評価に関する専門実験を実施している。

○工作実験室

機械工作設備を用いた機械工作実習を行う実験室。工作指導を受けながら研究実験用の実験装置・部品加工や試作などを行うことができる。

○熱工学実験室、流体実験室、制御工学実験室

これらの実験室ではそれぞれ、熱工学、流体工学、制御工学に関する専門実験を実施している。流体実験室では水理・水質に関する専門実験も実施している。

○製図・CAD室

約400台のドラフター（製図台）を有し、製図の基礎を習得する実習やCAD（コンピュータを使用した）による設計製図演習の授業が行われている。

○測量実習室

さまざまな測量機器を用いた測量実習を実施している。測量実習以外にも写真測量による自然環境変化

- 1. 学生の手帖
- 2. ホームページ
- 3. 学籍番号
- 4. クラス担任
- 5. 学生相談
- 6. 大学院進学
- 7. 就職
- 8. 学生証
- 9. 証明書交付
- 10. 各種願提出
- 11. 奨学金
- 12. 掲示
- 13. 教室の使用
- 14. 課外活動
- 15. 安全管理
- 16. 海外留学
- 17. 建工エンジニアリングオフィス
- 18. 禁煙キャンパス
- 19. 自転車禁止
- 20. 図書館・読書室
- 21. コピートースルーム
- 22. 実験施設
- 23. 総合健康教育センター
- 24. 交通安全の影響
- 25. 天候悪化の影響

I	特 徴
II	沿革と概要
III	学部要項
IV	学生生活
V	付 錄

の判読や計測測定、遺跡調査等の研究に利用されている。

○電気工学実験室

電気・電子系分野および情報通信分野の専門実験を実施している。また、電圧・電流・磁場の測定や回路製作などに関する技術相談も行っている。

○化学分析実験室

重量分析・容量分析・機器分析など無機分析化学の専門実験を実施している。古典的な化学分析の基礎から大型装置を使用した機器分析まで幅広い知識と技術を習得することができる。

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 教室の使用
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 建てりエンジニアリングオフィス
18. 禁煙 キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館、 読書室
21. コンピュータ ルーム
22. 実験施設
23. 能力開発 教育センター
24 交通機関 の影響
25. 天候悪化 の影響

(2) 研究用共同利用施設

研究用共同利用施設では、研究用として共同利用が可能な大型装置や精密計測機器などが集中的に管理され、幅広い研究活動に利用されている。また、それぞれの機器利用講習会や技術相談なども行われている。

○物性計測センターラボ

物性計測センターは、物質の構造を解析するための研究用共同利用施設である。研究室に配属された4年生から大学院修士課程、博士後期課程、研究員まで様々な分野の研究で利用されている。最先端の研究用計測機器が整備されているため、学内だけでなく他大学や研究機関などからの利用もある。

○マイクロテクノロジーラボ

半導体加工装置やクリーンルームを研究用の共同利用設備として開放している。機械工学、物性物理、化学、材料工学など幅広い分野の研究者に利用されている。

○映像情報ラボ

マルチメディア研究や教材作成などのための映像情報系機器を、共同利用設備として開放している。大型カラープリンターを用いた学会発表やプレゼンテーション用のポスター作成などを行うこともできる。

○映像情報ライブラリー

語学学習教材などを視聴できるAVブースが20セットあり、各ブースには、VHSデッキ、DVDプレーヤー、LDプレーヤーが設置されている。専門別教材が約600本、語学教材が約300本、映画やドキュメンタリーが約950本用意されており、自由に視聴することができる。

23 総合健康教育センター大久保分室

総合健康教育センター

総合健康教育センターは学生が健康な状態で大学生活が送れるように、健康の基礎作りと生涯を通じて心身の健康の自己管理能力を身につけるよう援助していくことを目的に設置されている。

なお、詳細については、ホームページ (<http://www.waseda.jp/kenkou/center/HSC/>) を参照すること。

総合健康教育センター：25-2号館（早稲田キャンパス）

事務所（2階）Tel 03-3202-0580（直通）

診療室（3階）Tel 03-5286-3984（直通）

保健管理室（5階）Tel 03-5286-9800（直通）

学生相談室（6階）Tel 03-3203-4449（直通）

大久保分室

総合健康教育センター大久保分室（51号館1F）の前室は常時開室しているので、簡単な傷の手当等必要な場合は何時でも利用できるようになっている。また、健康やからだに関する相談も隨時受付けている。

（1）保健管理室

① 開室時間 月～金 9：00～17：00 Tel. 03-5286-3021

（医師による診察受付時間 月～金 13：30～15：40）

② 業務内容

- ・応急救急処置、傷病者の休養、定期健康診断、特殊健康診断の実施及び事後処理
- ・各種健康診断書の発行、健康相談、保健指導、その他の相談

（2）学生相談室（51号館1F西側19A室）

開室時間 週3回 13：00～17：00 Tel 03-5286-3082（直通）

心理相談、一般相談に心理専門相談員が応じている。

（開室時間以外は早稲田キャンパス学生相談室で受付）

学校伝染病「学校において予防すべき伝染病」について

下記の伝染病にかかった時は、他の者への感染防止のため学校保健法第12条により出席が停止となる。出席停止の期間は、伝染病の種類に応じて決められている。出席停止期間中の授業および試験については、以下のような手続きを行なうこと。

- (1) 診断してもらった医師に診断書を書いてもらう。
- (2) 所属学部の事務所に電話にて報告する。
- (3) 治癒後、事務所に診断書を提出する。
- (4) 科目（試験）ごとの担当教員に診断書および欠席届けを提出して、指示をうける。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学生の手帳
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲示
13. 教室の使用
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 建工リエンジニアリングオフィス
18. 禁煙キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・読書室
21. コピィングルーム
22. 実験施設
23. 総合健康教育センター
24. 交通機関の影響
25. 天候悪化の影響

I 特 徴
II 治革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

(学校において予防すべき伝染病の種類)

第1種の伝染病：治癒するまで出席停止（感染症予防法の1・2類感染症、結核を除く）

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、重症急性呼吸器症候群（SARSコロナウィルスであるもの）、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア

第2種の伝染病：飛沫感染する伝染病で、学校において流行を広げる可能性が高いもの

インフルエンザ（解熱した後2日を経過するまで）、百日咳（特有の咳が消失するまで）、麻疹（解熱した後3日を経過するまで）、流行性耳下腺炎（耳下腺の腫脹が消失するまで）、風疹（発疹が消失するまで）、水痘（すべての発疹が痂皮化するまで）、咽頭結膜熱（主要症状が消退した後2日を経過するまで）、結核（伝染のおそれがないと認めるまで）

第3種の伝染病：学校教育活動を通じ、学校において流行を広げる可能性があるもの

コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の伝染病

*資料 学校保健法施行規則

24 交通機関のストライキと授業

(1) JR等交通機関のストが実施された場合（ゼネスト）、首都圏におけるJRのストが

- ① 午前0時までに中止された場合、平常通り授業を行う。
- ② 午前8時までに中止された場合、授業は3時限目（午後1時）から行う。
- ③ 午前8時までに中止の決定がない場合は、授業は終日休講とする。

上記は、JRの遵法闘争および私鉄のストには適用しない。

(2) 首都圏JRの部分（拠点）ストが実施された場合、平常通り授業を行う。

(3) 首都圏JRの全面時限ストが実施された場合

- ① 午前8時までストが実施された場合、授業は3時限目（午後1時）から行う。
- ② 正午までストが実施された場合、6時限目（午後6時）から授業を行う。
- ③ 正午を越えてストが実施された場合、授業を終日休講とする。

(4) 私鉄、都市交通のみがストを実施した場合、平常通り授業を行う。

(5) 人間科学部・スポーツ科学部に設置された授業科目を受講する者については、上記(1)・(2)・(3)は適用されるが、(4)については

- ① 西武鉄道新宿線または西武鉄道池袋線のどちらか一方でもストが実施された場合
 - ② ①の西武鉄道両線のストが実施されない場合でも、西武バスのストが実施された場合
- 次のとおりとする。

A 午前8時までストが実施された場合、授業は3時限目（午後1時）から行う。

B 午前8時を越えてストが実施された場合、授業は終日休講とする。

25 天候悪化（台風・大雪等）による休講等の取扱いについて

台風、大雨、洪水、暴風、暴風雪、大雪等の天候悪化に伴いキャンパスが危険であると大学が判断した場合、授業休講・試験延期の措置をとることがある。

その場合は原則として、各時限の授業・試験開始60分前までに決定し、本学ホームページ

(<http://www.waseda.jp/top/index-j.html>) にて広報・周知する。ただし、気象状況が悪化し、危険であると判断した場合は、60分前を過ぎても休講・試験の延期を決定することがある。

また、台風や大雪等、気象状況が時間の経過とともに悪化することが十分予測される場合は、前日に授業の休講・試験の延期措置の決定を行うことがある。

その場合は、前日の午後7時までに決定の判断を行い、本学ホームページに前日の午後9時までに掲載して広報・周知する。

なお、授業および試験が実施される場合でも、学生はキャンパスまでの交通経路内に気象庁による気象警報が発表され、気象状況等に鑑みて通学することが危険又は困難であると自身で判断し、欠席した場合には、所属学部（研究科）による承認済みの欠席届をもって、該当科目の担当教員へ申し出ること。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学生の手帖
2. ホームページ
3. 学籍番号
4. クラス担任
5. 学生相談
6. 大学院進学
7. 就 職
8. 学生証
9. 証明書交付
10. 各種願提出
11. 奨学金
12. 掲 示
13. 教室の使用
14. 課外活動
15. 安全管理
16. 海外留学
17. 建工リエン オフィス
18. 禁煙 キャンパス
19. 自転車禁止
20. 図書館・ 読書室
21. コピーカ ルーム
22. 実験施設
23. 総合健康 教育センター
- 24 交通機関 の影響
25. 天候悪化 の影響

V

I 特 徵

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

付 錄

1 早稲田大学学則（抜粋）

1. 学則(抜粋)

2 早稲田大学校歌

2. 校歌

3 早わかり URL・電話番号

3. URL・
電話番号

4 キャンパスマップ

4. キャンパス
マップ

1 早稲田大学学則（抜粋）

第1章 総 則

第1条 本大学は学問の独立を全うし真理の探究と学理の応用に努め、深く専門の学芸を教授し、その普及を図るとともに、個性ゆたかにして教養高く、国家および社会の形成者として有能な人材を育成し、もって文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。

第5条 本大学の修業年限は、4年とする。ただし、在学年数は、8年を超えることができない。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

第2章 学年、学期、休業日

第7条 本大学の学年は4月1日に始り、翌年3月31日に終る。学年は次の2期に分ける。

前 期 4月1日から9月20日まで

後 期 9月21日から翌年3月31日まで

(学部暦参照、学部ホームページ参照)

1. 学則(抜粋)
2. 校歌
3. URL・電話番号
4. キャンパスマップ

第8条 定期休業日は次のとおりとする。

一 日曜日

二 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

三 本大学創立記念日（10月21日）

四 夏季休業 8月上旬から9月20日まで

五 冬季休業 12月下旬から翌年1月7日まで

六 春季休業 2月中旬から3月31日まで

2 夏季、冬季、春季休業期間の変更または臨時の休業日については、その都度公示する。

第9条 休業中でも、特別の必要があるときは、授業をすることがある。

第3章 教育課程・授業科目・単位数

第10条 各学部は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、各学部は、その専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

第11条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

2 自由科目は、第52条に定める所定の単位数に算入しない。

3 他の学部に属する授業科目を選択科目または自由科目として履修することができる。

第12条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して定める。

第13条 講義科目および演習科目については、15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 実験、実習および実技については、30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもつて1単位とする。

3 卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

第15条 各学部の授業科目ならびにその授業期間、毎週授業時間および単位数は、学部要項Ⅱに記載のとおりとする。

第19条 教員の免許状を得ようとする者は、所属学部の科目のほかに教育学部に配置された教職課程の科目を履修しなければならない。

第23条 学生は毎学年または毎学期の始めに当該学年または学期に履修する科目を選定して所属の学部長の承認を得なければならない。

第6章 入学・休学・退学・転学・懲戒

第26条 入学時期は、毎学年または毎学期の始めとする。

第31条 入学または転入学、学士入学および編入学を許可された者は、大学が指定する入学手続期間内に、大学に別表1に定める入学金および最初の学期に係る授業料その他の学費を納め、所定の書類を提出しなければならない。

第32条 保証人は、父兄または独立の生計を営む者で確実に保証人としての責務を果し得る者でなければならぬ。保証人として不適当と認めたときは、その変更を命ずることができる。

第33条 保証人は、保証する学生の在学中、その一身に関する事項について一切の責任に任じなければならない。

第34条 保証人が死亡し、またはその他の事由でその責務を尽し得ない場合には新たに保証人を選定して届けなければならない。

第35条 保証人が住所を変更した場合には、直ちにその旨を届けなければならない。

第36条 病気その他の理由で引き続き2月以上出席することができない者は、その理由を具し、保証人連署で所属の学部長に願いで、その許可を得て休学することができる。病気を理由とする休学願には医師の診断書を添えなければならない。

第37条 休学は、当該学年限りとする。ただし、特別の事情のある場合には、引き続き休学を許可することがある。この場合、休学の期間は、連続して2年を超えることができない。

2 休学の期間は、通算して4年を超えることができない。

第39条 休学者は、学期の始めでなければ復学することができない。

第40条 休学期間は、在学年数に算入しない。

第44条 病気その他の事故によって退学しようとする者は、理由を具し、保証人連署で願いでなければならない。

第45条 正当な理由で退学した者が再入学を志望したときは、選考の上これを許可することができる。この場合には、既修の科目的全部または一部を再び履修することができる。

第46条 学生が本大学の規則もしくは命令に背きまたは学生の本分に反する行為があったときは、懲戒処分に付することができる。懲戒は、謹責、停学、退学の3種とする。

第47条 次の各号の一に該当する者は、退学処分に付する。

- 一 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 二 学業を怠り成績の見込みがないと認められる者

三 正当の理由がなくて出席常でない者

四 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第7章 試験・卒業・称号

第49条 所定の科目を履修した者に対しては、毎学年末または毎学期末に試験を行い、合格した者に対しては、単位を与える。ただし、教授会において認められた科目については、平常点をもって試験に代えることができる。

2 前項の定期試験のほかに、各教授会の決議によって臨時に試験を行うことがある。

第50条 試験の方法は、筆記試験、口述試験および論文考査の3種とし、各教授会がこれを決定する。

第51条 試験（第49条の規定により平常点をもって試験に代える場合を含む。）の成績は、A⁺、A、B、CおよびFの五級に分かち、A⁺、A、BおよびCを合格とし、Fを不合格とする。ただし、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる科目については、PおよびQの二級に分かち、Pを合格とし、Qを不合格とすることができる

第52条 本大学に4年以上在学して所定の試験に合格し、所定の単位を修得した者を卒業とし、学士の学位を授与する。ただし、在学期間に關しては、所定の単位を優れた成績で修得したと各教授会が認めた場合に限り、3年以上在学すれば足りるものとする。

第53条 この学則に定めるもののほか、学位に付記する専攻分野名その他学位に關し必要な事項は、早稲田大学学位規則（1976年教務達第2号）をもって別に定める。

第8章 入学検定料・入学会員料・授業料・実験実習料・体育費・学生読書室・図書費・施設費等

第56条 学生は、第31条の場合を除き、次の各号に掲げる学期に係る「学費の納入と抹籍」に定める授業料その他の学費（以下「授業料等」という。）を当該各号に掲げる日までに大学に納めなければならない。

一 前期 4月15日

二 後期 10月1日

2 前項の規定にかかわらず、修業年限を超えて在学する者の授業料等の額および納入期日は、細則で定める。（学費の納入と抹籍参照）

第58条 既に納めた授業料等は、事情のいかんにかかわらず、これを返還しない。

第59条 学年の中途で退学した者でも、その学期の学費はこれを納めなければならない。

第60条 学費の納付を怠った者は、抹籍することがある。

学費未納による抹籍の取扱いに関する規程

（抹籍となる時期および取扱い）

第2条 別表1の学期欄に掲げる学期の授業料その他の学費（以下「授業料等」という。）を同表の納入期日欄に掲げる日までに納付しない者は、同表の自動的に抹籍となる日欄に掲げる日に自動的に抹籍とし、同表の退学とみなす日欄に掲げる日に遡り、退学とみなす。

2 前項の規定にかかわらず、授業料等の納入期日にその納付を怠った者が、別表1に定める自動的に抹籍となる日より前に、特別の事情によって抹籍の取扱いを願い出たときは、学術院に属する学部または

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学則（抜粋）
2. 校歌
3. URL・電話番号
4. キャンパスマップ

研究科にあっては学術院の教授会（当該教授会が学部運営委員会または研究科運営委員会の審議事項と定めた場合は研究科運営委員会），いずれの学術院にも属さない独立研究科にあっては研究科運営委員会（以下「教授会等」という。）の議を経て抹籍とし，別表1に定める日に遡り，退学とみなすことができる。

3 前項の規定による願い出をする者は，保証人連署で願い出なければならない。

（未納学費を納入した者の取扱い）

第3条 第2条の規定の適用を受けた者が，未納学費を納入したときは，教授会等の議を経て，未納学費の納入期日の属する期までの学籍を認めることができる。ただし，抹籍となる日を超えることはできない。

（卒業または修了の要件を具備している者の抹籍の時期および取扱い）

第5条 卒業または修了の要件を具備しながら学費未納のため，卒業または修了を保留された者は，別表2に定める日に自動的に抹籍とし，別表2に定める日に遡り，退学とみなす。

（卒業または修了の要件を具備している者が未納学費を納入したときの取扱い）

第6条 前条の規定の適用を受けた者が未納学費を納入したときは，教授会等の議を経て，その納入した日より前の最も近い卒業期または修了期の卒業または修了とする。

別表1

学 期	納 入 期 日	自 動 的 に 抹 鑑 と な る 日	退 学 と み な す 日
前 期	4月15日	9月20日	3月31日
後 期	10月1日	翌年の3月31日	9月20日

別表2

卒業・修了月日	学費の納入期日	自動的に抹籍となる日	退学とみなす日
3月15日	前年の10月1日	5月15日	前年の9月20日
9月15日	4月15日	11月15日	3月31日

2 校歌

早稻田大学校歌

相馬　御風　作詞
東儀　鉄笛　作曲

あれ見よかしこの常盤の森は
心のふるさとわれらが母校
集まり散じて人はあれど
仰ぐは同じき理想の光
いざ声そろへて空もどろに
われらが母校の名をばたたへん
わせだわせだわせだわせだ
わせだわせだわせだ

東西古今の文化のうしは
一つに渦巻く大島国の大なる使命を担ひて立てる
われらが行手は窮り知らずやがても久遠の理想の影は
あまねく天下に輝き布かんわせだわせだわせだわせだ
わせだわせだわせだ

都の西北早稲田の森に
聳ゆる甍はわれらが母校
われらが日ごろの抱負を知るや
進取の精神学の独立
現世を忘れぬ久遠の理想
かがやくわれらが行手を見よや
わせだわせだわせだわせだ
わせだわせだわせだ

3 早分かり URL・電話番号

要項やホームページを見ても理解できない場合のために、下記を紹介。

I 特 徴
II 沿革と概要
III 学部要項
IV 学生生活
V 付 錄

1. 学則 (抜粋)

2. 校歌

3. URL・
電話番号

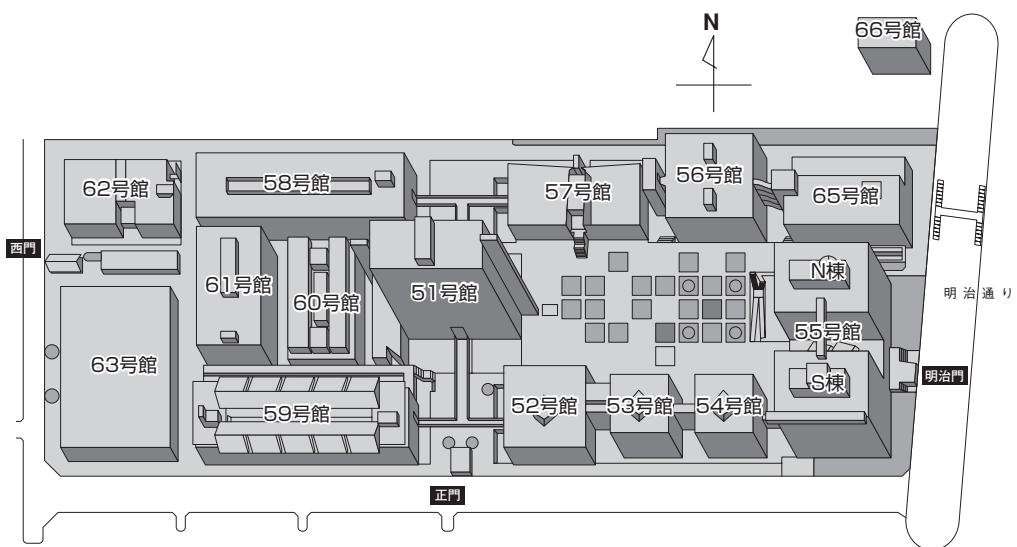
4. キャンパス
マップ

内 容	担当・掲載場所等	電話番号	URL、メールアドレス等
科目登録、試験、成績、証明書、サークル、学費、奨学金、留学、休学、退学等修学に関わることで質問したい。	教学支援課	03-5286-3002	gakumu@sci.waseda.ac.jp
入試、転科、教員の研究内容、カリキュラム体系、ホームページ、広報等に関わることで質問したい。	業務開発・入試課	03-5286-3003	gyoumu@sci.waseda.ac.jp
構内掲示、自転車駐輪、会議室管理・予約、TA、各種研究助成制度等で質問したい。	総務課	03-5286-3000	
Waseda-netの使用方法、パソコン全般について質問したい。	理工メディア	03-5286-3049	helpdesk@mse.waseda.ac.jp
英語の単位修得基準、履修方法等について知りたい。	英語教育センターホームページ		http://www.sci.waseda.ac.jp/office/ENGLISH/
勉強の進め方や卒業に必要な科目等、個人的にクラス担任と相談したい。	理工学術院ホームページ		http://www.sci.waseda.ac.jp/office/index-j.files/classtannin.html
特定の教員と連絡が取りたい。	理工学術院ホームページ		http://www.sci.waseda.ac.jp/office/index-j.files/classtannin.html
休講情報を知りたい。	理工学術院ホームページ		http://www2.sci.waseda.ac.jp/LOCAL/kyuko/ (学内のみ参照可能)
端末などを廃棄したい。物が壊れている。	技術企画総務課	03-5286-3500	http://www.tps.sci.waseda.ac.jp/
怪我をした。頭痛がする。	総合健康教育センター大久保分室	03-5286-3021	http://www.waseda.jp/kenkou/center/HSC/
留学生で、学生生活が不安だ I am an international student. Student life is uneasy.	国際交流支援室 International exchange support room	03-5286-3145	gakumu@sci.waseda.ac.jp
連絡バスの時刻表が知りたい。	理工学術院ホームページ		http://www.sci.waseda.ac.jp/koho/bus.html
図書館の開室時間等について知りたい。	理工学図書館	03-5286-3084	riko-tosho@list.waseda.jp
生協の営業時間、生協での書籍販売、カフェテリアについて質問したい。	早稲田大学生協	03-3200-4206	info@wcoop.ne.jp
上記には当てはまらないが、質問がある。	理工学統合事務所代表	03-5286-3000	info@sci.waseda.ac.jp

4 キャンパスマップ

- I 特徴
- II 沿革と概要
- III 学部要項
- IV 学生生活
- V 付録

- 1. 学則（抜粋）
- 2. 校歌
- 3. URL・電話番号
- 4. キャンパスマップ



理工メディアセンター ヘルプデスク 63号館3階	理工学基礎実験室 (生命系) 61号館3階	理工学基礎実験室 (化学系) 56号館5階	理工学統合事務所 51号館1階
コンピュータールーム・A~G PC452台 63号館3階	映像情報ライブラリー 61号館3階	理工学基礎実験室 (物理系) 56号館2階	総合健康教育センター 大久保分室 51号館1階
理工レストラン 63号館1階	製図・CAD室 PC208台 57号館1階	理工カフェテリア 56号館地下1階	学生相談室 51号館1階
理工学基礎実験室 (工学系) 63号館地下1階	生協購買部、書籍部 57号館地下1階	学生読書室 52号館, 53号館地下1階	学生ラウンジ 51号館1階
		情報閲覧室 PC10台 53号館地下1階	理工学図書館 51号館地下1階

学科・専攻別連絡事務室一覧

基幹理工

数学科
数学応用数理専攻
63号館1階01

応用数理学科
数学応用数理専攻
63号館1階01

情報理工学科
情報理工学専攻
63号館1階01

機械科学・航空学科
機械科学専攻
60号館2階08

電子光システム学科
63号館1階01

表現工学科
51号館04階00

創造理工

建築学科
建築学専攻
55号館N棟2階03

総合機械工学科
総合機械工学専攻
60号館2階08

経営システム工学科
経営システム工学専攻
51号館13階00

社会環境工学科
建設工学専攻
51号館17階07B

環境資源工学科
地球・環境資源理工学専攻
51号館13階

知財・産業社会政策領域
51号館04階00

国際文化領域
51号館04階00

先進理工

物理学科
物理学及応用物理学専攻
55号館N棟2階03

応用物理学科
物理学及応用物理学専攻
55号館N棟2階03

化学・生命化学科
化学・生命化学専攻
55号館N棟2階03

応用化学科
応用化学専攻
55号館N棟2階03

生命医学科
生命医科学専攻
50号館3階
先端生命医科学センター事務所内
〒163 新宿区若松町2番2号

電気・情報生命工学
電気・情報生命専攻
55号館N棟2階03

生命理工学専攻
55号館N棟2階03
ナノ理工学専攻
63号館1階01

英語教育センター
51号館04階00

I 特 徴

II 沿革と概要

III 学部要項

IV 学生生活

V 付 錄

1. 学則(抜粋)

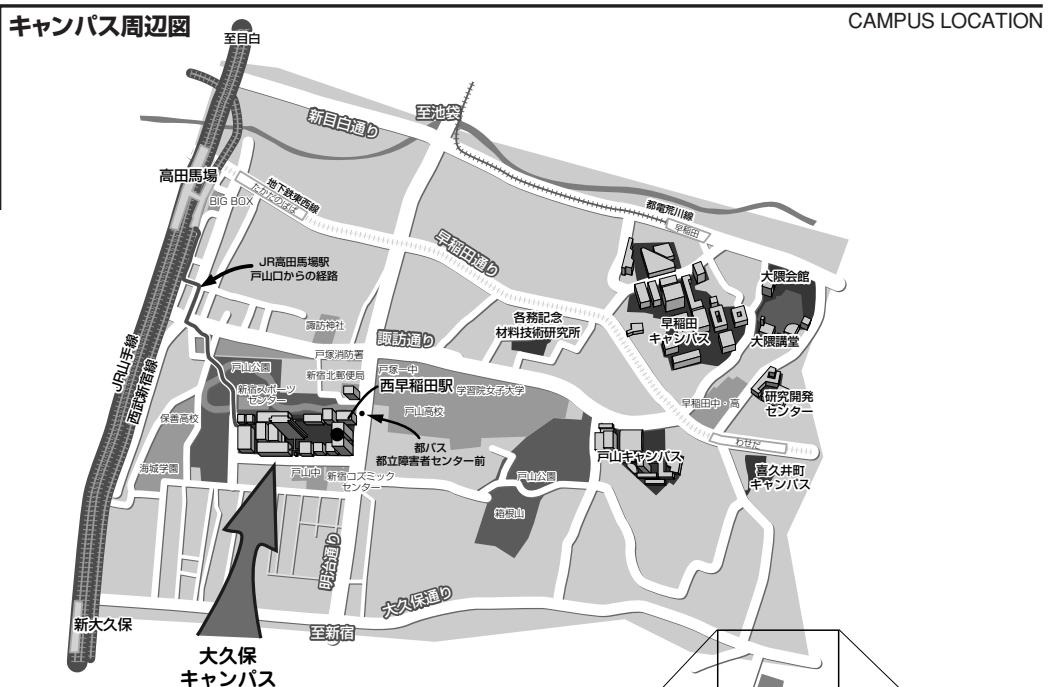
2. 校歌

3. URL・
電話番号

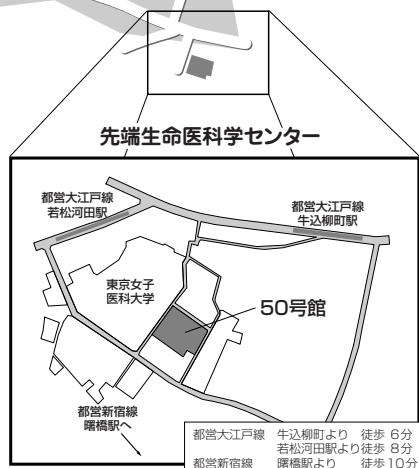
4. キャンパス
マップ

OKUBO CAMPUS

早稲田大学大久保キャンパス



JR(山手線)	高田馬場駅 戸山口下車	徒歩10分
JR(山手線)	新大久保駅 下車	徒歩10分
東京メトロ東西線	高田馬場駅 下車	徒歩12分
東京メトロ副都心線	西早稲田駅 下車	徒歩 1分
(平成20年度中開通予定)		
西武新宿線	高田馬場駅 下車	徒歩12分
都バス	都立障害者センター前 下車 徒歩1分 高田馬場駅(高71)九段下行き 池袋駅東口(池86)渋谷駆け 新宿駅西口(早77)早稲田駅	





早稲田大学 基幹理工学部
〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1
<http://www.sci.waseda.ac.jp/>
info@sci.waseda.ac.jp